

# Hyogo University of Health Sciences



## 兵庫医療大学年報

平成19年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学

# 大学年報発刊にあたって

ご 挨 拶

学 長 松田 暉

兵庫医療大学は昨年4月、神戸のポートアイランドの地に兵庫医科大学の姉妹大学として薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部を持った総合医療系大学としてスタートしました。学校法人兵庫医科大学のもとで兵庫医科大学と緊密な連携を持ち、次世代の医療を担う専門職者を育てるべく、教職員一同これまで一丸となって新しい大学づくりに邁進してきました。教育目標は、臨床現場で活躍できる信頼される医療専門職者を育てることにありますが、そのために、ボーダレス、チーム医療教育の二つのキーワードを掲げてきました。早くも開学二年目に入り、学生も2学年となり教員もほぼ揃って、やっと大学らしい雰囲気が出てきたところでもあります。一期生も後輩が入学したことで、ずいぶん成長してきたようで、将来が楽しみです。

さて、本大学は完成年度を目指して一步一步前進していくわけではありますが、新しい大学の基礎を作り発展させていくうえでは開学からの歩みを記録に残しておかなければなりません。まだスタートしたところで、実績と言えるようなものはまだ少ないのが現状です。しかし、入学した学生諸君が宝であり、勉学意欲に燃え、将来を夢見ているこの学生諸君のためにも、1年ごとの纏めをしながら次のステップを進めることが大事と考えています。また新しい大学の理念や方針に共鳴して参加していただいた教員と職員の皆さんの頑張りを記録するために年報の発行は大事であります。この趣旨を理解していただき、教職員全員で協力し、第一報がこんなに早く出来たことを大変嬉しく思っております。兵庫医療大学のささやかではありますが熱意がこもった第一歩がこの年報で感じ取っていただければ幸いです。

平成20年11月



# 兵庫医療大学開学1年目

副学長 佐藤 禮子

学校法人兵庫医科大学が新たな陣容を組織して、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部で構成する兵庫医療大学を創設して1年が経過しました。開学の地、ここ神戸ポートアイランドの一角に位置するキャンパスは、神戸港の海岸沿に面し、六甲山の山肌を見上げる瀟洒にして知的な佇まいで、学生、教職員、そして保護者や来客者を迎え入れる学舎となっています。

本学の使命、広い意味での日本社会への貢献について、開学に際して4点をあげさせていただきました。1つ目は、人材育成として、薬学、看護学、リハビリテーション学の確かな基礎教育によって培う、いずれも国家資格に基づく専門職者の輩出です。2つ目は、教育・研究機関としての大学が担う研究の実施と成果の発信です。3つ目は、地域住民・社会との融和をはかって、人々の健康意識の向上と健康問題の改善に寄与する働きです。そして、4つ目は、各々の学問領域が発展する学術や人材の国際交流によって、港神戸を国際的学術都市として発展させる一翼を担うことです。1年を経過して、4つの使命あるいは課題は、いずれも着実な第1歩を踏み出し、壮大な明日に向かって歴史を刻み始めています。

本学が最も力をそそぐのは、1つ目の人材育成であることは言うに及びませんが、平成19年4月入学の一年次生と就任の教職員は、一丸となって兵庫医療大学造りに専念し邁進しております。学生にとっての1年間は、大学人となるための基礎固めの教養科目、自己の専門分野を極めていくための専門基礎科目、専門科目、さらには、本学が特に力をそそぐ、質の高いチーム医療を実現させる医療人育成のための3学部混成科目、などなど多くの科目の修得や期待の大きさに圧倒される毎日であったことと思います。それでも、学生達は意欲的に時を重ね、楽しい学園生活を送り、兵庫医療大学の校風を創り出してくれています。

2つ目の教育・研究機関としての研究は、教員が自ら獲得した科学研究助成金や企業等からの委託助成金等によって、各々の専門性に応じて実施され、成果の発信が行われています。また、3つ目は、地域連携実践センターから、公開講座の実施や、健康相談等を通して活動しております。4つ目は、個別な外国人専門家の講演や海外視察など少しずつ動き始めています。本学が4つの使命を果たす前途は洋々にして多難ではありますが、展望は開けていると確信している開学1年目です。本学の成長を見守り、助け、そして限りない御支援をいただいております多くの方々に感謝申し上げ、さらなる努力を続けてまいる所存です。

# 大学設置構想と大学設置準備室

大学設置準備室長・兵庫医科大学名誉教授 垣下 榮三

平成13年1月永井清保前理事長が年頭の言葉で新学部設置構想を表明された。看護専門学校で看護師養成の実績があり、須磨のジェームス山を候補地とした新たな医療系分野教育課程の増設が鋭意検討されていた。大学設置準備に関する規制上、実現の目途が立たず時間が経過したが、平成14年12月、規制緩和で再度検討が始まり、平成15年、年頭で医療科学大学設置構想が表明された。同年4月、永井前理事長が急逝され後任の新家莊平理事長のもと神戸市によるポートアイランドのコンテナバース跡地での大学誘致に神戸学院、神戸夙川学院と共に本学も参入することを決定した。当初、薬学部の設置については、その可否が論議になったが、結局平成16年12月2日の教授会で、現在の3学部4学科構想が承認され、また兵庫医科大学内での学部増ではなく同一法人内の別大学として申請することが平成16年12月20日の理事会、評議員会で決定した。設置準備室は平成17年1月から始動している。

大学設置申請には、文部科学省に大学設置認可申請書、及び新大学設置に伴う寄付行為変更認可申請書（財務状況報告を含む）の作成が必要であり、各学部担当者による新大学設置の必要性和特徴、その達成のため必要な教育カリキュラム作成、教員、実習施設の確保・確認、設置に関する法人機構変更（寄付行為変更）書類、施設に関する財政状況確認作成等、膨大な作業があった。これを当初は佐々木周一次長（当時）、中村高志（現マネージャー）ら数名の職員で着手した。毎週月曜日8時半の定例会議で各担当者が前週の報告を行い進捗状況が把握され逐一週ごとの行動目標が決められていった。松田暉学長の参加は平成17年4月からで、準備室は最終的に11名のスタッフになった。

学外実習協力医療機関や教員の確保は、近隣新設大学より後発となり困難を極めた。文部科学省には作業の進捗状況が説明されたが、当時、3学部同時開学は前例がなく2学部より始めるべき、あるいは薬学部150名定員は多すぎるなどの指摘を受けていた。

全職員が毎日10～12時間の就労をこなし最終的に膨大な必要書類が整備され、平成18年11月末、設置認可が下されたのは松田学長以下関係者による決死とも言うべき努力の賜である。

# 目 次

大学年報発刊にあたって  
兵庫医療大学開学１年目  
大学設置構想と大学設置準備室

学 長 松田 暉  
副学長 佐藤 禮子  
大学設置準備室長 垣下 榮三

## 目 次

本学の特色と概要 .....	1
1 開学への歩み .....	1
2 大学の組織 .....	2
3 学年歴 .....	3
4 全学行事 .....	3
1. 入学式 2. 開学記念式典 3. オープンキャンパス 4. 全学フォーラム 5. BLS指導者養成講習会	
5 学部・学科構成 .....	7
6 役員名簿 .....	7
7 校舎・施設設備の概要 .....	8
委員会活動 .....	10
1 大学協議会 .....	12
2 入試運営委員会 .....	12
3 教務委員会 .....	14
4 学生委員会 .....	15
5 FD 委員会 .....	19
6 広報委員会 .....	24
7 環境安全委員会 .....	25
施 設 .....	26
1 図書館 .....	26
2 保健管理センター .....	28
3 地域連携実践センター .....	33
研究施設活動 .....	36
1 医薬共同創薬研究開発センター .....	36
2 共同機器室 .....	37
3 動物実験センター .....	39
全学的研究推進活動 .....	40
1 研究セミナー .....	40
2 科学研究費等の申請 .....	40
各部門の活動 .....	41
1 共通教育センター .....	41
2 薬学部 .....	47
3 看護学部 .....	60
4 リハビリテーション学部 .....	70
5 事務部 .....	76
1. 神戸キャンパスオフィス 2. 神戸キャンパスオフィス組織・職務分掌・人員配置表 3. 施設の利用	
神戸ポートアイランド４大学連携事業 .....	79
業 績 .....	81
写 真 .....	99

## 本学の特徴と概要

社会はいま、科学技術の進歩に裏打ちされた高度医療や先進医療を求め、医学・医療が高度に分化する一方で、医療全般について人の心を大切にする全人的医療やチーム医療、プライマリーケアの重視とともに地域密着型医療が求められている。このような社会的要求の中で医療専門職者が一体となった総合的医療の提供が必須となっている。

この社会的ニーズに応えるため、新設兵庫医療大学は、同一法人内の伝統ある兵庫医科大学と連携し、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」との建学の精神を共有する、薬学部（医療薬学科）・看護学部（看護学科）・リハビリテーション学部（理学療法学科・作業療法学科）の3学部4学科を、稀にみる英断と実行力によって、同時開学を実現した。これは、高度な各専門領域を統合し、ボーダレスな教育環境のもと、豊かな人間性と高い専門知識・技術を修得し、奉仕と協働の精神を培い、チーム医療を担う人材を世に送り出す医療総合大学の創生である。

本学は、教育目標として、「幅広い教養と心豊かな人格の育成」、「関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得」「優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療・地域医療を担える資質の育成」及び「次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養」を掲げている。

本学が掲げるこの4つの基本的教育目標は、豊かな心を持って医療に携わりながら人の心を理解し、十分な知識と技術を備え、信頼されるチーム医療や地域医療が実践できる医療人の育成をコアとするものである。さらに、高い研究心や国際感覚を身に付けた医療人並びに研究者の育成をめざしている。

しかしながら本質的には、薬学、看護学、リハビリテーション学の3分野は、目指す国家資格もそれぞれ異なり、各医療専門職者の医療における役割分担も明確である。さらに今後の医療の発展と高度化に伴い、ますます先端の専門性が要求される。これらの分野においては、それぞれが独立した教育研究体制を築き、確固たる責任を持った医療の役割分担が求められる。

本学は、各医療専門職者が対等な立場でチーム医療を支える人材を養成するためには、それぞれの学部教育において独自性を持ちながら、一方で、それを基盤にして3学部の密なる連携によるボーダレスな教育体制を提供していくことが重要であると考えており、そのためにも3学部4学科からなる教育組織を同時に立上げ、またこれに加え、共通教育センターを設置し、教養教育とともに基礎医学等の専門基礎教育を通し、3学部合同のチーム医療関連科目および合同実習・演習をコーディネートし、ボーダレスな教育体制を支える役割を負っている。開学当初から、3学部の足並みを揃えた教育を展開したことが、これからの目標達成のための重要な第1歩であると確信している。

### 1 開学への歩み

本学設置の母体である学校法人兵庫医科大学は、その建学の精神である「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を掲げ、単に傷病の治療だけの目的ではなく、心身を癒し苦痛を和らげる医療を推進し、人々の心身の健康と幸福に寄与することを目的として、昭和47年4月に医学部の単一学部からなる兵庫医科大学を設置し、以来、35年間で3,100名にも及ぶ良質な医師を輩出し、医学研究の実績を積み重ね、更に兵庫医科大学病院では、地域医療の中核として役割を果たし、わが国の医療に貢献してきました。

その実績を基に、さらに社会が医療に求める期待に沿うため、チーム医療の中で重要な役割を果たす医療専門職者の養成を医師養成と併せ行うことは、本法人に課せられた本来の使命と考え、平成16年12月20日開催の理事会・評議員会において、医療専門職者の養成を主たる目的とする薬学部・看護

学部・リハビリテーション学部の3学部4学科からなる新大学の設置計画が決定した。平成17年9月26日の理事会・評議員会では、新大学の名称を「兵庫医療大学」とし、校地を神戸ポートアイランドに決定した。これを受けて大学設置準備室が中心となり、大学設置認可申請書の作成・教員招致計画・新校舎構想・設計等の準備作業が鋭意進められ、平成18年4月26日に文部科学省に「大学設置認可申請書」並びに「大学設置に係る寄附行為変更認可申請書」を提出した。平成18年8月21日には「保健師・助産師・看護師・理学療法士・作業療法士学校指定申請書」を提出。平成18年11月30日付で文部科学大臣からすべての申請に係る認可を得ることができた。

新校舎建築工事は、神戸市中央区港島1丁目3番6（神戸ポートアイランド）の地に、平成17年12月20日に着工し、開学直前の平成19年2月28日に無事竣工し、3月12日に神戸キャンパス竣工式が挙行され、学生の入学を待つばかりとなった。

本学最初の入学試験は、推薦入学試験が平成18年12月23日に3学部一斉に実施され、一般入学試験（前期）は平成19年2月2日（リハ学部）、2月3日（看護学部）、2月4日（薬学部）にそれぞれ実施。一般入学試験（後期）は平成19年3月2日に3学部一斉に実施した。その結果、それぞれの入学試験は高倍率で入学合否判定が行われ、入学手続き率も好調で、第1期生となる薬学部178名、看護学部112名、リハ学部88名の合計378名の新生を迎えることができた。

開学を目前に控え、教員就任予定者によるミニワークショップを平成19年1月27日・28日の1泊2日で開催し、開学に万全の体制を期した。

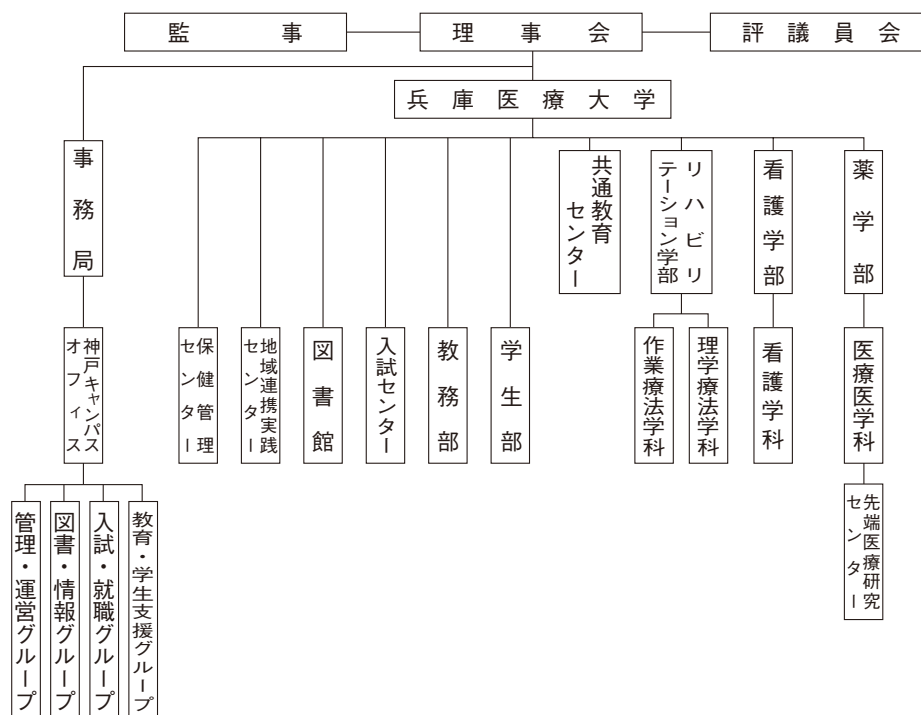
入学式は平成19年4月6日に挙行され、ここに本学は、兵庫医科大学の姉妹校として、名実ともに開学した。

なお、開学記念式典は、新年度開講時の学事繁忙期を避けて、平成19年5月12日に多数のご来賓を迎え、厳粛にも盛大に挙行された。

## 2 大学の組織

兵庫医療大学 組織図

平成20年3月1日現在





### 3 学 年 暦

入 学 式	4 月 6 日(金)
オリエンテーション	4 月 6 日(金)午後～10日(火)
履修登録期間	4 月10日(火)～13日(金)
前期授業開始	4 月11日(水)
ゴールデンウィーク（臨時休業）	5 月 1 日(火)～ 2 日(水)
Early Clinical Exposure (実習場所：兵庫医科大学病院)	7 月31日(火)～ 8 月 3 日(金)
前期補講・試験期間	8 月 8 日(水)～10日(金)
夏季休業	8 月13日(月)～ 9 月28日(金)
後期授業開始	10月 1 日(月)
法人創立記念日	11月22日(木)
冬季休業	12月25日(火)～ 1 月 4 日(金)
後期授業再開	1 月 7 日(月)
後期補講・試験期間	2 月 5 日(火)～ 8 日(金)
春季休業	2 月12日(火)～ 3 月31日(月)

### 4 全学行事

#### 1. 入学式

兵庫医療大学の第1回入学式を平成19年4月6日ポートアイランドの神戸ポートピアホールにおいて挙行了しました。入学者は、薬学部178名、看護学部112名、リハビリテーション学部88名、計378名でした。

#### 式次第

一、開式の辞	佐々木 周一	ジェネラルマネージャー
一、学長式辞	松田 暉	兵庫医療大学学長
一、入学宣誓	三浦 一馬	薬学部
	山上 彩華	看護学部
	井木 つかさ	リハビリテーション学部
一、理事長祝辞	新家 莊平	学校法人兵庫医科大学 理事長
一、来賓祝辞	高岡 道雄	保健生活部健康局長 兵庫県知事祝辞 代読
	鶴崎 功	神戸市 副市長
一、校歌披露	正岡 昭	名古屋市立大学名誉教授 作詞・作曲
	岡田 晴美	神戸女学院大学音楽学部名誉教授 独唱
一、役員・来賓紹介		
一、閉式の辞		



## 第一回入学式式辞

学 長 松田 暉

春まさにたけなわの今日、多数のご来賓の方々のご臨席をいただき、この四月一日をもって開学いたしました兵庫医療大学の第1回の入学式をここに挙行できますことはおおきな喜びであります。

兵庫医療大学は伝統ある兵庫医科大学の姉妹大学として、ここポートアイランドの学園ゾーンに、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の三学部構成でスタートを切りました。新入生の皆さんはここに相寄って、兵庫医療大学の第一期生となったわけであります。新しく出来ました素晴らしいキャンパスは神戸の港の側で優雅なたたずまいを見せて、全国から集まってきてくれました新進気鋭の教員そして職員とともに皆さんの入学を心より喜び、歓迎いたします。

本学は兵庫医科大の建学の精神を踏襲しながら、幅広い知識と豊かな人間性を持ち、そして社会とともに医療を担う医療専門職者の育成を理念としています。教育目標とし、幅広い教養と心豊かな人格の育成、関連分野とのボーダレスな教育環境のもとで専門性の高い知識と技術の習得、優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療・地域医療を担える資質の育成、そして次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養、を掲げています。将来の医療を担う専門職者として大いに期待される皆さんは、豊かな教養に支えられた高い専門知識と技術を充分発揮できるよう、兵庫医療大学で多くのことを学んでいってほしいと思います。

今、医療は大きく変わってきています。先進技術が開発され、新しい診断法や治療法がどんどん登場し、患者さんや社会は新しい革新的な医療を求めています。一方では異なった医療専門職が患者さんを中心に集まってそれぞれの専門分野での役割を果たしながら、連携して最善の治療を進めるという、チーム医療が求められています。三学部のみならず兵庫医科大学を交えたボーダレスな教育、実習環境は、いつか自分達と一緒に医療チームとして活躍することになる他学部の学生さんたちと垣根をなくして一緒に学べることができ、将来皆さんが臨床現場で新たなチーム医療の世界を作っていくうえで大きく役立つと信じています。

新入生諸君は大学生活を始めるにあたって、本来の勉強以外にも何か身近な目標を立ててください。時はすぐに流れていきます。専門分野以外に何かを勉強しよう、という気持ちを大事にして下さい。皆さんは、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、さらに保健師、助産師など、それぞれの分野の国家資格を将来取ることが大事な目標ではありますが、大学での勉強は国家資格を取るためのものだけではありません。将来の医療人として必要な、教養、人との交流、コミュにケーション能力、そして科学性や国際性を身に付けていって下さい。

学生生活は長いようで短いものです。まず何でも学んで、挑戦し、それらを自分のものにしていく、という姿勢が大事であります。幅広い教養を身につけることが、将来広く世の中を見ながら医療現場でしっかり働く上で役立つと思います。自分たちだけの世界に閉じこもらないようにしましょう。世界は広いのです。この神戸の港や六甲山から遠くを見るように、皆さんの前途はまさに洋々としています。新しい、そして充実したキャンパスで思う存分勉強し、友達を作り、サークル活動に精を出してほしいと思います。

ここで新入生諸君に申し上げたいことは、学生時代によき友を作って欲しい、ということです。困ったら相談でき、心を開けて話し合える友人です。また、教職員はアドバイザー制度でもって皆さんの普段の学生生活を楽しく充実して過ごせるよう支援いたします。しかし、やはり持つべきものはよき友人です。よき友といえ、私が大学に入ったときの教養部の先生の言葉で、大阪高等学校寮歌の一説ですが「君が愁いに我は泣き、我が喜びに君は舞う」という一説を思い出します。心を打ち明けて話が出来る、悲しいことも楽しいことも一緒に共有できるいい友を作りなさい、いい友人関係はこ

れからの長い人生でも支えてくれます、というメッセージとして今も生きていると思って諸君に紹介するものであります。

一方では、今の若い人たちは、家族や友人など身近の人は大変大事にしますが、いったん外に出ると見知らぬ人には冷淡で、また心配りが出来ないといわれています。自分の世界は大事にするが他人は知らない、ということでもあります。こういう考えでは将来目指す医療専門職者として適しているでしょうか。医療に携わる人には、人の心を理解し、人の痛みを自分も感じ、そして心配りが出来ることが求められています。自分中心の生き方、行動より、まず周りの人とどう仲良くしていくのか、また先輩やお年寄を普段から尊敬することも大事なことです。皆さんは、周囲の人たち、知った人、知らない人、皆なに支えられて育っていくのです。普段から挨拶が出来、相手を尊重する、学生として相応しい振る舞いをしましょう。

皆さんはこれからたくさん学ぶことがあります。あまり余裕がない学生生活が待ち構えているかもしれません。しかし、将来の自分を想定してしっかり勉強して欲しいと思います。そしてそれを支えるのは心身ともに健康であることも忘れないでください。将来、人の健康を支援する仕事をする上でも、自身の健康がまず大事です。くれぐれも健康に留意して、貴重な大学生活を無駄のない、充実したものにしていってほしいと願います。普段から規律ある、健康的な生活をおくる習慣を身につけることが、将来の専門職に就いたときにも必ず役立つからであります。

この神戸の地は、十二年前の阪神淡路大震災で多くの犠牲者を出したところでもあります。今、大学が立っていますところも、コンテナ船が出入りした港の一角でありました。中には、自分自身や、家族や、友人、が被害にあった方もおられるかもしれません。経験の有無を問わず、皆さんは折に触れて、震災でなくなられまた傷ついた多くの人たちに思いをはせて、医療職者として進む上で、人の命の大切さ、医療の大切さ、ボランティア精神、そしてそこに広がる奉仕の精神を大事にして欲しいと思います。

新しく出来たこの兵庫医療大学では、立派な学舎と素晴らしい教員たちが諸君を待っています。新しい大学の中身作りが今まさに始まろうとしています。この大学をどう発展させるかは、私達教職員の大きな使命であり責任であります。第一期生諸君には、一緒になって新しい大学の中身を作っていくって欲しいと思います。皆さんがどんな大学になるのだろうかかと受身になって思うより、どういう大学になって欲しい、またするのだ、という積極的な気持ち持って欲しいのです。新しい皮袋には新しい酒を、という言葉がありますが、皆さんと一緒に新しい命を吹き込み、社会の期待に沿える素晴らしい大学、キャンパスをつくろうではありませんか。

最後に、第一期生として入学された諸君に、これからの学生生活において大事にして欲しい、努力、という言葉を送りたいと思います。将来の方向が見えてきたこの大学入学に当たって、改めてこの努力という言葉を考えてみてください。普段のちょっとした努力が、たくさん積み重なって大きな力になり、将来別の形で身についてくるのです。たゆまない努力をしていれば時間や世界は広がるでしょう。努力を怠ると時間だけが過ぎて世界は狭くなります。この努力という言葉を生入生の皆さんに贈って、入学に当たっての式辞といたします。

(要約)

## 2. 開学記念式典・祝賀会

兵庫医療大学開学記念式典・祝賀会が、5月12日に開催された。

開学記念式典に先立ち午前9時から施設見学会が行われた。式典は、午前10時30分から本学オクタホールにおいて挙行され、ご招待した兵庫県、神戸市をはじめとする公共機関・関係団体・近隣大学・地元自治会・工事関係者等にご臨席いただいた。学内からは、法人本部及び兵庫医科大学の関係者さらに兵庫医療大学の教職員等も含め400名を超え、会場のオクタホールは満席となり、盛会の内に取  
り行われた。式典に引き続き、前大阪大学総長の岸本忠三先生の「病に挑む医学・医療の未来」の記念講演が行われた。

午後12時30分からは、神戸港を眺望する学内レストランにおいて祝賀会が行われた。祝賀会は、波田兵庫医科大学長の挨拶の後、来賓として藤井基之参議院議員からご祝辞をいただき、眞弓忠範神戸学院大学長の乾杯のあと歓談となり、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の各学部長からそれぞれ披露スピーチがあり、佐藤副学長の謝辞により閉会した。

## 3. オープンキャンパス

開学前平成18年には西宮キャンパス（兵庫医科大学）において7月～11月に実施し、受験生での参加者は延べ796名であり平成19年開学の本学広報活動としての成果を得た。

平成19年度は本学キャンパスにおいて4回開催された。日時とテーマおよび受験生の参加者は以下の通りであった。

日 時	テーマ	参加した受験生数
7月15日(日)	兵庫医療大学で何が学べるか	251名
8月11日(土)	兵庫医療大学で学べることを体験してみよう	477名
8月12日(日)	同上	437名
9月2日(日)	チーム医療を学ぼう	244名
		合計1,409名

参加者は上記のほか同伴者も多数来学され合計2,239名であり、一定の成果はあったものと思われるが、次年度はさらに効果的なオープンキャンパス開催を目的として年度の早い時期から開催すること、さらにボーアイ4大学による合同開催も予定されることになった。

## 4. 全学フォーラム

教育や大学運営における全学的な取り組みを推進する目的で、全学的なフォーラムを開催した。

開催日：平成19年12月13日(木)

テーマ：チーム医療について

演 者：薬学部	山本 悟史 教授
看護学部	土居 洋子 学部長
リハビリテーション学部	土肥 信之 学部長
共通教育センター	垣下 榮三 センター長

## 5. BLS 指導者養成講習会

兵庫医療大学の教員を対象に兵庫医科大学病院のBLS講習の指導者によるBLS指導者養成講習会を開催した。

実 施 日	受 講 者
7月24日(火) 10:00～12:00	12名 佐藤副学長、末廣教授 薬学部教員3名、看護学部教員4名、リハビリテーション学部教員3名
9月12日(水) 9:30～11:30	23名 薬学部教員9名、看護学部教員6名、リハビリテーション学部教員3名 共通教育センター4名、保健師

## 5 学部・学科構成

共通教育センター、薬学部、看護学部、およびリハビリテーション学部の1センター、3学部より構成されている。

学 部	学 科	定 員 (収容定員)	学生数(第1学年次)
薬 学 部	医 療 薬 学 科	150 ( 900)	178
看 護 学 部	看 護 学 科	100 ( 400)	112
リハビリテーション学部	理学療法学科	40 ( 160)	44
	作業療法学科	40 ( 160)	44
計		330 (1,620)	378

共通教育センターはこれら3学部、4学科の全学生に対して一般教養科目、チーム医療関連など専門基礎科目を含めたボーダレスな教育を行う

## 6 役員名簿

役 職 名	氏 名	学 部	職 位
学長	松田 暉		理 事
副学長	佐藤 禮子	看護学部	理事(教授)
共通教育センター長	垣下 榮三	共通教育センター長	理 事
薬学部長	西原 力	薬学部	教 授
看護学部長	土居 洋子	看護学部	教 授
リハビリテーション学部長	土肥 信之	リハビリテーション学部	教 授
学生部長	土肥 信之	リハビリテーション学部	教 授
教務部長	西原 力	薬学部	教 授
図書館長	末廣 謙	共通教育センター	教 授
入試センター長	村田 宏雄	兵庫医科大学	教 授
保健管理センター長	末廣 謙	共通教育センター	教 授
地域連携実践センター長	土居 洋子	看護学部	教 授
医薬共同先端医療研究センター長	西原 力	薬学部	教 授
神戸キャンパスオフィス ジェネラルマネージャー	佐々木 周一 ／菊地 良平	神戸キャンパスオフィス	次 長



## 7 校舎・施設設備の概要

体育館建設を始め、テニスコート・薬用植物園・臨床薬学研修センター・キャリアデザインセンター・RI 実験センター・動物実験センター等の整備については、平成20年度以降に計画実施する。

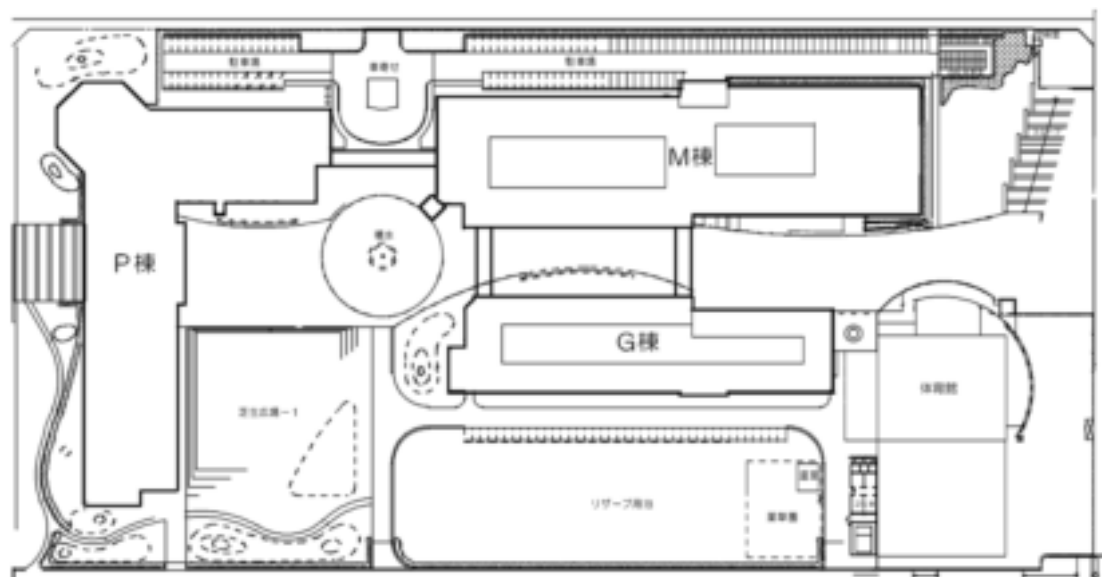
### 1) 兵庫医療大学概要

敷地面積 49,138.25㎡

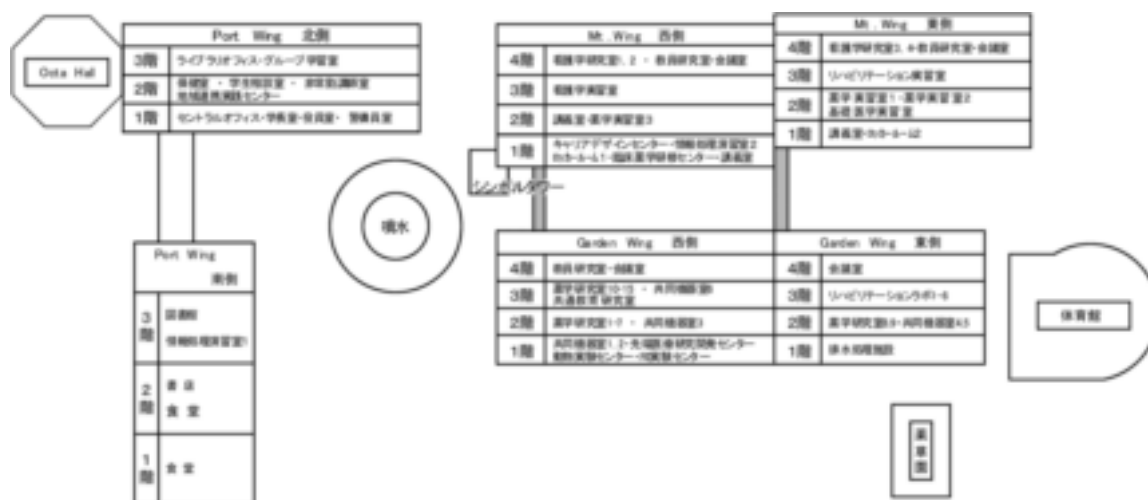
校舎面積 35,457㎡

P 棟 9,005㎡ M 棟 17,052㎡ G 棟 9,001㎡ その他（ブリッジ）399㎡

### 2) 建物配置図



兵庫医療大学 施設配置図



### 3) 平成19年度工事関係

#### (1) 先端医療研究センター（旧名称：医薬共同創薬研究開発センター）

工事着工日：平成19年 6 月18日

工事完成日：平成19年 9 月25日

研究室が3室（1室160㎡）完成し、2室で研究が実施されている。

#### (2) 食堂厨房内装工事

工事着工日：平成19年 6 月18日

工事完成日：平成19年 9 月25日

10月より㈱不二家商事により営業が開始された。食堂のイス席は1階が438席 2階が228席、合計666席である。

#### (3) M棟4階研究室

M棟4階教員研究室は64室あり、平成19年度着の教員がアトランダムに配置されている。G棟2階、3階の薬学研究室には薬学教員が領域毎に配置されている。

#### (4) シンボルマーク

兵庫医療大学では、P棟のエントランスホールのステンドグラスと中庭中央の噴水にふくろうを見ることができます。「フクロウ」には、ヨーロッパで学問の神様という意味があり、本学の目視するものを表していることから、大学のシンボルマークになっている。

知の象徴であるフクロウと建学の精神

- ・ 人間への幅広い科学的理解の必要性に“気づく”
- ・ 人間への深い愛を師や学友との交流を通じて“学ぶ”
- ・ 社会の福祉への奉仕を標榜し実践の場へ“羽ばたく”

#### (5) 彫刻 風の環「ハーモニー」

P棟1階オクタホール前におかれている大理石の白い彫刻は、武藤順九氏の作品で、風の環「ハーモニー」です。武藤順九氏は、国際的に著名な彫刻家で、イタリアを本拠地にして大理石の環を基本コンセプトにした彫刻を世に出されています。風の環、というシリーズで多数の作品があり、有名なものとして、バチカン公邸の「風の環・PAX2000」、インド・ブッダガヤ・マハボディ寺院の「風の環・PAX2005」があります。兵庫医療大学開学にあたり何か学風にあったモニュメントを探すなかでこの武藤順九氏の風の環「ハーモニー」を得ることができた。大学の目指す、人の輪、協調、について語りかける素晴らしいものであり、大事にしていってほしいと思います。

[学長 記]

## 委員会活動

各委員会委員一覧（平成19年度）

大 学 協 議 会		
松田 暉	学長 議長	
佐藤 禮子	副学長	
西原 力	薬学部長	
土居 洋子	看護学部長	
土肥 信之	リハビリテーション学部長	
垣下 榮三	共通教育センター長	
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM	

F D 委 員 会		
佐藤 禮子	副学長 全学 FD 委員長	
田中 稔之	薬学部教授	
芝崎 誠司	薬学部准教授	
鈴木 久美	看護学部教授	
西村 明子	看護学部講師	
高橋 哲也	リハビリテーション学部教授	
山田 大豪	リハビリテーション学部教授	
高木 範子	共通教育センター講師	
賀屋 光晴	共通教育センター講師	

教 務 委 員 会		
西原 力	薬学部長 教務部長	
西山 信好	薬学部教授	
竹田千佐子	看護学部教授	
伊藤 斉子	リハビリテーション学部准教授	
坂口 顕	リハビリテーション学部講師	
磯 博行	共通教育センター教授	
北江 正幸	教育・学生支援グループ M	

自己点検・評価委員会		
松田 暉	学長 委員長	
佐藤 禮子	副学長	
西原 力	薬学部長	
土居 洋子	看護学部長	
土肥 信之	リハビリテーション学部長	
垣下 榮三	共通教育センター長	
西山 信好	薬学部教授	
田中 明人	薬学部教授	
鈴木 久美	看護学部教授	
川口浩太郎	リハビリテーション学部教授	
秦 正哲	共通教育センター教授	
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM	

学 生 委 員 会		
土肥 信之	リハビリテーション学部長 学生部長	
前田 拓也	薬学部教授	
水野 暢子	看護学部講師	
末廣 謙	共通教育センター教授	
日高 正巳	リハビリテーション学部教授	
有吉 正則	リハビリテーション学部講師	
藤田 幸久	共通教育センター教授	
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM	
北江 正幸	教育・学生支援グループ M	

地 域 連 携 推 進 委 員 会		
土居 洋子	看護学部長 地域連携実践センター長	
八野 芳巳	薬学部准教授	
富永 真己	看護学部准教授	
伊藤 斉子	リハビリテーション学部准教授	
末廣 謙	共通教育センター教授	
高田 泰彦	管理・運営グループ M	

総 合 教 育 委 員 会	
垣下 榮三	共通教育センター長 委員長
宮部 豪人	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部講師
P.D.ANDREW	リハビリテーション学部教授
櫛辺 勇	リハビリテーション学部講師
末廣 謙	共通教育センター教授
北江 正幸	教育・学生支援グループ M

医学・医療教育センター運営委員会	
垣下 榮三	共通教育センター長 委員長
宮部 豪人	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部講師
P.D.ANDREW	リハビリテーション学部教授
櫛辺 勇	リハビリテーション学部講師(オブザーバー)
末廣 謙	共通教育センター教授

入 試 運 営 委 員 会	
磯部 孝彦	共通教育センター教授 入試センター長
前田 初男	薬学部教授
藤井真理子	看護学部教授
山田 大豪	リハビリテーション学部教授
P.D.ANDREW	リハビリテーション学部教授
前田耕一郎	共通教育センター教授
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM

広 報 委 員 会	
松田 暉	学長 委員長
青木 俊二	薬学部教授
小関 真紀	看護学部講師
川口浩太郎	リハビリテーション学部教授
櫛辺 勇	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
中村 高志	入試・就職グループ M

図 書 館 委 員 会	
末廣 謙	共通教育センター教授 図書館長
前田 初男	薬学部教授
富永 真己	看護学部准教授
日高 正巳	リハビリテーション学部教授
山田 大豪	リハビリテーション学部教授(オブザーバー)
磯部 孝彦	共通教育センター教授
井出 唯敬	図書館・情報グループ M

環 境 安 全 委 員 会	
西原 力	薬学部長 委員長
宮部 豪人	薬学部教授
田中 俊之	薬学部教授
増田富美子	看護学部助教
P.D.ANDREW	リハビリテーション学部教授
藤田 幸久	共通教育センター教授
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM



## 1 大学協議会

大学設置申請段階から兵庫医科大学内に新大学設置準備室が設置され、室長は垣下理事（名誉教授、看護専門学校校長）があたり、佐々木が事務方の責任者、そして顧問として、薬学部は西原名誉教授、看護学部は佐藤放送大学教授、リハビリは土肥広島県立大学前学部長、さらに各学部での教員予定者が参加し、設置申請とともに具体的構想案が練られていった。そのなかで、準備段階での重要事項の決定には、学長、副学長、学部長各候補者による顧問会議が開催された。開学後は、この顧問会議が大学協議会となって、3学部、1センター、セントラルオフィスの上位意思決定機関となった。

大学のスタートとともに大学協議会が学内最高意思決定機関として稼動し出した。メンバーは、学長、副学長、3学部長、共通教育センター長、そして神戸キャンパスジェネラルマネージャーで、毎月2回、新たな大学の順調なスタートを目指し、また本学の目標達成に向けて議論を進めながら、意思決定を進めてきた。学年歴、教務に関係する事項、入試に関する事項、人事に関する事項、施設関係、学生生活支援、広報、予算、各学部ならびに共通教育センター、図書館、等の全ての分野での協議を進め、円滑な大学運営に努めてきた。なお、法人としての決定は、大学協議から兵庫医科大学常務会、理事会に諮り決定された。理事会には学長に加えて、垣下共通教育センター長、佐藤副学長が加わった。

## 2 入試運営委員会

兵庫医療大学開設前に、法人内に、新大学設置担当理事（学長就任予定者）、大学設置準備室長、兵庫医科大学入試センター長及び新大学設置準備顧問（各学部長予定者）等からなる新大学初年度入試運営委員会を設置し、入学者選考要領の作成、入学試験合格基準の作成及び入学試験実施に関する業務等について協議を行い、平成19年度入学試験は、同委員会の下、推薦入学試験及び一般入学試験（前期日程・後期日程）を兵庫医科大学西宮キャンパスにおいて次のとおり実施した。

### 平成19年度入学試験

#### 1) 推薦入学試験

- ①選 抜 方 法：全学部共通 外国語、小論文、調査書
- ②試 験 日：平成18年12月23日（土）
- ③合格発表日：平成18年12月28日（木）
- ④募集人員等：

区 分	薬 学 部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	約20	約15	約8	約8
出願者数	119	166	186	53
受験者数	114	162	181	53
合格者数	25	20	11	11
入学者数	25	20	11	11

## 2) 一般入学試験（前期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、数学、理科  
看護学部 外国語、小論文、理科  
リハビリテーション学部 外国語、小論文、理科
- ②試 験 日：薬学部 平成19年 2 月 4 日(日)  
看護学部 平成19年 2 月 3 日(土)  
リハビリテーション学部 平成19年 2 月 2 日(金)
- ③合格発表日：平成19年 2 月13日(火)
- ④募集人員等：

区 分	薬 学 部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	約120	約80	約30	約30
出願者数	569	467	358	116
受験者数	554	451	351	114
合格者数	308	162	45	42
入学者数	107	82	31	29

## 3) 一般入学試験（後期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、数学、理科  
看護学部 外国語、小論文、理科  
リハビリテーション学部 外国語、小論文、理科
- ②試 験 日：平成19年 3 月 2 日(金)
- ③合格発表日：平成19年 3 月 8 日(木)
- ④募集人員等：

区 分	薬 学 部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	約10	約5	約2	約2
出願者数	133	133	98	21
受験者数	119	124	94	18
合格者数	60	12	2	5
入学者数	46	10	2	4

## 4) 入学者計

区 分	薬 学 部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
入学者数	178	112	44	44

兵庫医療大学設置認可直後の推薦入学試験のため、試験日は12月末に実施せざるを得なかったが、初年度のためか受験生から注目をあびていたので比較的問題なく受験者数を確保できた。一般入学試験も順調な滑り出しで、予定通りの入学者を確保することができた。

### 3 教務委員会

初年度の教務委員会は先ず委員の自己紹介に始まり、教務委員会の進め方、役割や位置づけについて議論を行い、教務に関する基本方針や大枠など3学部共通課題については委員会案を作成し、大学協議会に上申（諮問のあった場合は答申）すること、具体的詳細な事項については教授会に付議し、それらの結論を確認することにした。しかし、その区分は当初はもちろん、その後でも問題によっては大学協議会や教授会と往復する場合もあった。今年度は14回（臨時1回、持ち回り2回）開催した。

主な協議事項としては、前期においては入学前の既修得単位の認定、前期単位認定試験の成績確認、などに関する教務委員会案の作成と講義室の運用と管理方法やE.C.E.など学外実習に対する事故対応マニュアル、単位認定試験の日程などの具体的な課題であり、後期では後期単位認定試験の日程、進級基準、平成20年度の学年暦、カリキュラムや時間割案の作成があり、最終委員会では平成19年度第1学年次総合成績の確認であった。

いずれにしても、紆余曲折はあったが、無事初年度の学生の教育が大過なく、進行できたのは各委員のご協力の賜物である。

なお、以下に平成19年度に検討した次年度以降に関係する主な協議項目のまとめを記す。

#### (1) 3学部合同科目

3学部合同科目として必修科目は医療科学概論、チーム医療概論、チーム医療論演習の各学年1科目であり、1年次の「医療科学概論」は金曜日午後に配置する予定であるため、スポット的な1年次の特別講義についてはこの時間帯で対応した。また、選択科目のうち、3学部で同じ科目は可能な限り複数学部で同時開講できるよう心がけて配置した。(10/30)

#### (2) 実習における事故及び感染症対策マニュアル

竹田委員が原案を作成した「臨地実習事故対応マニュアル（案）」「臨地実習感染症対応マニュアル（案）」を教務委員に対し精読し、指摘事項等あれば竹田委員まで連絡する。(5/31) 指摘事項を反映した当該マニュアル（案）を教務委員会案としてE.C.E.開始前に学生へ配付できるよう作成を進め、平成19年度はトライアル的に使用し、今後継続して協議のうえ改訂を加えていく。(6/28)

本年のE.C.E.は、マニュアルに該当する大きな事故はなく、不備もなかったが、いくつか小さな指摘があったので、それを反映した改訂版を次年度作成することにした。なお、実習時に着用した「実習生」の腕章は医科大学から借用したものであることから、本学学生用の腕章を作成することにしたが(8/23)、患者さんへの配慮から腕章ではなく肩ワッペンの方が良いという意見があり、それを次年度に作成することにした。

#### (3) 進級基準及び不合格科目の再履修

進級基準及び不合格科目の再履修方法は、各学部で事情が異なる点もあり、各学部で検討することになり、継続審議となった。(7/26) その後、各学部案が提出されたが、統一案を作成できなかった。

#### (4) 大規模災害における医療専門職のあり方

大規模災害における医療専門職のあり方を学ぶことは大切であるが、毎年阪神・淡路大震災の日(1月17日)の前後に全学生を一同に集合させて特別行事を実施することは、学年が進めば進むほど人数的にも日程的にも困難になる。授業や講演等の行事ではなく、1月17日前後にその他の方法で特別行事を実施する方法を模索する。(11/29) 平成19年度は特別行事として、1月17日(木)の昼休憩時間を

利用して、オクタホールで震災時のビデオ（「震度7・阪神大震災の教訓」）の鑑賞及び黙祷を行う。  
（その後、当該シリーズ5巻を本学図書館に所蔵し、自由に視聴できるようにした）

#### （5）平成19年度第1学年次単位認定試験成績表に係る GPA 制度の導入

GPA 制度の導入は各学部とも GPA 制度の導入には基本的に前向きであるが、導入に際しては本委員会でも内容を十分に検討する必要がある。「順位付けは現状の点数でも可能である。」「分布等の制限を課さないと評価の均一化には効果がない。」などの意見があり、平成19年度では導入せず、いくつかの具体例を元に継続して審議することになった。（1/24）

#### （6）禁煙に関する特別講義

全学生対象の禁煙に関する特別講義は、平成19年度は藺 潤氏（西宮市保健所長）による特別講演「医療人として必要な禁煙支援」のテーマで講演を行うことにした。

なお、出席率を高めるため、掲示以外に各教務委員から指導すること並びに当日出席調査を実施することにした。（11/26）

#### （7）平成19年度第1学年次後期における3学部合同チュートリアルの実習

平成19年度後期、第1学年次3学部合同チュートリアルの実施について協議の結果、チュートリアルを計画・実施するために必要なシナリオの作成、人員の確保、評価等の取扱い、参考図書の購入等を検討するには十分な時間がないため、平成19年度後期の3学部合同チュートリアルは実施が難しいと考え、本委員会の意向として教務委員長から学長へ具申することにした。その後、磯 教授の「人間発達学」の3回の授業をチュートリアルを含む形態に切り替えいただき、討議の熱心さなどは個人、またグループによって相違はあったが、どのグループも自分なりに結論に達し、結果的にうまくいった旨の報告を受けた。

なお、平成20年度は、「医療科学概論」で実施するという大枠の授業概要としては了承であるが、学生のグループ数が36グループ以上必要であることやユニット数が3ユニットであること等を勘案すると、学年進行に伴い開講授業科目数が純増するなかで指導教員のマンパワーが足りるかどうかが問題となるため指導教員の必要動員数及び配置等を再検討し、継続して本委員会で協議することにした。

また、委員長より、各委員に協議の参考とするため各学部の意見も何うよう指示があった。

## 4 学生委員会

学生委員会は、在学生に対し、学生の生活指導、健康、安全と防犯、課外活動、奨学金などの支援を検討するのが主な役割である。平成19年度は開学して初年度ということもあり、学生委員と学生部事務局及び保健室などと協議しながら進め、開学初年度を乗り切ることができた。平成19年度の経験は次年度方針の参考にしていきたい。関係諸氏のご協力を感謝いたします。

### 1）委員会開催

8月を除き毎月とし、11回開催した。構成は学生部長を含め教員6名及び事務局である。



## 2) 主たる活動状況

### (1) アドバイザー制度

アドバイザー制度は初年度から稼動した。1グループは学部混成で約8—9名程度、合計43グループとした。主として学生生活や修学上のアドバイスをを行った。1年生前期に有効であることがわかり次年度計画の参考とした。

### (2) 入学時の保護者及び学生オリエンテーション

入学式後保護者に対しては一般的なオリエンテーションを行った。学生に対しては健康診断、疾病予防、防犯、及び学生生活一般に対して説明を行った。

(資料1：オリエンテーションスケジュール)

### (3) 健康管理とワクチン接種

健康診断は問題なく完了したが、抗体検査とワクチン接種は1学期終わりのECEに間に合わせるためにはスケジュールがややタイトであった。

(資料2：抗体検査とワクチン接種スケジュール)

また、学内での傷病時発生のマニュアルの整備を行った。

尚 夏前に麻疹が流行したが感染者が出ることもなく、ワクチンが確保されており全員に施行することができた。

### (4) 奨学金

日本学生支援機構の奨学金をはじめとする各種奨学金は、募集及び審査及び受給手続きを行った。奨学金に対するニーズは予想以上に高いものであった。

### (5) 兵庫医療大学学生団体の結成

#### ア. クラブ・サークル等の結成・活動支援

課外活動としてのクラブとサークルは学生自らが設立し、自主的な運営をすることを基本として支援した。

#### イ. 学生会結成にかかる進捗状況

学生自治組織「学生会」は、クラス代表を基盤として立候補及び選挙がおこなわれ、11月29日開催の設立総会にて規約原案を承認し、会則の作成も行われた。(11月1日に発足)

尚 クラブ活動等で使用するグラウンドや活動施設の利用と借り上げも規約を整備し支援を開始した。

### (6) 学生生活実態調査アンケート

学生生活の状況調査を日本私立大学連盟のものを参考に作成し実施した。全国の状況と比較することができ参考になった。

アンケート結果から、自宅通学学生が多いこと、修学目標のはっきりした学生が多いこと、生活費ではアルバイトより奨学金への依存度が高いことなどが見られた。

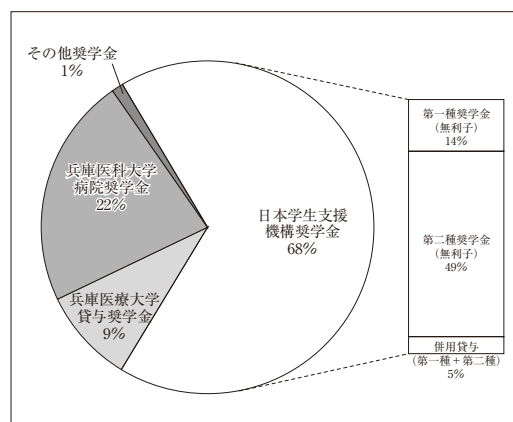
### (7) その他

体育館建設に伴い石器や備品などに関しワーキンググループを立ち上げ定期的に検討した。

# [奨学金関係資料]

## 1) 平成19年度奨学金申込者数、採用者数（延べ人数）

奨学金種類	奨学金種類	申込者数 ( ) 内は 不適格者数	採用 者数
日本学生支援機構 奨学金	第 一 種	54 ( 6 )	27
	第 二 種	70 ( 1 )	98
	併 用	18 ( 1 )	9
日本学生支援機構奨学金 合計		142 ( 8 )	134
兵庫医療大学貸与奨学金		52 ( 4 )	18
兵庫医科大学病院奨学金		44 ( — )	44
その他奨学金（奨学金財団、病院、都道府県等）		7 ( — )	2
合 計		245	198



委員会活動

## 2) 各種奨学金採用者数（実人数）及び奨学金貸与金額

（人、%、円）

	薬	看護	リハビリ	合計
日本学生支援機構 + 兵庫医療大学貸与	8	2	1	11
日本学生支援機構 + 兵庫医科大学病院	0	15	0	15
日本学生支援機構のみ	48	23	31	102
兵庫医療大貸与 + 兵庫医科大学病院 + その他		1		1
兵庫医療大貸与 + 兵庫医科大学病院		2		2
兵庫医療大貸与のみ	2	1	1	4
兵庫医科大学病院 + その他				0
兵庫医科大学病院のみ		26		26
合計（日本学生支援機構、兵庫医療大学貸与、兵庫医科大学病院、その他）	58	70	33	161
在学生数	178	112	86	376
対在学生比率	32.6%	62.5%	38.4%	42.8%
奨学金受給比率（日本私立大学連盟調査）*2				32.3%
貸与月額平均	104,945	74,481	77,485	86,071
受給月額平均（日本私立大学連盟調査）*2				66,500

\* 1 在学生数は退学者（2名）を除く人数とした。

\* 2 日本私立大学連盟の「私立大学学生生活白書2007」より抜粋。

## 3) 平成20年3月現在大学公認課外活動団体一覧

団 体 名	代 表 者		顧 問 候 補	
アーチェリー部	看護学部	鈴木 菜奈	薬学部	田中 明人 教授
バスケットボール同好会	薬学部	竹内 志織	共通教育	賀屋 光晴 講師
軽音楽部	薬学部	石井 利佳	共通教育	磯 博行 教授
バスケットボールサークル	リハビリテーション学部	西村 菜美	リハビリテーション学部	坂口 顕 講師
ボランティアサークル	リハビリテーション学部	杉原 早紀	リハビリテーション学部	Andrew 教授
バトミントン部	薬学部	宇廻 祐輔	共通教育	伊藤 久男 教授
漫画研究会	看護学部	小川 真以	看護学部	水野 暢子 講師
家庭科サークル	看護学部	吉田 信一	看護学部 指導員	竹田千佐子 教授 土田 敏江 講師
Huhs バレーサークル	看護学部	吉岡真奈美	看護学部	西村 明子 講師
映画鑑賞サークル	薬学部	藤田あかい	共通教区	高木 範子 講師
野球部	薬学部	小林 慎	薬学部	前田 初男 教授
テニスサークル	薬学部	三好 鮎子	薬学部	青木 俊二 教授
Jazz バンド部	薬学部	石田 拓巳	薬学部	前田 拓也 准教授
天文サークル	看護学部	稗田 健登	共通教育	加藤 精一 講師
サッカー部	薬学部	伊藤 嘉洋	薬学部	田中 稔之 教授
水泳部	リハビリテーション学部	鈴木 香	リハビリテーション学部	川口浩太郎 教授
芸術研究会	薬学部	谷口 智美	薬学部	芝崎 誠司 准教授
ソフトテニスサークル	リハビリテーション学部	宮崎 友里	リハビリテーション学部	有吉 正則 講師
アクティサークル	看護学部	佐藤亜香里	看護学部	小関 真紀 講師
フットサルサークル	薬学部	瀬迫 貴士	リハビリテーション学部	山田 大豪 教授
陶芸サークル	リハビリテーション学部	木村 美喜	リハビリテーション学部	櫛辺 勇 講師
卓球サークル	看護学部	富岡 洵	リハビリテーション学部	日高 正巳 教授

アクティサークルは平成20年3月に実施したクラブ・サークルヒアリングにて、公認団体辞退の申出があったため平成20年3月より非公認団体とした。

## 5 FD 委員会

### 1. 基本方針

兵庫医療大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会は、教員個人及び教員組織としての教育能力を開発・改善し、兵庫医療大学の教育研究機能の向上を図ることを目的として、次の5つの活動を行う。即ち、①教員個々の教育力の向上、②集団・組織としての教育力の向上、③学部間の相互理解力の向上、④教員の研究力の向上及び相互協力体制による研究力の向上、⑤本学としての教育及び研究の質の向上、とした。本委員会は、9名の教員によって組織・運営され、平成19年度の具体的実施は以下のものである

### 2. ワークショップ

教職員一同に集まったFD活動として、ミニワークショップを開学前及び1年目に以下のように実施した。

#### 第1回医療教育ミニ・ワークショップ

開学前の平成19年1月27日（土）・28日（日）の2日間で行った。1日目には、講演終了後に参加者53名を8グループに分け、次のテーマに基づきグループ討議を行い相互理解を深めた。

（テーマ）①チーム医療を実施するためのカリキュラム

②教養・基礎・臨床教員の教育連携について

③学生と教員との関係をよくするための方策

④来年度入試でより良い学生を確保するための方策

2日目は、各グループでの討議内容を全参加者に対して発表を行い意見交換を通じて、本学の開学に向けた意識統一を図る機会が出来た。

#### 1日目】1月27日（土）

14:30～	開会にあたり「出席者紹介」	垣下大学設置準備室長
14:50～	挨拶 「学校法人を代表して」	理事長
15:00～	挨拶 「兵庫医療大学開学に際して」	学 長
15:20～	講演①「兵庫医療大学の入試について」	村田入試運営委員長
16:00～	講演②「医療専門職教育機関の教育現状について」	兵庫医科大学 鈴木医学教育センター長
17:15～	グループ討議	進行役：鈴木医学教育センター長
19:15～	懇親会	進行役：垣下大学設置準備室長
21:00～	意見交換会	

#### 2日目】1月28日（日）

8:30～	各グループ発表と総合討論	進行役：鈴木医学教育センター長
10:40～	各学部懇談会（所属に分かれて）	進行役：共通教育センター長・学部長
11:30～	挨拶	副学長・各学部長
11:50～	挨拶	共通教育センター 磯部教授
11:50～	閉会挨拶	学 長



## 第1回ミニワークショップにおける学長からのメッセージ（配布資料）

### 社会へのメッセージ

- ◆兵庫医療大学（仮称）の使命は、医療現場が、そして患者さんが本当に必要としている人材を世に送り出すことにあります。
- ◆医師育成や地域医療に多くの実績を持つ兵庫医科大学が、大学附属病院や広域にわたる関連施設を実習の場とし、高度で実践的な臨床教育を実現します。
- ◆兵庫医療大学は、臨床現場に密接した真の医療教育の実践を目指します。

1

### 我々の目指すところ

- 優れた医療職者を世に送る社会的使命
- ◆人の心が分かる、社会性に富んだ資質
- ◆チーム医療に参加できる力
- ◆しっかりした基礎と臨床の知識
- ◆応用力を備えた人材
- ◆コミュニケーションスキルを磨く
- ◆国際性、科学性、将来性を育む

2

### アドミッションポリシー

- 1：生命の尊厳や人の価値を理解し、他者の立場を尊重し、思いやりと優しさをもって人にかかわることが出来ること
- 2：人や物事に関心、好奇心、疑問を持ち、主体的に考えて問題解決しようとする事
- 3：将来、保健福祉医療を担う医療専門職者となることに明確な自覚及び目的意識を持ち、そのために精進努力する心構えのあること

3

### 教育目標

1. 幅広い教養と心豊かな人格の育成
2. 関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
3. 優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
4. 次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

4

### 特徴 — 1

- ◆3学部および医学部との緊密な連携（ボーダレス）と臨床重視の教育環境の提供
- ◆共通教育センターによる豊富な一般教養教育
- ◆兵庫医大附属病院、関連施設を活用した臨床教育（アーリーエクスポージャー、クラークシップ、チーム医療）
- ◆臨床系教授陣による実地臨床教育と実習支援
- ◆チュートリアル、共用試験（OSCE, CBT）の充実

5

### 特徴 — 2

- ◆きめ細かい生活・教育指導
- ◆アメニティー重視のキャンパス
- ◆国試対策と就職活動支援
- ◆国際性の育成・海外との交流
- ◆先進医療、緩和医療、地域医療、臓器移植、臨床試験などの選択コース
- ◆近接研究施設・大学との交流

6

### 教育上のポイントー1

- ◆心と教養
- ◆高い専門的知識と技術
- ◆コミュニケーションなくしてはチーム医療は出来ない
- ◆ライフサイエンス、国際性も
- ◆自由な雰囲気の中にも規律を大事に
- ◆医療人としての自覚を育てる

7

### 教育上のポイントー2

- ◆共通教育センターの役割
- ◆ボーダレスな環境 学部を超えた交流
- ◆MDの活用
- ◆臨床実習重視 薬学部は＋2年の活用
- ◆進級、卒業要件の設定
- ◆専門分野での選択科目や特別コース
- ◆情熱をもって若い人を育てましょう！

8

### 医学部附属病院における実習支援計画

- ◆医学医療教育センター（仮称）で両大学間で教育・実習の企画運営・調整
- ◆共通教育センター所属の臨床医（内科医）が指揮
- ◆臨床（臨地）実習における補助教官の確保
- ◆カンファレンス、WGの場所の確保（西宮）

9

### 教官及び職員の目標

- ◆兵庫医科大、3学部、共通教育センターとの連携；一体感を持つ 縦割り制度は×
- 立派な建物と設備の活用 4階フロアの使い方
- ◆教官と事務の連携も
- ◆広報活動を大事にしよう
- ◆学生のケアは初日から始まる

ボーダレスシステム：我々が新たに作っていきこう！

10

## 第2回医療教育ミニ・ワークショップ

平成19年9月11日(火)東京工芸大学芸術学部 大島 武准教授の「大学における教育力とは何か」と題して、「教育力とは」・「学習能力を高める授業の方法(戦略):授業の組み立て方」・「教育力を高めるためのFD委員会での取り組み・工夫について」等の内容を踏まえて、参加者(教職員43名)が4グループに分かれ、講演内容を踏まえて本学の現状並びに今後についてグループ討議及び全体発表を行い、更なる本学での教育が向上するための改善方策を議論した。

テーマ:講演内容を踏まえて、「本学の現状と今後について」

## 第3回医療教育ミニ・ワークショップ

平成20年3月8日(土)・9日(日)の2日間で、1日目は、「相互理解力の構築」を目的に3学部4学科のカリキュラムの基本内容について、各学科代表教員並びに共通教育センター代表教員による発表、質疑、及びグループ討議を行い、相互理解を深めた。また、2日目は、グループ討議発表後、「カリキュラムの構造と評価」について、岐阜大学医学部医学教育開発センターの藤崎和彦教授より講演があった。平成20年度着任予定の専任教員を含め総勢86名の教員が参加した。

### 1日目】3月8日(土)

- 14:00～ 開会にあたり「出席者紹介」 副学長  
 14:30～ FD 討論会  
     「3学部4学科のカリキュラム紹介」 進行役 副学長  
     各学部学科・共通教育センターから選出した教員による発表と質疑  
 17:00～ グループ討議  
 19:00～ 懇親会

### 2日目】3月9日(日)

- 8:30～ 各グループ発表 進行役:末廣教授  
 10:30～ グループ討議発表のまとめ 教務部長  
 11:40～ 「カリキュラムの構造と評価について」  
     講師:藤崎和彦氏(岐阜大学医学部医学教育開発センター教授)  
 12:10～ 挨拶 各学部長・センター長  
 12:30～ 閉会挨拶 学 長

## 3. 委員会

### 【第1回】平成19年5月17日(木)

議 題:1. 兵庫医療大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程(案)

資料に基づき審議し、別紙「委員会規程(案)」を大学協議会に付議することになった。

### 2. 今年度の活動方針

平成19年度の活動方針は、以下を大学協議会に付議することになった。

- ①FD委員による第1学年次の授業内容や教育方法等の現状把握を行う必要から無作為に授業参観を行う。
- ②学外から講師を招聘する。  
 人選、開催日時及び講演内容等は、委員長一任とする。
- ③全教員を対象に本委員会の基本方針の周知を図るため説明会を開催する。
- ④学生による授業評価等でベストティーチャーを選考するための基準案を検討する。

## 【第2回】平成19年6月21日(木)

## 議 題：1. 授業参観

本学の教授状況並びに学習状況の実態を把握し、今後のFD活動の基礎資料とするために、平成19年7月2日～7月20日間に、FD委員による授業参観を実施することになった。

また、教員用と学生用の2種類の参観項目を作成し、報告書の内容は以下のとおりとする方針が決定した。

## ア. 教授側（教員）の報告書内容として

授業展開（目標の提示、動機付け、話し方、授業構成の工夫、等）

教材の用い方

学生とのコミュニケーション

その他（気づいたこと）

## イ. 学習側（学生）の報告書内容として

授業態度（時間厳守、私語、等）

授業への取り組み

教員とのコミュニケーション

その他（気づいたこと）

## ウ. 参観対象の授業科目教員には、当該報告書は本委員会活動の検討資料とする旨を伝え了解を得る。

## エ. 報告書は、慎重に取り扱うことの観点から公開にあつては、委員長一任として、大学協議会に報告し決定する。

## 2. 全教員を対象にしたFD活動に係るアンケートを実施する。

## 【第3回】平成19年7月26日(木)

## 議 題：1. 授業参観状況

授業参観の進捗状況について、各FD委員から報告が行われた。

## 2. 第2回FD研究会（9月11日火曜日）のテーマ

招聘講師を大島 武准教授（東京工芸大学芸術学部）とし、講演内容等は次のとおりとすることに決定した。

## ①テーマ：「大学における教育力とは何か」

## ②テーマに含んだ内容として、

「教育力とは」

「学習能力を高める授業の方法（戦略）：授業の組み立て方等」

「教育力を高めるために大島先生が所属大学でのFD委員会でどのように取り組みをしているか具体的な工夫等」

## 【第4回】平成19年8月8日(水)

## 議 題：1. 授業参観のまとめ方と報告の仕方

授業参観状況を報告書にまとめるために、FD委員が2名1組の4グループを編成し、グループ単位に割り当てた報告書内容を取りまとめることになった。

## 2. アンケート調査内容の検討と実施

教員に実施したアンケート結果のまとめ方について、種々の意見が出され、継続協議とすることになった。

### 3. 今後の学内 FD 活動

本委員会規程第2条「学部間の相互理解力の向上」に関する活動を推進する観点から、第3回FD研究会開催することになった。

内容は、3学部それぞれが目指す国家資格を有するために掲げているカリキュラムや学部固有の文言・内容等を他学部教員と共有しあうことが重要であるとの認識から、上記の趣旨を盛り込んだ内容で開催し、教員相互の理解を図る。

### 4. その他

「第2回 FD・SD セミナー」(大学コンソーシアムひょうご神戸主催)にFD委員が参加することにした。

## 【第5回】平成19年10月3日(水)

### 議 題：1. 授業参観結果の公表

グループ単位ごとにまとめた内容を、「FD委員会 授業参観まとめ一カテゴリ化の例一」に基づき、FD委員を2名1組で4グループ編成し、各委員(グループ)が最適と考えるカテゴリごとに集約する。

分担は、次のとおりとする。

項目：A—2・A—4	担当 田中委員・高木委員
A—3・A—4、B—3・B—4	担当 鈴木委員・賀屋委員
B—1・B—4	担当 山田委員・西村委員
B—2・B—4	担当 高橋委員・芝崎委員

参考：A—1 授業態度、A—2 授業への取り組み、A—3 教員とのコミュニケーション、A—4 その他、(Aは学生を対象)

B—1 授業展開、B—2 教材の使い方、B—3 学生とのコミュニケーション、B—4 その他(Bは教員を対象)

### 2. 第3回FD研究会の日程変更

第3回として予定したFD研究会は、平成20年4月に着任する教員も含めた「医療教育ミニ・ワークショップ」として行うことに変更し、3月8日(土)・9日(日)に開催することに決めた。

### 3. アンケート調査内容の検討と実施

アンケート調査内容は、再度種々の意見が出され継続協議とすることになった。

### 4. 大学コンソーシアムひょうご神戸

「学士課程教育の再構築に向けて(審議経過報告)」(平成19年9月18日中央教育審議会大学分科会制度・教育部会 学士課程教育の在り方に関する小委員会)に基づき教職員の職能開発について説明の後に、当該コンソーシアムに本委員会から、山田委員を推薦することになった。

### 5. ICT 関連の教育方略に関する説明会の開催

標記ICT関連の教育方略に関する説明会を情報教育担当教員と共同開催する方向で検討することにした。



## 【第6回】平成19年11月5日(月)

## 議 題： 1. 授業参観結果の公表

授業参観結果の公表は、各委員から提出のあった A—1～B—4 の項目毎のカテゴリ別に分類されたデータ等を更に総合的な見地から報告書形式にまとめ直しすることにした。

また、公表は対象者を全教員とし、公表する際には、議題2で協議するアンケートを併せて実施（配布）することになった。

## 2. FD 活動に係るアンケート調査内容

種々の意見に基づき、高橋委員が最終的にまとめることになった。

## 3. その他

ICT 関連の教育方略に関する説明会は、田中委員が担当することになった。

## 【第7回】平成20年1月8日(火)

## 議 題： 1. 授業参観結果の報告書（案）

報告者は、表紙部分の記載内容や各項目の数値化等の加筆・再整理を行う。

また、授業担当者から原本閲覧の希望があった場合は、個々の委員は対応せずに委員長に申し出てもらい氏名を伏せた状態で閲覧を許可することにした。

## 2. FD 活動に係るアンケートの調査内容（最終案）

最終案を了承し、アンケートを実施する運びとなった。

## 3. ICT 関連の教育方略に関する説明会の開催に向けた進捗状況等

他大学で上手く活用されている「Web CT」の導入事例を紹介する方向で、4月上旬頃（予定）とすることになった。

## 4. 医療教育ミニ・ワークショップ

開催に向けて進捗状況や内容等について確認し、当日に向けて必要事項を協議した。

## 6 広報委員会

広報委員会の役割としては、大学案内、ホームページ、オープンキャンパス、そして入試関係の広報活動が担当であり、各学部、共通教育センター、事務からの委員で構成し、これまで広報活動を進めてきた。その過程で、情報関係、入試関係については、広報とは切り離して進めるべきと意見から、上記の業務に集約して活動してきた。新たな大学の中で重要な役割をもつことから、学長が委員長となってスタートした。以下、オープンキャンパス、HP、大学案内、高大連携の各項目別にまとめる。

## 1) オープンキャンパス

## ①2006年度

開学前の2006年7月～11月の間に計4日間 兵庫医科大学キャンパスにおいて実施した。参加者は受験生ベースで延べ796名であった。

## ②2007年度

2007年7月15日、8月11、12日、9月2日、の計4日間で、すべて新しい神戸キャンパスで行った。4日間の参加者は受験生ベースで、延べ1,409名であった。

また、2008年度オープンキャンパスについて検討し、日程およびテーマを下記のとおり決定した。

- 第1回       ： 6月22日(日)                   「卒業後の将来像」
- 第2回       ： 7月19日(土)                  「講義体験」
- 第3・4回   ： 8月9日(土)・10日(日)       「体験実習」
- 第5・6回   ： 8月23日(土)・24日(日)      「チーム医療を学ぼう」

※なお、第5・6回の日程は、ポーアイ4大学による合同開催（同時開催）日とする。

## 2) 大学案内の制作

- ・2008年度学生募集用大学案内を製作した。
- ・2009年度学生募集用大学案内制作のため、2008年5月末完成を目指して、業者選定、内容の検討を行った。

## 3) ホームページ（大学公式WEBサイト）の改修

- ・開学前から引き続き運営していた大学公式WEBサイト（<http://www.huhs.ac.jp/>）について、フレーム等枠組みの再構築と一部ページのリニューアルを実施した。なお、本件に関しては、広報委員会の下にホームページWGを設置し、同WGを中心に実施した。

## 4) 高大連携へのとりくみ

- ・高等学校内での進学ガイダンス、大学キャンパスでのキャンパス見学とあわせた模擬講義、体験実習等を実施した。今年度は、業者主催のものが中心で、今後も継続するが、高等学校との積極的な交流、連携を図るため、次年度には模擬講義、体験実習等の内容をパッケージ化し、積極的な広報展開を実施することにした。

# 7 環境安全委員会

環境安全委員会は、本学の教育・実験および研究活動における安全確保と環境保全を図るために必要な事項について協議するものである。そのため、必要な小委員会やマニュアルについて協議し、順次発足・作成した。平成19年度は着任している教員も少なく、小委員会としては①廃液処理小委員会と②遺伝子組換え実験安全委員会を設置し、マニュアルとしては①廃液処理マニュアル、②廃棄物（感染性含）処理マニュアル、③遺伝子組換え実験申請マニュアルを作成した。なお、法的にも設置等が義務付けられている動物実験やRI実験に関する委員会も早急に設置する必要がある、その準備委員会が開かれ、実験・研究活動の準備が進みつつある。

## 1 図書館

兵庫医療大学図書館は、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の共通図書館として設置された。本学開学の趣旨に沿って、教員・学生に良質の情報を提供する役割を担っており、現在はまだ蔵書数等は完全ではないが、大学の完成年度までに順次整備を進めていく計画である。

図書・出版分野は近年大きな変革の時期を迎えている。すなわち、グーテンベルグに始まる大量印刷とその流通は情報伝達の遅滞性から、ペーパーレスのオンラインに主役の座を譲った。単に最新の情報を入手するだけであれば、インターネットが最も迅速で確実な方法であるが、教育・情操面を考えるといつの時代も印刷物を閲覧することが重要であり、この点からも当図書館においても利用者に上質の環境を提供することを第一に考え、今後更なる改善を進めていく予定である。

### 1. 図書館の概要

図書館は、P棟3階に位置し、面積は約2,500㎡、席数324席、図書の保管能力は約20万冊と恵まれた環境の図書館である。またグループ学習室（7—10名）20室が併設されている。

図書資料も開学前に単行本5,605冊（和5,023、洋582）、雑誌294誌（和96誌、洋198誌）、視聴覚資料732本、オンラインジャーナル、データベースは下記の13種と契約した。

- (1) Science Direct
- (2) Springer Link
- (3) CINAHL
- (4) SciFinder
- (5) ProQuest Nursing & Allied Health Source
- (6) Cochrane Library
- (7) Serials Solutions 360
- (8) 聞蔵 DNA for Libraries
- (9) BOOKPLUS
- (10) MAGAZINEPLUS
- (11) ネットで百科 for Library
- (12) 医学中央雑誌 Web
- (13) メディカルオンライン（制限付き）

本年度は新規に単行本3,623冊（和3,312、洋311）、雑誌85誌（和45誌、洋40誌）、視聴覚資料145本、メディカルオンラインの制限を解除し契約した。その結果、単行本9,228冊（和8,335冊、洋893冊）、雑誌379誌（和141誌、洋238誌）、視聴覚資料877本、その他 Science Direct、Springer Link、CINAHL、SciFinder により延べ約3,500誌の雑誌が閲覧可能になっている。

- |   |        |
|---|--------|
| (1) Science Direct                          | 545誌   |
| (2) Springer Link                           | 1,280誌 |
| (3) CINAHL                                  | 70誌    |
| (4) SciFinder                               | 1,500誌 |
| (5) ProQuest Nursing & Allied Health Source | 350誌   |

これらデータベース、オンラインジャーナルを利用し資料作成等が行えるようインターネット接続パーソナルコンピュータが22台、視聴覚資料閲覧の専用機種4台、そして学内図書検索システム

(OPAC) 専用機が2台設置されている。

図書館の利用は、19年度の年間開館日が253日、総利用者数は50,819名、内学生が最も多く49,006名、1日平均193.7名利用し、学生1人が年間135.2回利用したことになる。教員は1,806名、1日平均7.1名になる。

## 2. 図書館委員会

図書館の運用に関する重要事項を審議するために設けられた。開学1年目ということで審議事項も多く、平成18年度の集書状況を参考に、平成19年度選書手順を定め、集書、選書、蔵書、開館、大学間の協力等、大学図書館としての幅広い審議を行った。

特に新規購入図書は、全教員の意見を聴取してバランスの良い収集を行うため、80%以上の教員が就任する平成20年度に使用できるよう、設置経費での購入図書は極力制限した。

さらに、分類別図書構成表を作成し、資料収集基準も定め平成20年度選書に備えた。

第1回図書館委員会 平成19年7月2日(月)

- 1) 平成19年度設置経費選定図書購入
- 2) 利用者依頼選定図書購入
- 3) 夏季休業中の開館時間
- 4) 土曜日の開館

第2回図書館委員会 平成19年9月10日(月)

- 1) 平成19年度設置経費選定図書購入
- 2) 現行雑誌の継続購入
- 3) 分類別図書構成表の作成
- 4) 土曜日と祝日が重なった場合の取り扱い

第3回図書館委員会 平成19年10月16日(月)

- 1) 平成20年度新規購入雑誌
- 2) 学長に対する選書依頼

その他

ポートアイランド4大学の図書館と連携事業を進めるべく、定期的に協議を行っている。

## 2 保健管理センター

兵庫医療大学学生が勉学に従事するにあたって、身体的、精神的に健全な状態を保つことを目的として、兵庫医療大学の保健管理センターは開学当初より設置されている。当センターは保健室と学生相談室の2部門より構成され、学生を対象として急な体調の変化やこころのなやみの相談に応じている。

定期健康診断や予防接種などは、学生たちにとっては受動的に与えられた事柄であるが、できれば積極的かつ自発的に当センターを利用してもらえたらと思う。つまり病気や事故の際には当然利用することになるが、本来これらの事柄は発生しないことが望ましい。病気になるまでに何らかの徴候を自覚した時点で気楽に当センターに相談してもらえれば重篤な自体を未然に抑止することにつながる。幸いなことに平成19年度一年間が経過し学生たちの間に当センターが徐々に認知されるようになっており、今後さらに健康増進活動を推進して行きたいと考えている。

### 1. 保健室

保健管理センター

場 所：保健室 72㎡

スタッフ：医師1名 保健師1名

#### (1) 健康診断の実施について

平成19年度4月に開学し1年生の健康診断を兵庫県健康財団に全面委託して内科診察や胸部レントゲン、身長・体重測定を実施した。また早期臨床実習に伴い、健康診断時に水痘・ムンプス・麻疹・風疹の抗体検査を併せて実施した。問診となる健康調査票を本学独自で作成し健康診断の受付後、健康調査票の記入を促し、健康管理に役立てた。また健康調査票の内容で必要性のある学生には保健師による面談を行った。

健康診断の結果は、抗体検査結果説明会時に全員に渡した。定期健康診断実施者数で、胸部X線直接撮影の未受診者1名については、医療機関による証明書提出により対応した。

#### ア. 日時

平成19年4月19日(木)12:30～15:00

平成19年4月20日(金)12:30～15:00

平成19年4月23日(月)9:00～11:00

平成19年4月27日(金)14:00～16:00

#### イ. 会場 地域連携実践センター

#### ウ. 実施医療機関 兵庫県健康財団



## 健康調査票の内容

1. 今まで大きな病気（長期間治療していた病気、結核、発作等がおきる病気、手術や入院をした病気、精神病等）にかかったことはありますか。〈はい・いいえ〉

病 名

年 齢

手 術 名

入院期間

2. 在治療している病気はありますか。〈はい・いいえ〉

病名

医療機関名

治療状況（通院間隔・内服薬の有無等）

学校生活支障〈有・無〉

有→内容は

3. アレルギー（アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、ぜんそく、蕁麻疹等）はありますか。〈はい・いいえ〉

病名

薬

食べ物

4. その他、気にかかることはありますか。（生理痛、体質、不眠、不安、ストレス等）

## 健康診断時に実施した健康調査票の内容

## 定期健康診断実施要項

実施対象者	実 施 項 目	実 施 期 間
在学生全員	胸部 X 線直接撮影 身体計測（身長・体重・BMI） 内科検診 視力測定	実施期間：平成19年 4 月19日～ 平成19年 4 月27日

## 平成19年度学生定期健康診断実施者数

	対 象 者	健 康 診 断		胸部 X 線直接撮影	
		実施者数	受 診 率	実施者数	受 診 率
薬学部	178	178	100%	177	99.4%
看護学部	112	112	100%	112	100%
リハビリテーション学部	88	88	100%	88	100%

## (2) 抗体検査・ワクチン接種・確認抗体検査の実施について

病院実習の感染予防対策として、入学後に水痘・ムンプス・麻疹・風疹の4種ウィルスの抗体検査（水痘：CF法、ムンプス・麻疹・風疹：HI法の測定）を定期健康診断時にあわせて実施した。抗体陰性者には早期臨床実習までに学内でのワクチン接種するよう促した。ワクチン接種は兵庫県健康財団に委託し、学内で実施することができた。体調不良等により学内で実施できなかった学生は、本人自己負担で医療機関に受診し接種させた。抗体陰性者は風疹＜水痘＜ムンプス＜麻疹の順に頻度が高くなっている。麻疹とムンプスに関しては学生の約半数がワクチン接種する状況であった。また教員へも同様に実施したが学生同様、抗体陰性者の数は風疹＜水痘＜ムンプス＜麻疹の順に多かった。ワクチンの接種順は陰性のあるものから水痘・ムンプス・麻疹・風疹の順序で接種するように勧奨していたが、2007年春頃より関東を中心に麻疹が流行し始め、6月頃には関西の大学でも休校措置をとる大学が相次いだため、本学では麻疹陰性者には早めにワクチン接種ができるように接種順序を変更する対応を行った。また、ワクチン接種後の抗体を獲得したかどうかの確認抗体検査IgG抗体測定法（EIA法）を実施した。確認抗体検査の結果、陰性者・擬陽性者に対しては、次年度、再度ワクチン接種を促した。本学のワクチン接種に対する趣旨への理解が得られ抗体が陰性の学生に関しては休学者や長期欠席者以外全員に接種することができた。

## ア. 日時

抗体検査：定期健康診断日

ワクチン接種：平成19年5月23日(水)12:00～17:00

平成19年6月20日(水)12:00～17:00

平成19年7月18日(水)12:00～13:30

確認抗体検査：平成20年1月21日(月)～23日(水)12:00～16:50

## イ. 会場 地域連携実践センター

## ウ. 実施医療機関 兵庫県健康財団4

## 第1学年生の抗体検査とワクチン接種状況

	陽性者	学 生			
		陰性者 (率)	学内接種者	医療機関接種者	未接種者
水痘ワクチン	304	74 (19.6)	73	1	0
ムンプスワクチン	187	191 (50.5)	188	2	1
(麻疹)	158	220 (58.2)	213	6	1
(風疹)	337	41 (10.8)	41	0	0
MR ワクチン	200	236 (54.1)	229	6	1
計		501	490	9	2

※未接種者は休学者のため接種できなかった

## 教員の抗体検査とワクチン接種者数

	陽性者	教 員		
		陰性者（率）	学内接種者	未接種者
水痘ワクチン	38	14 (26.9)	13	1
ムンプスワクチン	32	20 (38.5)	17	3
（麻疹）	27	25 (48.1)	24	1
（風疹）	43	9 (17.3)	9	0
MR ワクチン	14	28 (66.7)	27	1
計		0	63	5

## 確認抗体検査の実施状況

	在籍者	検査対象者	学内検査者	未検査者	検査対象外 （4項目陽性者・ 休学者）
医療薬学科	178	141	140	1	37
看護学科	112	89	89	0	23
理学療法学科	44	36	35	1	8
作業療法学科	44	35	35	0	9
計	378	301	299	2	77
教員	56	42	30	12	14
合計	434	343	329	14	91

※学生の未検査者は長期欠席のため接種できなかった

## (3) 保健室利用者状況について

保健室利用者は7月、6月に次いで5月が多い。「面談・説明」は抗体検査やワクチン接種関連の説明によるものが多いため、前期に「面談・説明」が多い。

## 平成19年度症状別保健室保健室利用者数

	内 科	外 科	その他	相 談	ベッド 休 養	医療機関 タクシー搬送	救急車 搬 送	面談・ 説 明	測 定	その他
4月	15	12	3	5	5	0	0	26	1	2
5月	31	19	8	19	15	0	0	84	5	1
6月	22	28	11	24	11	0	0	82	20	13
7月	27	24	11	18	14	0	0	58	43	31
8月	3	6	2	4	0	0	0	12	3	15
9月	6	3	2	0	2	0	0	1	2	4
10月	31	16	11	9	9	1	0	20	10	30
11月	17	8	6	9	2	0	0	5	19	19
12月	14	18	5	7	4	1	0	7	4	27
1月	32	20	6	8	16	1	0	42	12	49
2月	17	8	6	9	2	0	0	5	19	19
3月	8	0	1	2	3	0	0	36	5	0

#### (4) 教職員健康管理について

教職員の定期健康診断は労働安全衛生規則第43条に基づき兵庫県健康財団へ全面委託して学内で実施した。対象者77名のうち受診は74名（受診率は96.1%）であった。

## 2. 学生相談室

兵庫医療大学学生相談室は、平成19年4月の大学開学から一ヶ月後の平成19年5月に開室された。当相談室は、保健管理センターの中にあり、修学中などの悩みの相談を受けることを目的としている。初年度は、毎週火曜日9時から5時の週一回のみの開室であり、相談員も1名体制であった。また、一期生一学年のみの修学であったが、開室が5月ということもあり相談室の広報が学生に十分行き渡っていたとは言えない状況であった。

前期には対人関係や自分自身の性格について、またこれまでの人生で持ち越してきた家庭内の悩みなどが多くみられ、新設の大学に入学してきた一年生は、新しい環境に戸惑うことが多かったのではないかと想定している。後期には、大学の環境にも少しずつ慣れてきて友人もでき対人関係全般に関する悩みは落ち着いてきたが、修学全般に関する問題、つまり就職や将来の進路・授業などの学業などの悩みなどが多くみられた。学科別の利用件数では、3学部4学科の中で薬学部の学生の利用が多かった。

後期に入り授業で学ぶ内容がより専門的になると、自分自身の将来に対する目的意識と実際の学業とのギャップに悩むという問題も生じるようである。当大学が次世代の医療専門職の育成を目的とする大学であるということを考えると、今後ますますこのような問題は生じてくるであろう。このような問題が生じたとき、教員からの各学部・学科毎の専門性についてのアドバイスが必要となる。一方相談室では学生話をじっくり聴く中で、学生が問題をとらえる力や、視点を広げられるような関わりをしながら、学生自身が自分の方向性を決めていけるような、丁寧なサポートが必要とされる。また学生が困った時いつでも利用できるように、相談室の存在をさらに学生に知ってもらうため、オリエンテーションやイベントなどを通じてさらに広報活動を行っていくことが大切である。

平成19年5月～平成20年3月迄の相談内容別件数

学 科	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路						5	6	4				15
異性問題												
授業など学業									4	1	1	6
友人等との対人関係	2	4	4	1								11
性格	2	2	1									5
経済問題(家計・学費・ローン等)												
価値観												
健康												
課外活動												
家族や家庭内のこと			4	2	1				1			8
その他												
合 計	4	6	9	3	1	5	6	4	5	1	1	45

### 3 地域連携実践センター

地域連携実践センターは、平成19年10月に第1回の公開講座・健康相談を開催し、活動を開始した。地域連携実践センターの設置の目的は、地域との連携を推進するためにあり、地域連携推進委員会が、地域連携に関するイベント等の企画、実施に関する活動を推進する。ポートアイランドの近隣に居住の方々の健康の維持増進と回復のために、本学の教員が専門知識や技術を披露し、また活用していただくことを目標にセンターにおける活動を始めることにした。

#### 1. 地域連携実践センターの施設・設備の概要

地域連携実践センターは、大学設置準備室の段階から企画され準備されたものであり、ホールを経て5室の小部屋と、セミナー・会議・活動のための2室の大きな部屋から成り立っており、多用途に使用できる。また、P棟の2階に位置しており、正面玄関から入り階段を登ってすぐ近くに入口があり、講堂オクタホールに隣接し、また渡り廊下を経てM棟2階の教室にも近い位置にあり、さまざまな企画が可能である。企画共用セミナー室には、少人数の公開講座等を行うことができるように机・椅子を設置した。

ホールには壁面一杯に下方に本棚を設け、上方に大きな掲示版を新しく造った。本を約100冊購入し、来校者の方々に待ち時間等に閲覧いただくことにした。蔵書には子どものための絵本も含めてあり、また小部屋には玩具を備え、自由な遊びができるように配慮した。掲示板は、学部毎に特集を組み、教員が学会等で発表したポスターを掲示し、各学部でのそれぞれの教育研究活動を中心に、学生の授業時の発表内容も順次掲示することとした。学部教員が担当する公開講座毎に年4回新しく入れ変えることにした。薬学部が所蔵する漢方薬の展示とその説明ポスターも展示し、短時間の説明を行った。

#### 2. 地域連携実践センターの活動

地域連携実践センターの活動の企画と運営は、地域連携推進委員会により行うことにした。委員会は、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部・共通教育センターより選出された各1名の教員と管理運営事務職から構成されている。平成19年度は、公開講座と健康相談を中心に活動を開始することにした。3学部1共通教育センターから1名の教員が、講演を順次担当した。それぞれビデオを撮影して映像を蓄積し、将来はアーカイブとして陳列し、いつでも閲覧できるように備えつつある。

公開講座と同時のタイミングに「個別健康相談」を本学の複数の教員が受けることにした。公開講座時のテーマを中心に先生方が集まり、本センターの委員も参加して、健康に関して幅広く相談を受けることができるように、控えることにした。

地域住民への公開講座と健康相談に関する広報活動は、センターニュースを発行し、講座と健康相談の予定と内容の概略を掲載することにした。平成19年度は後期の9月・11月・12月・1月に4回発行した。A4版の表裏にカラー印刷し、2500～2800部印刷した。神戸新聞（折込み）、三宮駅（ポータルライナー）市民病院前薬局（2店舗）、港島自治連合協議会、紀伊国屋書店（神戸そごう内）、兵庫医科大学病院他等に配布した。



### 3. 地域連携推進委員会

#### 公開講座

	開催日	テーマ・講師	参加者	アンケート回収数	回収率
第1回	2007年 10月20日(土)	「くすりと賢く付き合うには」 西原 力 薬学部長	30	30	100%
第2回	2007年 12月11日(火)	「自分のからだについて学ぼう —乳がん自己検診法について—」 鈴木 久美 看護学部 教授	4	4	100%
第3回	2008年 1月26日(土)	「発達の気がかりな子どもの心の世界」 伊藤 斉子 リハビリテーション学部 准教授	14	12	85.7%
第4回	2008年 3月15日(土)	「中高年の生活習慣を考える —メタボリック症候群について—」 末廣 謙 共通教育センター 教授	34	31	91.2%

#### 〈出張公開講座〉(ポートピア保育園にて開催)

	開催日	テーマ・講師	参加者	アンケート回収数	回収率
	2008年 2月23日(土)	「健やかな子育て —就学準備のために—」 有吉 正則 リハビリテーション学部 講師	7	7	100%

#### 健康相談

実 施 日	担 当 者	内 容	件数
2007年10月20日(土)	西原 力 (薬学部長)	くすりの相談 (一般)	3
	竹下 治範 (薬学部 助手)	くすりの相談 (服薬相談)	2
	岩岡 恵実子 (薬学部 助手)	くすりの相談 (生薬・漢方薬)	2
	末廣 謙 (共通教育センター 教授)	内科一般の病気とくすり	3
計			10

実施日	担当者	内 容	件数
2007年12月11日(火)	健康相談希望者 なし		0
2008年1月26日(土)	伊藤 斉子 (リハビリテーション学部 准教授)	発達の気がかりなこども相談 1	3
	有吉 正則 (リハビリテーション学部 講師)	発達の気がかりなこども相談 2	1
計			4
2008年2月23日(土)	有吉 正則 (リハビリテーション学部 講師)	発達の気がかりなこども相談 2	3
計			3
2008年3月15日(土)	垣下 榮三 (共通教育センター長)	高齢者の病気、血液の病気	3
	末廣 謙 (共通教育センター 教授)	動脈硬化と血栓症	3
	岩崎 剛 (薬学部 教授(予定者))	リウマチについて	1
	山本 悟史 (薬学部 教授)	麻酔および神経のこと	1
	富永 真己 (看護学部 准教授)	生活習慣病の予防	1
	八野 芳巳 (薬学部 教授)	くすりのこと	4
	川口 浩太郎 (リハビリテーション学部 教授)	中高年の運動処方相談	3
	土居 洋子 (看護学部長)	呼吸器疾患・糖尿病など長期療養生活の相談	1
計			17

#### 4. 地域連携実践センター内の整備

##### (1) 展示室・企画共用セミナー室の整備

①展示室・企画共用セミナー室にカーペットを敷いた。

②展示室の掲示板、資料棚、書架を設置した。

##### (2) 展示室の書架に書籍を約100冊配置した。

##### (3) 企画共用セミナー室に少人数の公開講座等を行うことができるように机・椅子を設置した。

## 研究施設活動

本学の研究施設としては、各学部の研究室（薬学部の場合は G 棟 2・3 階の薬学研究室 1—15 と共通教育研究室）以外に、医薬共同先端医療研究センター、動物実験センター、RI 実験センター、および共同機器室 1—6 がある。平成19年度においては、それぞれの施設においてまずは整備計画の策定、機器の設置の準備で始まった。上記のうち、教員が着任し、施設の実際の運用・使用は前 2 施設と共同機器室 1 のみであった。

### 1 医薬共同先端医療研究センター

医薬共同先端医療研究センターは、医薬・医療に関する最先端の研究開発を行い、その成果を疾病の予防及び治療に反映させることを目的として、兵庫医療大学に医学及び薬学等の関連分野の研究推進を図るため設置された特色あるセンターである。

設置準備室時から準備委員会が開催され、平成19年 9 月末に内装工事が完了し、設備が整い、10 月から 2 プロジェクト【1：新世代アデノウイルスベクターならびにベクター大量生産基盤技術の開発とがんの遺伝子解析技術の臨床応用（プロジェクトリーダー 後藤章暢教授）、2：悪性中皮腫の治療法の確立と予防方法の開発に関する研究（プロジェクトリーダー 西崎知之教授）】が研究活動を開始した。これに連動して、兵庫医療大学の教員を対象として、開所記念研究セミナーが以下のプログラムで10月29日に第 1 回大学研究セミナーと同時開催された。

日時：平成19年10月29日(月)14:00—16:20

会場：M487A&B 会議室

司会／西原 力 薬学部長

14:00— 挨拶

松田 暉 学長

14:10— 新規認知症治療薬開発の最前線

兵庫医科大学・生理学第 2 講座 西崎知之 教授

14:40— 細胞・遺伝子治療薬の開発に向けて

兵庫医科大学・先端医学研究所

細胞・遺伝子治療部門 後藤章暢 教授

#### 1) 研究室 1

##### 研究報告

##### ア．抗認知症治療薬の開発

DCP-LA は我々によって開拓された新規化合物で、これまで各種痴呆モデルにおける優れた改善効果、および PLC- $\gamma$  選択的活性化等の興味深い in vitro 効果を報告している。現在、創薬体験を有するメリットを活用し、DCP-LA をベースとした大学発創薬の実現を目指し、研究遂行中である。

## イ．新規創薬ターゲット探索研究

独自に開発した汎用的アフィニティ樹脂関連技術を活用し、生理活性物質ターゲット探索（天然物、医薬品、新規物質など）を目的とし、国内外の製薬企業・研究機関（アステラス製薬、Stanford 大学、理化学研究所、大阪大学等）との共同研究を展開している。また、市販を目指したアフィニティ樹脂用固相担体開拓も遂行中である。

## 2）研究室 2

### 研究報告

#### 平成19年度活動報告

我々の研究テーマは癌に対する新規遺伝子治療法の開発である。本年度は11月に新しく完成した研究室の移転に伴う環境整備および次年度以降に行う研究にむけた準備を行った。

環境整備面では、アデノウイルスベクターの使用に伴う P2実験室の整備などを行い、研究に向けての準備としては、今回の研究室新設に伴い研究材料の移動が必要であったため、我々が所有する約 20種類の癌細胞株のグロースやさまざまなプラスミドベクターの機能確認を行った。

また、次年度に行う予定の「癌細胞株に対するファイバー改変アデノウイルスの遺伝子導入効率の検討」に向けて、各癌細胞株における同ウイルスのレセプターの発現を検討した。多くの癌細胞株でレセプターの高発現が認められたため、次年度に導入効率の検討や治療用のベクターを用いた抗腫瘍効果の検討を行う予定である。

## 2 共同機器室

本学における研究・教育活動を効率よく推進するための共同利用施設として、高度な研究機器を配した共同機器室が設置されている。これまでに核磁気共鳴装置やフローサイトメーターをはじめとする研究機器が導入され、先端的な研究活動を支える環境が整えられつつある。共同機器室は設置された機器の効果的な運用を通じて、ライフサイエンスを広くカバーする高度な研究活動の場を提供するばかりでなく、様々な専門をもつ本学研究者の活発な交流や次世代の医療科学を担う学生の教育に重要な役割を担うことが期待されている。

以下に配置された機器を紹介する

### 1）共同機器室 1 NMR 関係

- ・超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置（NMR）
- ・NMR system PS600型（600MHz）（Varian 社）
- ・JNM-ECX400PKS 型（400MHz）（日本電子株）

### 2）共同機器室 2

- ・生体成分相互作用解析装置 Biacore3000システム（Biacore 社）

### 3) 共同機器室 3

- ・共焦点レーザー顕微鏡 FV1000-D (オリンパス社)
- ・正立蛍光顕微鏡 BX51-FL (オリンパス)
- ・Ca<sup>2+</sup>イメージング装置 Fura 2 レシオイメージングシステム (浜松フォトニクス社)
- ・フローサイトメーター FACS Aria II (ベクトンディッキンソン社)
- ・P2 実験室 (細胞)

### 4) 共同機器室 4

- ・サーマルサイクラー PCR system9700 (Applied Biosystems 社)
- ・RealTime PCR StepOnePlus-01 (Applied Biosystems 社)
- ・レーザースキャナ型イメージアナライザー Typhoon Trio (GE 社)
- ・CCD カメラ型イメージアナライザー ImageQuant400 (GE 社)
- ・卓上超遠心機 OptimaMax-XP (ベックマン社)
- ・高速冷却遠心機 Avanti HP-30I (ベックマン社)
- ・多本架け冷却遠心機 CF12RX (日立工機社)
- ・倒立ルーチン顕微鏡 CKX41 (オリンパス社)
- ・実体顕微鏡 SZ61 (オリンパス社) SZX10 (オリンパス社)
- ・振動刃ミクロトーム VT1200S (ライカ社)
- ・ポリトロンホモジナイザー PT3100/PT1200E (kinematica 社)
- ・超音波破碎装置 Model 250D-Advanced (Branson 社)
- ・遺伝子導入装置 Xcell コンプリートシステム (バイオラッド社)

### 5) 共同機器室 5

- ・超低温フリーザー (-80℃) MDF-U383 (三洋電機社) 低温室 P2実験室 (微生物)

### 6) 共同機器室 6

- ・超高精度 LC-MS MS システム ESI-Q TOF/LC-MS システム (ブルカーダルトロニクス社)
- ・高速液体クロマトグラフ・三次元分析システム LaChrom Elite 三次元分析システム (日立ハイテク社)
- ・高速液体クロマトグラフ・分取分析用システム LaChrom Elite 分取分析用システム (日立ハイテク社) \*紫外吸収検出器セットと示差屈折検出器セットの2セット
- ・フーリエ変換赤外分光光度計 FT/IR-4100 (日本分光社)
- ・旋光度計 P-2100 (日本分光社)
- ・吸光/蛍光プレートリーダー SpectraMax M2e (Molecular Devices 社)
- ・発光プレートリーダー SpectraMax L Dual Injectors (Molecular Devices 社)
- ・ウルトラミクロ天秤 XP26 (メトラートレド社)



- ・ロータリーエバポレーター（バス、減圧ポンプ、冷却水循環装置付き） R-210V（ビュッヒ社）
- ・接触還元装置（水素発生装置付き）CH-100（石井理化機器）

### 3 動物実験センター

本センターは、動物愛護管理法、実験動物飼養保管基準及び動物実験基本指針を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営されている。実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験などのバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発などを支援している。

実験動物の飼養（保管）届出済証 第08—01号（神戸市保健所）

公私立大学実験動物施設協議会会員

#### 実施・確定事項

2007年4月 兵庫医療大学開学 動物実験センター（G106）設置

2008年2月 動物実験センター構造上の問題点を確認・工事依頼

3月 動物実験センター改修工事（床の防水処置、フィルター設置他）終了

4月 自動給水装置、自動洗浄装置、飼育ラック、飼育ケージの設置

5月 動物実験用備品アンケート集計・購入備品案決定

6月 動物実験センター規程施行

7月 動物実験センター運営委員会発足

センター長に山本悟史教授（薬学部）が就任

実験動物管理者に伊東久男教授（共通教育センター）が就任

田中リーダー（管理・運営グループ 動物実験センター担当）着任

8月 飼養者に加藤氏（㈱ケーエーシーより派遣）着任

実験用備品搬入開始

9月 排気口防虫トラップ設置工事終了

10月 動物実験センター利用手引の立案・作製

飼育設備動作トライアル終了

11月 動物実験センター利用者説明会開催

動物飼育開始

# 全学的研究推進活動

## 1 研究セミナー

3学部1センターがボーダレスに連携することが本学の大きな特徴であるが、研究面でもお互いに交流し、情報交換をおこない、互いに相手を知ること重要である趣旨から、全学的な研究セミナーを定期的に開催した。以下、初年度に行われたものを紹介する。

研究セミナー開催一覧表

開催NO	日 時	場 所	担当部署	テ ー マ	発 表 者	所 属
1	平成19年10月29日(月) 14:00～16:20	大会議室	薬学部	新規認知症治療薬開発の最前線	西崎知之 教授	兵庫医科大学・生理学第2講座
				細胞・遺伝子治療薬の開発に向けて	後藤章暢 教授	兵庫医科大学・先端研究所 細胞・遺伝子治療部門
				大学発の創業を目指して	田中明人 教授	薬学部
				1分子イメージングによる生体分子の機能解析	佐藤江利子 助教	薬学部
2	平成19年11月19日(月) 17:00～18:00	M202	リハビリテーション学部	カナダ・アメリカ合衆国における大学院での理学療法教育について	川口浩太郎 教授	リハビリテーション学部
				「温熱療法の効果」—ラットあし間接ギブス固定モデルを用いた応用性症候群予防効果の検討—	坂口顕 講師	リハビリテーション学部
3	平成19年12月18日(火) 18:00～19:00	大会議室	看護学部	尿道カテーテル留置患者の感染防止効果を高める看護ケア	土田敏恵 教授	看護学部
4	平成20年1月17日(木) 17:00～18:00	M114	共通教育センター	血友病とHIV	垣下榮三 共通教育センター	共通教育センター
5	平成20年3月3日(月) 17:00～18:10	M114	薬学部	新しいペプチド立体構造の構築	塚本効司 助教	薬学部
				神経変性疾患における神経細胞死の新たなメカニズムの解析を目指して	西山信好 教授	薬学部

## 2 科学研究費等の申請

科学研究費や外部資金獲得のために、管理運営グループが中心となり、教員への情報提供を進めると共に、科学研究費申請にあたっては全体説明会を開催して周知に務めた。

平成19年度（平成20年度科学研究費補助金）において申請した数を下記に示す。

平成20年度科学研究費補助金申請一覧（平成19年11月申請）

（件数）

区分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	共通教育センター	計
特定領域研究	2	0	0	0	2
基盤研究(B)	2	1	0	0	3
基盤研究(C)	3	1	3	1	8
萌芽研究	3	1	2	2	8
若手研究(B)	4	2	1	2	9
計	14	5	6	5	30

## 各 部 門 の 活 動

### 1 共通教育センター

#### 1. 概 要

兵庫医療大学は平成19年4月、薬学部医療薬学科、看護学部看護学科、リハビリテーション学部理学療法学科および作業療法学科の3学部4学科で開学したが、これに伴い各学科における幅広い教養教育および本学の中心的理念であるボーダレスな教育体制を支える目的で共通教育センターが設立された。初代センター長は本学の開設準備室長として開学まで3学部共に細部まで精通されていた垣下榮三兵庫医科大学名誉教授であった。多様化する患者のニーズに応え、最適な医療を提供することのできる医療者は、各々の専門領域についての深い知識と技術を習得していると同時に、幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材であることが求められる。また本学のキーワードである「チーム医療」を実践するためには他職種の専門性に対する深い理解も不可欠であり、これらを身につけた優秀な医療者を育成する点において共通教育センターの持つ教育的使命は中核的なものであるといえる。

#### 2. 2007年度 共通教育センター 専任教員構成

職 名	氏 名	主な担当教科
センター長	垣下 榮三	医療科学概論
教 授	磯 博行	心理学、行動科学、人間発達学
教 授	磯部 孝彦	化学、有機化学、基礎実習
教 授	伊東 久男	生物学、形態機能学、解剖学実習
教 授	末廣 謙	医療科学概論、内科学、疾病治療論
教 授	秦 正哲	英語発音、英文読解、英語文法
教 授	藤田 幸久	化学、物理化学
教 授	前田耕一郎	物理学入門、物理学、基礎実習
講 師	加藤 精一	情報科学、応用情報科学
講 師	賀屋 光晴	スポーツ健康科学、体育科学理論・実習
講 師	高木 範子	英語発音、英文読解、英語文法

#### 3. 教育活動

共通教育センターでは、全学部の基礎分野科目を中心に担当している。科目内容は、英語、国語表現、数学、第二外国語、情報科学、体育、音楽、美術から哲学、社会学、人間発達学、カウンセリング論など、多岐にわたっている。さらに生物学、化学、物理学、解剖学、行動科学、医療科学概論などの専門基礎分野の科目も担当している。

授業は主に1年生が対象であり、2007年度は垣下センター長はじめ共通教育センターの10名の専任教員（教授7名、講師3名）と多数の非常勤講師がこれらを担当した。以下に専任教員が担当した科目の概要を示す。

##### (1) 化学、物理化学Ⅰ、化学基礎実習（藤田幸久教授）

基礎科目「化学」（薬学部1年前期）の担当にあたって、薬学コアカリキュラムの内容を十分に検討し、薬学専門教育のための導入教育にふさわしい講義用テキスト（ページ数81）を作成した。講

義は作成したテキストに基づいて進め、講義毎に当日の重要課題を「小テスト」として実施して、学生の理解とその整理を助けるように務めた。また薬学部専門科目「物理化学Ⅰ（化学熱力学）」を担当し、教科書として「化学熱力学中心の基礎物理化学」、（杉原 剛介、井上 亨、秋貞 英雄（著）、学術図書出版）を使用した。より基礎的な項目は、適時講義用資料を作成して配布した。また、講義毎に当日の重要課題を「小テスト」として実施して、学生の理解とその整理を助けるように務めた。化学基礎実習（薬学部1年）では「天秤を用いた基本操作の習得」を担当した。薬学部学生に、化学実験において最も基本的な操作である「電子分析天秤」と「マイクロピペッター」の正しい使用法を習得させるための実習教育であった。また、実験データの解析法として、算術平均、標準偏差、分散あるいはヒストグラムの作成などの統計処理法も指導した。

## （2）心理学、人間発達学、行動科学（臨床心理学を含む）（磯 博行教授）

「心理学」は1学年の前期に開講（薬学部とリハビリテーション学部は必修科目、看護学部は選択科目）、また「人間発達学」は1学年後期に開講（リハビリテーション学部は必修科目、薬学部と看護学部は選択科目）している。「行動科学（臨床心理学を含む）」は、薬学部では1学年の後期に必須科目として、またリハビリテーション学部と看護学部では2年生の前期に開講している。薬学部とリハビリテーション学部は必修科目、看護学部では選択科目となっている。本学のモットーである「ボーダレス」、「チーム医療」という言葉を体現するよう、全学部生が一堂に会して講義を受けるよう配慮した。

これらの3科目は、学期、学年の進行とともに内容は応用的となり、また相互に関連している。まず「心理学」において、知覚、学習、記憶、認知、発達、人格、社会など、人間の基本的な能力や行動様式について学ぶ。さらに、1年生後期もしくは2年生前期の「行動科学（臨床心理学を含む）」は「心理学」のアドバンスドコースである。「行動科学」分野では、「心理学」で学んだ基本を元に、個人が社会に適応して、うまく、良く生きて行くための方法について学ぶ。さらに「臨床心理学」分野は兵庫医科大学臨床心理部長を経験した大和田健夫非常勤講師が担当し、臨床現場での患者の心理について学ぶ。また、「人間発達学」は人の一生をたどる心理学である。幼児期、青年期、成人期、老年期と人はどのように精神的に成長をとげるのか、個体発生と系統発生の面から考察する。「人間発達学」の後半には高齢者の諸問題についてグループ学習を行い、仲間と議論し、意見をまとめさせた。

## （3）生物学入門、生物学、形態機能学、解剖学、解剖学実習（伊東久男教授）

前期は1週間あたり6コマ、後期は1週間あたり10コマの授業・実習を担当した。前期は、薬学部の生物学入門、看護学部・リハビリテーション学部合同の生物学、看護学部の形態機能学1（運動器・神経系）であり、授業の準備から評価まで、すべて伊東教授が担当した。後期は、薬学部の生物学、リハビリテーション学部の解剖学、看護学部の形態機能学2（循環器・内臓系）の計6コマを、前期同様、準備から評価までを担当した。これに加えて後期は、薬学部の基礎実習で、マウスの解剖実習を毎週4コマ、14から16名の学生を対象に指導した。以下、本学の必修科目での授業への取り組みの概要をまとめる。薬学部の生物学は、生物系薬学の準備教育と位置づけ、マウスの解剖実習とリンクさせた解剖生理学的・実験動物学的内容に重点を置いて授業を組み立てた。また遺伝学、分子生物学や進化学などの幅広い生物学的話題にも言及した。看護学部の形態機能学では、看護技術や病理理解のための準備教育として「正常な人間」を科学的に理解することを目的とし、視聴覚器材や模型を多用して学生の理解力向上に務めた。授業の終盤には学生を西宮に引率し、医学部学生の解剖実習の様子を見学させ、互いの学部学生の交流を深めさせる企画も試みた。リハビリテーション学部の解剖学は、専門科目の土台作りと位置づけ、運動器や神経系を中心として授業を組み立てた。模型や実物の



標本をできる限り教材に取り入れるとともに、毎回演習問題を実施・採点・返却し、学生の理解度の確認に務めた。

#### (4) 化学、有機化学 I、基礎実習（磯部孝彦教授）

前期は看護学部を選択科目の「化学」とリハビリテーション学部を選択必修科目「化学」の講義を行った。それぞれの科目について、教科書を指定し、プリントと合わせて講義資料とした。時間の終わり15分ほど練習問題を解かせることにより、理解を深めさせた。内容は物理化学、無機化学、有機化学をふくみ、さらに、放射線化学や環境化学も入っている。

後期は薬学部の専門科目「有機化学 I」を2クラスに分けて講義した。教科書を中心に講義を進め、理解が困難な問題では分子模型を使い、理解度を進めるようにした。内容は混成軌道、アルカン、アルキンなどの炭化水素の命名や反応、また、立体異性体の RS 表示について詳しく説明した。この講義でも時間の終わりに教科書の練習問題を解かせて、答案を提出させた。また、薬学部「基礎実習」は週に2日間あり、基本的には1日目に実験をし、2日目にレポート作成に当てた。磯部教授が実際に担当したのは、「無機陽イオンの定性分析」で、ろ過、加熱、溶液の希釈などといった基本的技術を身につける実験項目であった。

#### (5) 物理学入門、物理学、基礎実習（前田耕一郎教授）

薬学部前期には、高校で物理を履修しなかった学生、あるいは十分に学習できていない学生を対象にして開講されている選択必修科目「物理学入門」において、基礎的な概念についての講義を行った。113名の受講者があり、後期の必修科目「物理学」を履修する際の助けになったものと考えられる。後期には、必修科目として「物理学」が開講されている。日本薬学会の薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいて、物理学は準備教育として位置付けられており、そのガイドラインに沿った内容での講義を行った。多人数（2クラス；86名、89名）での講義であったが、毎回演習を行い、添削して返却することにより、双方向性を持った授業となるよう心がけた。

後期に開講されている必修科目「基礎実習」では、物理学の分野のテーマとしてサーミスタの温度特性を取り上げ、学生に、測定、グラフによる表現、数値計算などを経験させた。

看護学部（前期）選択科目として開講されている「物理学」において、血圧測定の物理的原理など、医療と関連の深いテーマを取り上げて授業を行った。受講生は6名と少人数であったが、そのことを生かし、演示実験を多く取り入れた講義とした。物理現象を実感しながら学ぶ機会が提供できたものと考えている。

リハビリテーション学部（後期）選択必修科目として設定された「物理学」の講義では、人体のパラメータを用いて、具体的に人体の物理量を計算するなど、人体の構造や性質と物理学の関連に重点を置いた授業を行った。受講生は67名であった。

#### (6) 英語科目（秦 正哲教授、高木範子講師）

英語科目（3学部共通）については、前期に「英語発音」と「英文読解（異文化コミュニケーション）」を開講し、後期に「英語文法」と「英文読解（科学英語入門）」を開講した。

「英語発音」の授業では、視聴覚教材を活用して英語音声学理論の基礎を体系的に習得し、学んだ知識に基づいて、英語の運用能力を向上させることを目標とした。英語の音素、音声変化、アクセント、イントネーション等について学習した後、発音練習、聴解練習、スピーチやポスタープレゼンテーション等の演習を行った。

「英文読解（異文化コミュニケーション）」の授業では、2000語レベルの英文を正確に理解する能



力を習得することや、異文化コミュニケーションに関する理解を深めることを目標に定めた。英文要約や本文に関する英問英答等、英語の4技能を関連付けた総合的な読解演習を行い、さらに英文読解能力を向上させる為に、英英辞典の使用法を習得した。

「英語文法」の授業では、実際のコミュニケーションの場面において英語文法が果たす機能に関する理解を深める為、はじめに英語文法を体系的に習得し、その上で学んだ知識に基づいて、英語の運用能力を向上させる訓練を行った。

「英文読解（科学英語入門）」の授業では、2000語レベルの英文を正確に理解する能力を習得することや、科学分野における論理的展開法の基本について理解することを目標に定めた。英文要約や本文に関する英問英答等、英語の4技能を関連付けた総合的な読解演習を行い、さらに英文読解能力を向上させる為に、英英辞典の使用法を習得した。

#### (7) 体育実技、体育科学理論（賀屋光晴講師）

体育実技は、薬学部と看護学部には通年科目として、リハビリテーション学部には前期科目として兵庫医科大学平成記念会館アリーナにて実施した。授業時には学生は各自で現地に集合し、授業終了後は全員が専用バスで大学に戻った。授業は薬学部のA・BとC・D、そして看護学部、リハビリテーション学部の計4グループごとに、非常勤講師2名を含めた3名の教員で実施した。内容は前期の最初に体力測定を行い、その後クラスを3グループに分けてバレーボール、バドミントン、卓球を3週ずつのローテーションで実施した。後期種目はバスケットボール、ショートテニス、卓球として4週ずつのローテーションとした。また前期、後期とも最後の3週はそれぞれの種目を自由選択させて授業した。

体育科学理論は後期科目としてリハビリテーション学部で開講した。健康・体力、運動と身体の反応、身体エネルギー代謝、筋収縮、トレーニング法、疲労・怪我とその対処法、スポーツマッサージとテーピング法などについての講義を行った。またリハビリテーション学部対象の授業ではスカイクロスなどのニュースポーツの体験も行った。

#### (8) 情報科学（加藤精一講師）

大学における学習や情報化社会で仕事を行っていく上で必要な、情報機器による情報伝達手段、表現手法の基礎を身につけ、またこれら情報機器やインターネットの仕組みについて学ぶことを教育目標とした。具体的には教育用PCを用い、インターネットの仕組みやソフトウェアを利用する上での問題について実習を通じて理解させ、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトウェアを複合的に利用してレポート作成や報告ができるよう指導を行った。

#### (9) 医療科学概論（末廣 謙教授）3学部合同 1年前期 2単位

本学における教育理念の根幹をなすボーダレスな教育として最も特徴的なのは全学部学生を対象とした医療科学概論であった。表に示すように学長、副学長、各学部長を中心として総論的な系統講義を全学部1年生全員同時に受講し、その後小グループに分かれて講義内容に沿って定められたテーマについてグループ討議を行った。討議の成果はその後に設けられたグループ発表会において発表された。

2007年度 医療科学概論

回	月	日	曜日	時限	講義内容	担当教員
1	4	13	金	1	医療専門職を目指すにあたって	松田 暉 学長
2	4	20	金	1	先進医療と医療倫理	松田 暉 学長
3	4	27	金	1	感染症との闘いと薬	西原 力 薬学部長
4	5	11	金	1	疾病構造の変化と近年の医療	土肥信之 リハビリテーション学部長
5	5	18	金	1	高齢化社会と医療	垣下榮三 共通教育センター長
6	5	25	金	1	健康生活を支援する医療	佐藤禮子 副学長
7	6	1	金	1	医学の歴史	松田 暉 学長
8	6	8	金	1	医療システムとヘルスプロモーション	末廣 謙 教授
9	6	15	金	1	グループ討議	末廣 謙 教授
10	6	22	金	1	グループ討議	末廣 謙 教授
11	6	29	金	1	グループ発表 1	末廣 謙 教授
12	7	6	金	1	グループ発表 2	末廣 謙 教授
13	7	13	金	1	グループ発表 3	末廣 謙 教授
14	7	20	金	1	療養環境、医療環境における心構え	山田繁代 非常勤講師
15	7	27	金	1	兵庫医大病院の概要	山田明美 非常勤講師

グループ討議および発表テーマ

- (1) 医療者としての心構え (2) 先進医療 (3) 医療の倫理 (4) 疾病構造の変化  
(5) 医療のありかた (6) 高齢社会と医療 (7) 感染症の制御 (8) 健康生活支援

各グループ15分間の発表の後、担当教員や他の学生からの質疑を行ったが、各テーマについての理解を深める意義はあったものと考えられる。

(10) 早期臨床体験実習 (Early Clinical Exposure ; ECE)

この教育企画は早期に医療の実際に直接触れ医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目標とし3学部学生が混合グループを編成し合同で実施された。本学における教育のキーワードは現代医療の中心でもある「チーム医療」で、すぐれた医療者を育成するためにボーダーレスな教育の実施を目指しているが、ECEはまさにこの実践であり、また第一学年次よりこのように大規模な臨床体験ができることは兵庫医科大学を母体とした本学ならではの企画であった。

実習は病棟実習と病院施設見学を各1日ずつとし、学生375名を80グループに分け4日間で行った。病棟実習では学生一人に対して病棟の看護師が一人対応する方式でわずか1日ではあったが、医療の基本である病棟業務を体験した。また病院施設見学は薬剤部、リハビリテーション部ではそれぞれ1時間ずつ担当職員から部の概略についての説明を受け施設を見学し、残りの時間でグループ毎に放射線部、PETセンター、地域連携センター、栄養部など病院各部の見学を行った。

実習終了後、学生たちにアンケートを実施した。その結果、

1. 概ね実習自体は有益であったとの意見が大半を占めた。
2. 自分の所属する学部関連部署以外に興味を示さない者もいた。たとえば薬学部学生は薬剤部見学には興味を示したが、病棟見学などは不要と思っている。看護学部では病棟実習はよかったと思っているが薬剤部見学は不要と感じている。

3. リハビリテーション学部でリハビリ部見学がよくなかったと答えたものは、理学療法科なのに作業療法しかみられなかった、作業療法がみなかったなどこれも自分の所属関連以外には興味がうすい。
4. 院内見学は「たいへんよかった」とする意見が最少であった。

ECE 日程表 (Group1～Group80)

	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)
AM9:00—PM4:00 病棟見学・実習	G1～G20	G21～G40	G41～G60	G61～G80
AM9:30—10:30 施設見学・実習	G21～G25 薬剤 G26～G30 リハ	G1～G5 薬剤 G6～G10 リハ	G61～G65 薬剤 G66～G70 リハ	G41～G45 薬剤 G46～G50 リハ
AM10:30—11:30 施設見学・実習	G26～G30 薬剤 G21～G25 リハ	G6～G10 薬剤 G1～G5 リハ	G66～G70 薬剤 G61～G65 リハ	G46～G50 薬剤 G41～G45 リハ
AM9:30—11:30 院内各部署見学	G31～G40	G11～G20	G71～G80	G51～G60
PM1:00—2:00 施設見学・実習	G31～G35 薬剤 G36～G40 リハ	G11～G15 薬剤 G16～G20 リハ	G71～G75 薬剤 G76～G80 リハ	G51～G55 薬剤 G56～G60 リハ
PM2:00—3:00 施設見学・実習	G36～G40 薬剤 G31～G35 リハ	G16～G20 薬剤 G11～G15 リハ	G76～G80 薬剤 G81～G85 リハ	G56～G60 薬剤 G51～G55 リハ
PM1:00—3:00 院内各部署見学	G21～G30	G1～G10	G61～G70	G41～G50

#### (11) 一次救命処置 (basic life support ; BLS) 講習会

医療系大学生として必要最低限の救命処置を周知させることを目的として、ビデオによる説明と実習用マネキンを用いた BLS 講習を、平成19年8月4日、ECE のグループ発表会に引き続き 5 つの講義室に分かれて行った。

#### (12) 共通教育センター実験室 (G 棟 3 階)

ブラジル産生薬 Cipo cabeludo を材料にして、メタノールおよびクロロホルムでの抽出、濃縮後シリカゲルカラムクロマトグラフィーによる分離の実験を行った。(磯部孝彦教授)

文部科学省 科学研究費補助金若手研究 B

「広域分散ネットワークにおける小型望遠鏡による協調観測システムの構築」(加藤精一講師)

文部科学省 科学研究費補助金特定領域研究

「情報爆発時代に向けた新しい IT 基盤技術の研究」計画研究 A01-00-03「ユビキタスネットワークコンテンツに対する管理・統合基盤に関する研究」(加藤精一講師：分担研究者)

文部科学省 科学研究費補助金学術創成研究「宇宙天気予報の基礎研究」(加藤精一講師：分担研究者)

「環境ホルモン・環境汚染物質が世代を経て学習・行動・認知に及ぼす効果」

北海道大学文学部 和田博美教授との共同研究 (磯博行教授)

「プレパルスインヒビションを用いた健忘型軽度認知障害の診断法の開発」

兵庫医科大学医学部精神神経科学 植木昭紀准教授との共同研究 (磯博行教授)

「LOX-1が認識する酸化 LDL 測定の有用性に関する検討」

兵庫医科大学環境予防医学 若林一郎教授らとの共同研究 (末廣謙教授)

## 2 薬 学 部

(医療薬学科)

### 1. 薬学部の方針

平成19年度は開学1年目の基礎造りの年であり、学生たちは完成したばかりの美しい校舎で先輩のいない大学生生活を手探りで始め、教員たちも新課程の講義・実習のみならず学内外で次々に起こる様々な課題に戸惑いながらも歩み始めた。薬学部的前途には、全国の6年制薬学部とも共有する数々の難題、例えばコアカリキュラムの履修上の課題、学生の学習モチベーションの維持向上や共用試験対策・OSCE対策・病院実習・国家試験対策などがある。しかし、本学の特徴である兵庫医科大学との密接な連携の下、以下の方針に従って、医療チームの一員として信頼され、「くすり」を通じて人の健康と社会の福祉に貢献できる薬剤師を育てることを目指す。

ア. 兵庫医療大学薬学部は、「くすり」について基礎から最先端までの知識（サイエンス）と技能（アート）を身に付け、温かい心（ハート）を涵養する。

イ. 強い好奇心は幅広いサイエンスの習得に、向上心はアートの日々進歩に必須である。

ウ. 毎日、他学部生と同じキャンパスで講義を受けたり歓談したりすることが、将来のチーム医療の礎になる。

エ. 姉妹校である兵庫医科大学病院の臨床現場で実習することにより、患者さんを中心にしたチーム医療を実感し、コミュニケーション能力も修得する。

オ. 温かい心はコミュニケーションをスムーズに進め、患者さんを理解する最大の力になる。

カ. 最も大切なことは、自分自身の健康を保つことである。健康ならば夢を語り、努力することによって必ずや夢は実現できる。

このような志をこの新しい学舎に集う薬学生と教官のみならず、他学部とも共有しつつ、更には近隣のポートアイランド4大学、神戸学院大学・神戸夙川学院大学・神戸女子大学との協力互惠・切磋琢磨をすることにより、兵庫医療大学薬学部の新しい歴史を創造できると信じるものである。

### 2. 概 要

#### 1) 教育理念、目的、目標

##### (1) 教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的実践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成し、チーム医療の一員として信頼され活躍できる薬剤師を養成する。

##### (2) 教育目的

薬学部では、「くすり」（医薬品、化学物質、手段）と「生体」（ヒト、生物／病原体、生体成分）に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指す。

##### (3) 教育目標

①「くすり」と「生体」及びその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師として基盤となる正しい知識を身に付ける。

②生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わ

ることができる豊かな人間性を養う。

- ③ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景をも理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
- ④医療の高度化・多様化及び科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身に付ける。
- ⑤個人にとって安全かつ適正な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
- ⑥優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

### 3. 教員組織

薬学部は6つの専門分野で教員組織を構成している。すなわち化学系基礎薬学、生物系基礎薬学、衛星薬学、医療薬学、臨床薬剤学、未来医療薬学の専門分野である。教員は平成19年4月1日着任者17名と平成19年10月1日着任者2名で計19名である。以下に平成19年度着任教員の氏名、専門分野などの教員一覧を示す。

平成19年度薬学部教員一覧

領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
基礎薬学 (化学系) 7 名	教授	前田 初男	生体分析化学	平成19年4月1日
	教授	青木 俊二	天然薬物学	平成19年4月1日
	教授	宮部 豪人	有機化学	平成19年4月1日
	准教授	芝崎 誠司	応用生化学	平成19年4月1日
	講師	甲谷 繁	物理化学	平成19年4月1日
	助教	塚本 効司	生体分析化学	平成19年4月1日
	助手	岩岡 恵実子	天然薬物学	平成19年4月1日
基礎薬学 (生物系) 3 名	教授	田中 稔之	免疫学	平成19年4月1日
	教授	山本 悟史	生理学	平成19年10月1日
	助教	是金 敦子	生化学	平成19年4月1日
衛生薬学 3 名	教授	西原 力	衛生化学	平成19年4月1日
	准教授	前田 拓也	微生物学	平成19年4月1日
	助教	佐藤 江利子	衛生化学	平成19年4月1日
医療薬学 3 名	教授	西山 信好	薬理学	平成19年4月1日
	助教	田中 康一	薬理学	平成19年10月1日
	助手	芝田 宏美	薬物治療学	平成19年4月1日
臨床薬剤学 2 名	教授	八野 芳巳	医薬品情報学	平成19年4月1日
	助手	竹下 治範	調剤学	平成19年4月1日
未来医療薬学 2 名	教授	田中 明人	創薬化学	平成19年4月1日
	講師	前田 真貴子	ゲノム薬理学	平成19年4月1日



#### 4. 学生の受け入れ

##### 1) 学生募集と入学者選抜

薬学部では多様な学生を得るために、平成19年度には推薦入学試験、一般入学試験（前期日程）および一般入学試験（後期日程）が行われた。各試験の試験日程と定員は以下の通り。

推薦入学試験	平成18年12月23日(土・祝)	20名
一般入学試験（前期）	平成19年 2 月 4 日(日)	120名
一般入学試験（後期）	平成19年 3 月 2 日(金)	10名

選抜方法は推薦入試については、各学部学科共通で、調査書を重視しつつ、基礎的な語学力、文章作成能力を測り、これらを総合評価した。すなわち、英語（150点満点）・小論文（100点満点）・調査書（100点満点）を試験科目とした。また一般入試については、前後期とも以下の受験科目で筆記試験を行った。英語（100点満点）・数学（100点満点）・化学（100点満点）。受験者数と合格者数は推薦入学試験では其々114名と25名、一般入学試験（前期日程）では554名と308名、一般入学試験（後期日程）では119名と60名だった。

##### 2) 在籍者の状況

平成19年度新入生は178名で、男子84名、女子94名であった。男女比はほぼ10：11であった。出身県については兵庫・大阪が70%以上であった。下宿生は30%以下であった。1年次終了時点では、97%（173名）が進級し、留年生が2名で、退学生が3名であった。ただ、勉強意欲に燃えていたにもかかわらず、学生1名が病に倒れ、1月に他界し、退学になったことは非常に残念なことであった。

平成19年度薬学部新入生

	新入生	2007/4/7現在 出身県（新入生）				2008/3/31現在			
		兵 庫	大 阪	関 西	その他	進 級	留 年	休 学	退 学
計	178	83	45	19	31	173	2	0	3
男	84	—	—	—	—	82	2	0	0
女	94	—	—	—	—	91	0	0	3

#### 5. 学部運営

教授会は、初年度であったので、全教員による拡大教授会とし、教員各位の意思疎通、連絡事項も多くの時間を割いた。4月は正規の教授会が開催できなかったため、教員懇談会として数回開催し、情報交換を密に行った。5月の教授会を第1回として臨時教授会2回を含めて12回開催した。なお、5、6、7月の教授会の前に自己紹介を兼ねて研究紹介セミナーを行った。

教授会の協議事項（計62項目）は、A) 薬学独自事項（12）、B) 薬学独自（教務）（14）、C) 薬学独自（その他）（3）、D) 教務委員会関連（21）、E) 他委員会関連（12）、F) その他（7）に分類された。A) では「薬学部検討事項」、B) では「「化学」不合格者に対する対応」や「指定校推薦入学制度」や「進級基準」、C) では国家試験対策やCBT対策についてであった。D) では、「入学前の既修得単位認定」、「平成19年度単位認定試験（再試験）日程表」、「平成20年度学年暦（案）」などであり、E) では「アドバイザー制度」、クラス担任制、高校訪問、各種委員会委員の選出」などであった。

その中でも主な協議事項は、国試対策、進級基準、薬学部将来計画、推薦合格者や「化学」不合格者に対するケア、指定校推薦入学制度、薬学部教員の病院薬剤部との懇談会や見学実習についてなど薬学部独自項目が29項目、単位認定試験日程や既修得単位の認定、医療科学概論の実施などの教務委員会諮問項目が21項目と両課題で全62項目中50項目（80%）を占めた。特に進級判定基準や単位認定の訂正に伴う進級判定に関しては臨時教授会も含めて複数回の教授会で協議した。

## 6. 教育活動

薬学部の教育課程の編成の考え方及び特色

教育課程については、日本薬学会による「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び薬学教育の改善・充実に関する調査協力者会議最終報告書別冊に示された「実務実習モデル・コアカリキュラム」を基本とし、本学の教育理念、本学部の特色等を踏まえ、1) 基礎分野、2) 専門基礎分野、3) 専門分野から構成しており、それぞれの考え方及び特色については以下に示す通りである。

なお、これらの必要な要素を踏まえ、6年間における必要取得単位数は、205.5単位以上とし、大学設置基準に定められる卒業の要件である186単位（薬学関係：臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの）を満たすものとする。

## 7. 教育課程

### 1) 教育課程と授業実施内容

#### (1) 教育課程

第1学年次から第4学年次までのカリキュラムは教養教育科目と専門科目を有機的に関連づけ、薬学教育モデル・コアカリキュラムの到達目標を網羅する効率的で一貫したものとなるように配慮した。それに加えて、第4学年次までのカリキュラムには「チュートリアル」、「医薬品安全性学」、「医薬品情報学」、「コミュニティーファーマシー」、「医療安全管理」、「臨床検査学」、「診察法、診断学」などの科目を特色ある必修科目として配することで、第5・6年次の「実務実習」やチーム医療研修にスムーズに取り組めるように工夫した。第5学年次では病院および薬局における「実務実習」で薬剤師としての技能・知識・態度の基盤を身につけるとともに、「研究実習」でリサーチマインドを養うことにした。また、第6学年次では、それぞれの学生が希望する進路に応じて、多様な選択科目群の中から適切な授業を取捨できるように配慮するとともに、第5学年次よりもさらに高度な実務能力および研究能力を涵養するために、「チーム医療研修」および「研究研修」を開講することにした。

教養教育の充実は平成14年2月21日の中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」を代表とする一連の答申のみならず、6年制薬学部教育を推進した中央教育審議会答申（平成16年2月18日「薬学教育の改善・充実について」）でも指摘された事項である。本学では、教養教育をその分野の特性に応じて①基礎分野と②専門基礎分野にカテゴライズして設定することにより、前項「薬学部医療薬学科の特色」で記載した、患者本位、人間重視の精神の涵養による患者とのコミュニケーション能力の習得、他の医療職者との連携によるチーム医療についての技術・知識・態度の習得及び少人数教育による自学自習の習慣・能力の習得を目的とした、きめ細かく充実した教養教育の編成を可能とした。

#### ①基礎分野

第1～2学年次に基礎英語科目を必修として配し、基礎英語能力を身に付けさせる。第3～4学年次に専門分野の中で薬学専門科目として配する専門英語科目とあわせて、4年間を通じて必修の英語科目を配当することで、医療現場や調査研究等において抵抗なく英語で対応でき

る高い英語コミュニケーション能力の素地を養う。また、医療専門職者として求められる豊かな人間性を育むため、人文科学、自然科学、社会科学分野における多様な教養科目及び第2外国語を配し、必要単位数を19単位以上に設定することにより幅広い教養を身に付けさせる。

## ②専門基礎分野

第1学年次に「化学」・「物理学」・「生物学」・「情報科学」・「統計学」・「基礎実習」など、薬学専門科目への準備教育として必須の導入科目とともに、「心理学」「行動科学（臨床心理学を含む）」「生命・医療倫理学」を必修科目とすることで、医療の担い手として欠かすことのできない崇高なヒューマニティを形成する科目を配置する。また高校時代に未修あるいは不足であった生物・物理に関しては選択必修科目として入門科目を開講し、その補完的教育を行う。さらに必修科目である「医療科学概論」を通じて医療人としての心がけを早期に涵養するよう工夫した。第2学年次には必修科目である「医療コミュニケーション論」「チーム医療概論」を通して医療職としての基本技能並びに幅広い視野と態度を身に付けさせる。また、選択科目として高度なコンピュータ知識を求める学生に対し「応用情報科学」を開講する。第3学年次では本学看護学部専任教員による「看護論」並びに本学リハビリテーション学部専任教員による「総合リハビリテーション論」を必修科目として配置することにより、第2学年次で学んだ「チーム医療概論」の内容をさらに深めることができる。また、少人数によるチュートリアル学習を必修科目とすることで、自己問題発見・解決能力を身に付けることができる。さらに第4学年次には、必修科目である「チーム医療論演習」の履修により、第2学年次より積み上げてきた一連のチーム医療に関する講義科目の総まとめを行う。その一方で、個々の患者がおかれた社会的・経済的環境を理解するための科目として「医療社会保障論」を配した。以上の4年間に互る当該教育科目の必要単位数を31単位と設定することで充実した専門基礎分野の学習を担保する。

## ③専門分野

専門分野は前項「薬学部医療薬学科の特色」で記載したヒトの体のしくみ、病気に対する理解を深める臨床的医学知識の習得及び薬剤師としての高度な専門性の習得を目的とした科目を配置した。

### ア) 専門科目

薬剤師としての高度な専門性を習得するための必須の専門科目として「物理化学」「無機・錯体化学」「有機化学」「分析化学」「公衆衛生学」「病原微生物学」「衛生化学」「医薬品化学」「生物化学」「薬用資源学」「天然薬物学」「毒性学」「免疫学」「放射化学」などの講義並びに実習科目を開講し、薬剤師養成の基盤となる基礎薬学科目をその内容の深化に伴う形で第1～3学年次に配した。また、医療薬学科目として「薬理学」「薬物治療学」「感染症治療学」「化学療法学」「漢方治療学」「薬物動態学」「薬剤学」「製剤科学」「医薬品安全性学」及び関連する実習科目を基礎薬学科目の習得後の第3～4学年次に配した。さらに、薬剤師としての実務能力を高めるための必修科目として、「医薬品情報学」「コミュニティーファーマシー」「薬剤経済学」を長期実務実習前の第4学年次に配した。

ヒトの体のしくみ、病気に対する理解を深める充実した臨床的医学知識を習得するための必修の専門科目として、「生理化学」「生理・解剖学実習」「病理学概論」「漢方医学入門」「臨床検査学」「診察法、診断学」をその内容に応じて早期の第1学年次から第4学年次まで継続的に配した。

さらに高度な専門性を確実に身に付ける目的の必修科目として、「医薬品開発学」「ゲノム科学と医薬品開発」「臨床ゲノム薬理学」「医療安全管理」を第4学年次に配した。

一方、学生の多様な進路を保証するために、多様な選択科目を第4学年次に用意し、これらの科目は各学生の意識や希望職種の変化にも対応して第6学年次にも受講できるようにした。これらの選択科目は単に進級あるいは卒業要件としてのみでなく、それぞれの学生の個人としての資質を磨き、能力や適性を伸ばすために積極的に、また希望進路に即した科目を自主的に受講するように指導する。また、「薬事関係法規・薬事制度」は学生が社会に出る直前で意識の高い第6学年次に必修科目として配した。

#### イ) 実務実習

病院2.5ヶ月、薬局2.5ヶ月の実務実習を行う。実習の事前には現役薬剤師である実務家教員が、薬学実務実習教育施設（模擬薬局等）を使い、医療現場で実習を行うに際して必要となる知識・技能・態度を教授する5週間の実務実習事前学習を行う。また、必要に応じて随時、兵庫医科大学病院にて実務に関する疑問点が解決できるようなシステムを構築する。

この事前実習及び実務実習により、卒業後、直ちに医療に参画できる臨床薬剤師としての素養を育成する。

#### ウ) 研究実習

第5学年次において病院・薬局実務実習がない学生（約50名）を対象にその期間（約3ヶ月）に「研究実習」を行う。この「研究実習」は少人数の学生を対象にして約40名の一の薬学部専任教員の個別指導の下、それぞれの研究課題に取り組みせ、基礎的な技能を含む専門知識、問題発見解決能力及びチームとしての取り組み姿勢を習得させる。本科目の履修により研究的視野を持ち合わせた薬剤師としての基礎的態度を育成する。

#### エ) チーム医療研修及び研究研修

第6学年次には、各自の希望職種及び修学レベルに応じて「チーム医療研修」及び「研究研修」を選択必修科目として実施する。「チーム医療研修」は薬学部実務家教員が兵庫医科大学キャンパス内に設置予定の総合臨床教育センターにおいて、兵庫医科大学の病院薬剤部と臨床系研究室の協力のもとに実施する。具体的には、学生は主たる一つの、あるいは主たる一つに従たる一つを加えての計二つの病棟にて約半年間に渡って、患者や他の医療職種者とのコミュニケーション、実務家薬剤師による服薬指導の補助、病棟で行われる医療活動への補助的参加、症例検討会などの医学・医療学的活動への参加、他の医療職種者の活動の見学を行うことで、チーム医療の実態を体験するとともに、病院薬剤師になるためのより深い実践的トレーニングを受ける。また、兵庫医科大学医学部が行う卒前臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を受講している第5・6学年次の医学部学生が担当する「受け持ち患者」を「チーム医療研修」受講者も固定的に担当することにより、チーム医療の主要な担い手である医師とのコミュニケーション能力をお互いが学生の時期から涵養する。これにより臨床現場においてより高度な医療専門職者として活躍するために必要な知識と技能を修得する。一方、「研究研修」は薬学部各研究室で兵庫医科大学の基礎系研究室や先端医学研究所の協力のもとに第5学年次の「研究実習」を更に発展させた内容で行なう。これらの研修の成果は発表会で報告するものとする。この発表会は各自の経験・情報を共有化させるとともにコミュニケーション能力の向上にも寄与する。これらの研修科目は、第5学年次までの集大成教育としてだけではなく、学生の職能支援教育としても位置付けることができる。

上記のように設定された第6学年次までのカリキュラムの全体像を学生に理解してもらうために、新学期に学年ごとに履修ガイダンスを行い、一人ひとりの履修届けをチェックする。また、全学生にシラバス、学生便覧を配布し、万全の指導体制を確立する。

また、第2学年次から第3学年次への進級および第4学年次から第5学年次への進級に際



し、下記の要件を課すことにより、学生の堅実な履修状況を担保する。

#### 第2学年次から第3学年次への進級要件

下表のとおり、第2学年次終了時まで基礎分野19単位、専門基礎分野23単位、専門分野46単位以上修得することを進級要件とする。

区 分	必 修	選 択	合 計
基礎分野	8	11以上	19以上
専門基礎分野	22	1	23
専門分野	46以上	0	46以上
合計	76以上	12以上	108以上

#### 第4学年次から第5学年次への進級要件

下表のとおり、第4学年次終了時まで基礎分野19単位、専門基礎分野31単位、専門分野108.5単位以上修得し、さらに、大学間共用試験（CBT、OSCE）において大学の定める一定水準以上の成績に達することを第5学年次への進級要件とする。

区 分	必 修	選 択	合 計
基礎分野	8	11以上	19以上
専門基礎分野	30	1	31
専門分野	106.5以上	2以上	108.5以上
合計	144.5以上	14以上	158.5以上

### (2) 薬学部における教育課程の特色

#### ①多様な臨床系科目による医療に関する幅広い知識の修得

他2学部及び兵庫医科大学との連携により、医学部における人体解剖実習見学の実施、薬学部専任教員である臨床系医師による「薬物治療学」「診察法、診断学」「臨床検査学」や兼任、兼任医師による「救急・災害医療」等の臨床医学系科目、看護学部・リハビリテーション学部教員による「看護論」「総合リハビリテーション論」など、医療関連科目を充実し、ボーダレスな教育環境のもとに学生の視野を広げ、医療に関する広範な知識を身に付けさせる。

#### ②高いコミュニケーション能力を備え、ここが通う医療を実践し得る医療専門職としての素養育成

医療倫理、医療コミュニケーション、心理に関する科目を学習することにより個の尊厳や患者とのコミュニケーション方法、人間の価値や多様性について理解させる。

また、「早期体験学習」において医療現場の臨場感を早期に体感させることにより、医療に対するモチベーションを高める。

#### ③学部合同科目によるチーム医療の一員としての素養と豊かな人間性の涵養

本学に同時に設置される看護学部、リハビリテーション学部と薬学部の3学部混合による「医療科学概論」「チーム医療概論」「チーム医療論演習」を必修科目とすることによって、他学部の学生との交流を深め、チーム医療の一翼を担うための素養を培うとともに多彩な教養科目により豊かな人間性を養う。

#### ④科学者としての薬剤師の基礎となる「くすり」に関する専門知識と、高度な技術の修得

有機化学、物理化学、生化学などの基礎知識を確実に修得するとともに、製剤や創薬に関連



する科目など薬剤師として必要になる実践的な科目を重点的に配置する。また、「最先端機器分析科学」や最先端テクノロジーに基づいた「糖鎖生物学」等の科目も配置し、ゲノム情報に基づく医薬品開発やテーラーメイド薬物治療等についても理解を深める。

#### ⑤生きた臨床実務教育による質の高い臨床能力の育成

卒業後ただちに医療に参画できる臨床薬剤師を育成するため、5週間の実務実習事前学習、2.5ヶ月の病院実務実習及び2.5ヶ月の薬局実務実習を実施する。

実務実習事前学習では模擬薬局等の薬学実務実習教育施設を利用して、兵庫医科大学病院をはじめとする病院及び保険薬局の現役薬剤師である実務家教員による指導により、患者の特性に適した調剤、製剤や、インシデント・アクシデント報告の実例及びリスクマネジメント、病棟における服薬指導、かかりつけ薬局の機能と意義、在宅医療への取り組み、治験コーディネーターの役割と業務など、高い専門知識を身に付けさせる。

これらの現場のサポートにより、臨床に強く、患者の安全確保とクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献する薬剤師として必要な能力を養成する。

#### ⑥薬学的健康維持・増進方法を理解し、地域の保健医療に貢献し得る資質の育成

機能的食品、環境微生物などを対象とした健康科学や予防医学、環境衛生に関する科目を配し、健康食品やサプリメントなどの有効性と安全性のほか、環境と健康の関係について学習する。薬学的見地からの疾病の治療・予防という身体的健康のみならず、社会面、精神面を含め、地域住民の薬や病気及び健康維持・増進に関する相談に応えられる知識、能力を育成する。

### (3) 授業実施内容

2007年度（平成19年度）入学者163名（入学定員150名）に対して適用される教育課程表を示す（表1；シラバスから転載）。各授業科目は、平成14年8月に公表された「日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準じて構成されている。表1は履修科目を必須・選択・自由の区分別および年次別に掲げたものである。第1学年次には3学部共通の基礎分野科目が多く配当されている。具体的には、基礎分野の必修科目（9単位）として、「英語発音」、「英文読解（異文化コミュニケーション）」、「英語文法」、「英文読解（科学英語入門）」、「体育実技」が開講された。第1学年次あるいは第2学年次のいずれかで11単位以上を取得しなければならない基礎分野の選択（あるいは選択必修）科目として「体育科学理論」、「文学」、「国語表現」、「人間発達学」、「カウンセリング論」、「倫理学」、「哲学」、「数学」、「歴史学」、「経済学」、「法学」、「社会学」、「家族社会学」、「国際比較文化論」、「音楽」、「美術」、「ドイツ語」、「中国語」、「韓国語」が開講された。専門基礎分野科目は必修（一部選択必修）科目（20単位）として、「化学」、「物理学」、「生物学」、「生物学入門」、「物理学入門」、「基礎実習」、「情報科学」、「統計学」、「心理学」、「行動科学（臨床心理学を含む）」、「生命・医療倫理学」、「医療科学概論」が開講された。専門分野からは、基本的にモデル・コアカリキュラムに従い、必修科目（10単位）として、「薬学入門」、「物理化学Ⅰ（熱力学）」、「無機・錯体化学」、「有機化学Ⅰ（基礎とアルカン）」、「生物化学Ⅰ（物質生化学）」、「生理化学Ⅰ（細胞生理学）」、「漢方医学入門」が開講された。

授業科目は、講義や演習、スモール・グループ・ディスカッション（SGD）、実習などさまざまな形態をとって行なわれた。「医療科学概論」においては、講義形式の授業に加えて、SGDによるグループ討議と発表を行った後に、学生10名程度程度の少人数に分かれて兵庫医科大学病院の病棟等におけるアーリー・クリニカル・エクスポージャーが実施され、最後に学生による発表会が実施された。

1 年時学生への開講授業については割愛する。なお、シラバスに記載されない、課外学習として将来の就職先を早期に理解するために、下記特別講義が開講され、ほぼすべての第 1 学年次学生が出席した。

平成19年 7 月 6 日 桂木 聡子（かつはら薬局）「薬局薬剤師の役割」

平成19年11月21日 佐藤 芳樹（武田薬品工業株式会社）「臨床開発と薬剤師」

平成20年 1 月23日 藺 潤（西宮保健所長）「医療人として必要な禁煙支援」

平成20年 1 月23日 瀧川 秀樹（神戸市薬剤師会副会長）「薬局薬剤師の社会的責務」

平成20年 1 月25日 狭間 研至（ファルメディコ株式会社）

「外科医が読み解く薬局3.0—薬剤師が夢を描ける21世紀のビジネスモデル—」

平成20年 1 月30日 松田 暉（学長）「医療人としての薬剤師」

#### (4) 成績評価法

成績評価は優、良、可の評価を合格とし、不可は不合格としている。各評価段階の目安は、100 点満点としたとき、優は100点～80点、良は79点～70点、可は69点～60点とし、59点以下を不可とした。この評価は、試験、課題レポート、出席状況を加味して担当教員から提出され、薬学部教授会で最終確認・認定を行った。

#### 2) 学生と教員の交流

平成19年度は初年度であり、教員にも学生にも当初戸惑いがあったが、月日が進むにつれて不十分ながら、コミュニケーションが図られた。きっかけは、7 月17日に学生との交流を目的に神戸港クルージングを行ったことである。学長先生をはじめ教員と学生が船上で談話し、学生および参加教員から情報交換の点から好評であった。また、後期に入り、基礎実習にはほぼ全教員がかかわり、実施したことも交流に大きな役割を果たした。

#### 3) 兵庫医科大学病院薬剤部との交流

薬学部と病院薬剤部との関係は、設置準備室の時代から始まったことは言うまでもない。薬学部には薬剤部から専任教員 1 名（門林薬剤部長）とみなし教員 2 名（濱口副部長、室主任）が着任し、重要なカリキュラムとしてこれらの先生を含めた実習（事前実習と実務実習）があることから、設置申請書の内容について何回か情報交換を行った。開学後では 5 月23日に門林部長に主として病院薬局実務実習についての実情と課題について本学講義室で講演していただき、懇談の会をもった。そのとき教員 ECE とは別に薬学部教員による薬剤部体験見学の提案があり、7 月 5 日にそれを実施した。内容は濱口副部長と室主任による概要説明に続き、薬剤部（含サテライト薬局）の見学実習で、終了後に懇談した。その後も、月 1 回のペース（原則第 3 土曜日）で薬剤部のカンファレンス室あるいは本学会議室で懇談会をもった。話題は主に ECE や病院実務実習に関する情報の交換であった。

## 8. 研究活動

### 1) 教員研究業績の概要

個々の教員の研究業績は巻末の研究業績リストにある通りである。ここでは、研究室単位でその概略を示し、薬学部全体としての研究動向を俯瞰する。なお、研究室 3、6、8、15 の 4 研究室には着任教員はなかった。

①研究室 1（西山、田中康\*）：神経系の薬理学に関する研究に着手した。一部の成果は国内学会で発表した。

- ②研究室 2（是金）：未着任の教官と相談のうえ、糖鎖生化学に関する研究体制の準備をおこなった。
- ③研究室 4（前田真）：未着任の教官と相談のうえ、心不全治療薬他の研究のために必要な機器・備品の購入し、整備を行った。また、大阪大学大学院薬学研究科東純一教授と禁煙治療薬および心不全治療薬に関する共同研究を行った。
- ④研究室 5（田中稔）：免疫学・分子細胞生物学に関する研究体制の準備をおこなった。
- ⑤研究室 7（山本\*）：未着任の教官と相談しながら、神経生理学、神経解剖学ならびに疼痛の研究に必要な備品（電気生理学的記録に必要な倒立顕微鏡、除振台、アンプ、マイクロマニプレーターなど）の整備をするなど、研究活動の準備を行った。
- ⑥研究室 9（西原、前田拓、佐藤）：衛生薬学に関する研究室の整備をおこなった。なお、西原は大阪大学大学院工学研究科小林昭雄教授と「水耕栽培による有用植物の品質管理」および富山医科薬科大学服部征雄教授と「生薬代謝成分の女性ホルモン活性」、前田拓は近畿大学農学部米虫節夫・坂上吉一教授と「新規微生物制御技術の開発と応用に関する研究」、また佐藤は大阪大学産業科学研究所川合知二教授と「生体分子の集合原理にもとづく分子機能に関する研究」で共同研究を行い、成果の一部は国際・国内学会で発表した。
- ⑦研究室10（前田初、芝崎、塚本）：新規蛍光、プローブ、新規蛍光色素および表面高次機能化酵母の設計開発をテーマとして研究を開始した。芝崎は、京都大学大学院農学研究科・植田教授と共同研究を行ない、その成果の一部は国内学会で発表した。また、分析化学の実践的教育を実施するため「はかってなんぼ研究会」を、1年生20数名の参加をえて、11月から分析基礎技術修得講座を5回開講した。
- ⑧研究室11（青木、岩岡）：未着任の教官と相談の上、研究室の細胞培養環境等の整備を行った。また、天然物由来成分の分画精製に関する設備を整えた。そして、大阪大学大学院薬学研究科 土井健史教授との共同研究により核内受容体 PPAR のリガンド探索を行い、数種の生薬エキスを活性を見いだした。活性の見られた生薬エキスについては、活性本体の同定のために分画精製を行っている。同大学院の辻川和丈准教授との共同研究により前立腺癌に特異的に発現する DNA メチル化酵素 PCA1 の阻害物質探索を行い、数種の生薬エキスを活性を見いだした。活性の見られた生薬エキスについては、活性本体の同定のために分画精製を行っている。大阪府立大学大学院生命環境科学研究科山崎伸二教授との共同研究により香辛料に含まれる病原菌に対する毒素産生抑制物質の探索も行い、活性本体の同定のために分画精製を行っている。
- ⑨研究室12（宮部、甲谷）：新規反応の開拓研究や有機合成研究に必要な備品等を整備するなど、研究活動の準備をし、開始した。光触媒に関する研究成果の一部は国内学会で発表した。また、神戸薬科大学内藤猛章教授や京都大学大学院薬学研究科竹本佳司教授および東京理科大学理学部工藤昭彦教授との共同研究も行い、研究成果の一部は国内学会で発表した。
- ⑩研究室13（田中明）：アフィニティ樹脂に関する基盤技術開発研究および独自技術を用いた生理活性物質ターゲット探索研究に関する整備を行うとともに、兵庫医科大学西崎教授と「抗認知症治療剤開発を目指した光学活性 DCP-LA 合成研究」および理化学研究所神戸研究所分子イメージング研究プログラム渡辺先生と「15RTIC のターゲット探索」の共同研究を実施した。
- ⑪研究室14（八野、竹下）：研究室の機器等の整備と臨床薬学研修センターの計画画面、実務実習の進め方などを未着任の教官と相談しながら準備を行った。なお、竹下は兵庫医科大学の夜間大学院生としての研究も行った。

（\*：10月着任）

## 2) 研究費の取得情報

### (1) 文部科学省研究費補助金

文部科学省科学研究費補助金は、表に示すとおり8件が採択された。

平成19年度科学研究費補助金交付決定者一覧表

研究種目	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付決定額 (直接経費)
特定療育研究	腫瘍血管へ免疫細胞動員活性を誘導する主体プログラムの賦活化と抗腫瘍免疫監視の強化	薬学部	田中 稔之	3,500,000
基盤研究 (C)	ヘルスケアにつなげる光触媒型活性酸素パッチの開発	薬学部	甲谷 繁	1,300,000
基盤研究 (C)	海洋生物由来の細胞周期制御を標的とする抗がん剤シーズの探索	薬学部	青木 俊二	1,600,000
基盤研究 (C)	神経因性疼痛発現における新規イオンチャネルの解析	薬学部	山本 悟史	1,900,000
基盤研究 (C)	ラジカル種の特性を活用した新規合成法の開拓	薬学部	宮部 豪人	1,200,000
特別研究促進費	光切断リンカーを利用した生理活性物質ターゲット探索方法の開発	薬学部	田中 明人	2,200,000
若手研究 (スタートアップ)	グルタミン酸を特異的に検出する蛍光プローブの開発	薬学部	塚本 効司	1,320,000
萌芽研究	酸化ストレスを可逆的に捕捉できるRedox 応答型蛍光プローブの設計	薬学部	前田 初男	2,000,000

### (2) その他の研究助成金

平成19年度の受託研究助成金は、下記に示すとおりである。

#### ①平成19年度受託研究

研究課題名	所属部局	研究代表者	委託額	委託者
SNJ-2022 点眼液の臨床薬理試験（心肺機能への影響を指標としたチモロールマレイン酸塩との比較試験）—治験開始前—	薬学部	前田 初男	700,000	千寿製薬株式会社
SNJ-2022 点眼液の第Ⅲ相試験（原発開放隅角緑内障又は高眼圧症を対象としたチモロールマレイン酸との比較試験）—治験開始前—	薬学部	前田 初男	700,000	千寿製薬株式会社

#### ②平成19年度寄付金

申込者	受入金額	受入研究者
株式会社 三菱化学安全科学研究所	500,000	西原 力
住友化学株式会社 生物環境科学研究所	1,000,000	西原 力
株式会社 リバース・プロテオミックス	1,100,000	田中 明人
キリンファーマ(株)	1,000,000	田中 稔之
株式会社 ヤクルト本社	500,000	八野 芳巳
大阪大学からの繰越寄付金	196,892	前田 初男



### (3) その他の業績

#### ①受賞歴

氏 名	受賞年月日	国内外区分	受賞学術賞名
前田 拓也	20070500	国内	平成18年度日本防菌防黴学会論文賞

#### ②特 許

氏 名	出願番号	出願年月日	出 願 人	発 明 者	特 許 名
前田 真貴子	PCT/JP2007/70699	20071024	東純一、藤尾慈、 木村竜介、前田 真貴子、有田惇 之、尾花理徳、 福田剛史	東純一、藤尾慈、 木村竜介、前田 真貴子、有田惇 之、尾花理徳、 福田剛史	インターロイ キン11の心疾 患治療薬とし ての利用

## 9. 社会貢献

### 1) 薬学部ユニバーサルデザイン (UD) 研究会

(世話人 前田初男教授)

『人と薬が接する瞬間を優しく安全にサポートする UD を提唱する』ことを目的に、平成19年11月1日に薬学部1年生20名弱と薬学部 UD 研究会を立ち上げた。平成19年度は、一月に2回程度集まって、「UD を学ぼう」、「UD を実践しよう」、そして、「学外に出よう」を合い言葉に活動を行った。以下、これらの活動について報告する。

【UD を学ぼう】次に示すロン・メイス氏提唱の UD の7原則について学んだ。

- (1) どんな人でも公平に使える
- (2) 使う上で自由度が高い
- (3) 使い方が簡単で、すぐに分かる
- (4) 必要な情報がすぐに分かる
- (5) うっかりミスが危険につながらない
- (6) 身体への物理的負担が少ない
- (7) 使う上で適切な大きさで、空間的自由度がある

学んだ原則をより理解するために、『ある de UD』というパンフレット作りも行った。学生達が、家の中や街で「これは UD かな?」と思ったものを携帯電話で写真に撮る。その写真にコメントを添えて記事にまとめる。学生達から集まった紹介記事をまとめ、パンフレット『ある de UD』を作製した。

【UD を実践しよう】分包薬を開けて中の粉薬を飲む、という作業は高齢者や手の不自由な人にとって楽なものではない。そこで、グループに分かれて、「片手で」をキーワードに、分包薬を簡単かつ安全に服用できる UD グッズのプランニングを行った。

【学外へ出よう】目的は UD 研究会の世話人として学外での活動に必要なネットワーク作りを行うため。UD に関係する神戸市の様々な会合に足を運んでいたところ、ある会合でポートアイランド国際展示場で3月14日～16日に開催される「シリバーサービスメッセ神戸 2008 神戸総合福祉展」の実行委員会から、この展示会へのボランティア支援を依頼された。そこで、研究会の学生達にアナウン



スしたところ、数名がボランティアとして参加した。福祉展にボランティア参加した学生達の感想文表題は以下の通り：「思いやりを商品化 PH07091 辻本結衣」「注目すべき福祉 PH07122 深津佳代」「“営業スマイル”は何よりも必須 PH07132 前田奈緒美」「人生初のボランティア PH07065 澤田友宏」「福祉展でのボランティア PH07070 園田直也」

## 2) 神戸市立医療センター中央市民病院との交流事業—ボランティア活動—

地域社会への貢献と薬学部生への教育と意識改革を目的に、2008（平成20）年2月から八野芳巳教授の担当で神戸市立医療センター中央市民病院においてボランティア活動を通じた交流事業に取り組んだ。ボランティア活動を始めるにあたって、活動内容の説明の受講や院内見学などを行った。主な活動を次に紹介する。

- (1)「お薬入れの製作」：これが活動の主なもので、病棟で患者の服薬に実際に使われるものを作成することから医療関係者の仕事や患者の様子など実体験する。
- (2)「花苗植え替え作業」：毎年数回行われる作業で今春、5月に取り組んだ。
- (3)「OP室材料を使っの作業」：ガーゼを心棒に巻きつけて作り採血時に使うもの。
- (4)「神戸学院大、神戸女子大との合同ワーキング」：2つのテーマで同センターの職員（薬剤師、看護師）とSGD形式でワークショップを行った。テーマ1：「私が考えるお薬入れの役割、目標、目的」、テーマ2：「事例別にアイデアを出そう、事例1：自分で薬を飲めない人向け（認知症の人・動けない人）、事例2：高齢者やこども向け、事例3：障害のある人向け、事例4：錠剤・粉薬ではない人向け」

## 3 看護学部

(看護学科)

### 1. 看護学部の方針

国民の保健医療福祉の向上において、看護職者が果たすべき役割は拡大し、提供する看護サービスの質もまた、これまで以上に高いものが求められている。移植治療、遺伝子治療といった医療・科学技術の高度化、複雑化を背景に、看護を取り巻く環境は、めまぐるしく変化してきている。看護は高度化、複雑化するとともに、多職種の連携によるチームアプローチの必要性が増大する一方である。他方、疾病の多くは長期的な治療・療養と生活の自己管理を要する慢性疾患で構成され、これらに対しては、生活習慣・環境をも踏まえ、セルフケアを含めた総合的なサポートが必要とされている。著しく進展する少子高齢社会、家族形態の変容、そして疾病構造の変化とともに、さらに、多死社会に向かい、看取りのための看護への課題も大である。地域医療、在宅看護における看護職の役割は、国家の政策として重要である。

このような背景、社会的ニーズを踏まえ、看護学部は、本学の建学の精神である「社会の福祉への奉仕」、「人間への深い愛」、「人間への幅の広い科学的理解」をベースとして、人々の健康の維持増進を図り、病気を癒し、苦痛を和らげ、生存への意欲を高めるように、人々に仕える人材を育成する。保健医療の領域で中心的な役割を担う看護職者を育成し、有能な人材の輩出により医療への貢献を目指す。併せて実践の科学である看護学を深め、高度な実践能力をもつ看護職者を育成し、さらに看護学分野の教育研究の発展に寄与することを目指すものである。

### 2. 概要

#### 1) 教育理念、教育目的、教育目標

##### (1) 教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、増進させる看護専門職者を育成する。

##### (2) 教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養う。医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指す。

##### (3) 教育目標

- ①豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
- ②理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と、科学的根拠に基づく判断能力及び問題解決能力を身に付ける。
- ③対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術及び人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身に付ける。

- ④医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身に付ける。
- ⑤地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
- ⑥自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。

### 3. 看護学部 of 教員組織

看護学部は、基盤看護学、療養支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学の4つの専門分野から構成されており、平成19年度の専任教員は以下のとおりである。

平成19年度看護学部専任教員

専門領域	職位	氏名	専門分野	着任年月日
基盤看護学 8名	教授	土居 洋子	基盤看護学	平成19年4月1日
	教授	竹田 千佐子	基盤看護学	平成19年4月1日
	講師	水野 暢子	基盤看護学	平成19年4月1日
	講師	土田 敏恵	基盤看護学	平成19年4月1日
	助教	増田 富美子	基盤看護学	平成19年4月1日
	助教	岡 みゆき	基盤看護学	平成20年1月1日
	助手	土屋 智洋	基盤看護学	平成19年4月1日
	助手	笠原 知春	基盤看護学	平成19年4月1日
療養支援看護学 4名	教授	佐藤 禮子	療養支援看護学	平成19年4月1日
	教授	鈴木 久美	療養支援看護学	平成19年4月1日
	講師	小関 真紀	療養支援看護学	平成19年4月1日
	助教	高山 京子	療養支援看護学	平成19年4月1日
家族支援看護学 3名	教授	藤井 真理子	家族支援看護学	平成19年4月1日
	講師	西村 明子	家族支援看護学	平成19年4月1日
	助教	飯尾 祐加	家族支援看護学	平成19年4月1日
生活支援看護学 1名	准教授	富永 真己	生活支援看護学	平成19年4月1日

### 4. 学生の受け入れ

#### 1) 学生募集と入学者選抜

看護学部では、多様な学生を得るために、推薦入学試験、一般入学試験（前期日程）および一般入学試験（後期日程）が行われている。定員は推薦入学試験の30名、一般入学試験（前期日程）の60名、一般入学試験（後期日程）の10名である。

少子化および看護系大学の増加、とりわけ兵庫県においては、他の県と比較して、看護系大学が11校と多く、受験生確保が困難な状況にある。その状況で優秀な学生を確保するために、推薦入学試験の定員を平成19年度の15名から平成20年度には30名に増員した。

推薦入学試験の試験科目は、外国語、小論文、調査書（高等学校長が発行する調査書の4教科の各

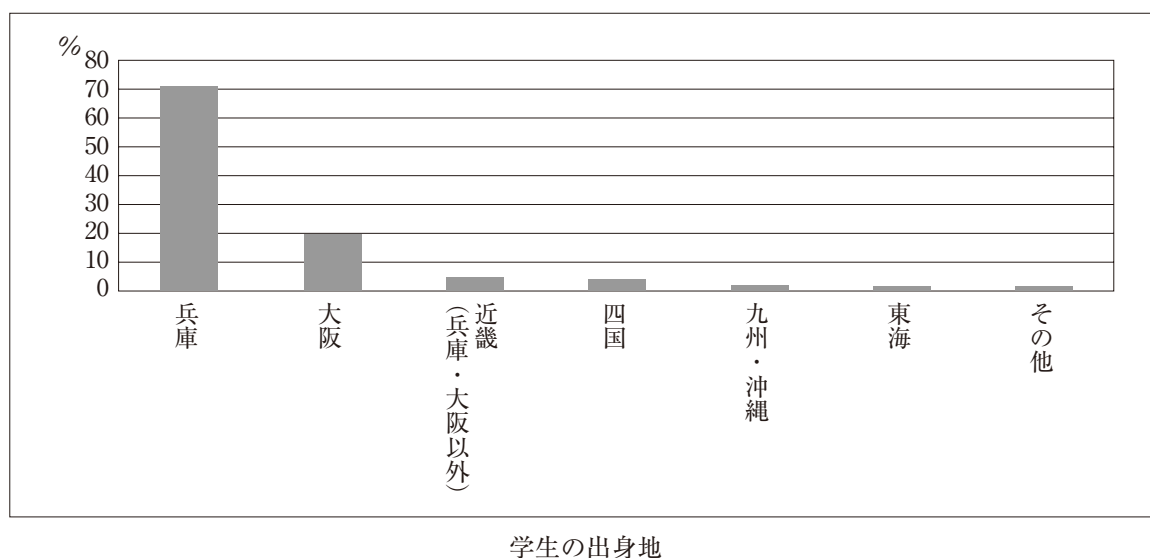
評定平均値の5倍)である。前期日程と後期日程の試験科目は、外国語、国語、理科である。

受験者数は推薦入学試験131名、一般入学試験(前期日程)426名、後期日程90名と受験人数は確保されてはいるが、合格者の入学率が前期日程では38.5%、後期日程では45.5%であり、受験者数も、昨年に比して、減少傾向にあり、安閑としてはおられない状況にある。

## 2) 在籍者の状況(定員、在籍者数と出身県などの状況)

現在の学生数は215名(男子10名、女子205名)である。そのうち平成20年度の入学学生数は103名で、うち男子学生が6名である。

学生の出身地区は以下の図に示すごとく、兵庫県が71名と最も多く、次いで大阪府20名である。約68%の学生が兵庫県出身であることから、地元認知されつつあると考える。



## 5. 教育活動

### 1) 教育課程と授業実施内容

#### (1) 教育課程

看護学部教育課程は、「看護学の対象となる人々を深く理解するとともに多様な価値観を大切に、高い倫理性に富んだ感性豊かな人間性を育成する」、「保健医療福祉を包括的な視野で捉えることのできる力と保健医療福祉が連携する中での看護学の役割・機能をしっかりと捉え、看護学における実践力の基盤を学士課程で育成する」ことを目指し編成されている。そのため教育課程は、「21世紀の大学像と今後の改革方策について」にある教養教育の重視、教養教育と専門教育との有機的連携の確保を図るとともに、本学の理念、学部の教育目的を踏まえ、基礎分野と専門基礎分野、専門分野の3分野から構成されている。

#### ①基礎分野

基礎分野は専門基礎分野、専門分野を学習していく上での基礎となる必要な知識の修得を目的として、平成14年2月に出された中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」を踏まえ、「人間と言葉」「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」の人間を軸とした4領域で構成し科目を配置してある。

平成19年度は、「人間と言葉」科目では必修4科目(4単位)・選択3科目、「人間と言葉」以

外の科目では必修4科目（8単位）・選択15科目を開講した。

## ②専門基礎分野

専門基礎分野は、基礎分野の知識を活用しながら、医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を教授し、専門分野を学習する上で欠くことのできない基礎的知識を「人間と健康」「環境と健康」「人間と環境」「チーム医療」の4領域で体系化されている。

平成19年度は、必修5科目（8単位）・選択2科目を開講した。

## ③専門分野

専門科目は基礎分野、専門基礎分野の科目を基盤に、また看護学のメタパラダイム概念をもとに、「基盤看護学」「療養支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「総合」の5領域で体系化されている。低学年次では人間の多面的理解を中心に捉え、人間、環境、健康、看護の理解とメタパラダイム概念の関係の理解が深まるように編成されており、平成19年度は、「基礎看護学概論（含看護理論）」「基礎看護方法論」「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の専門科目5科目（7単位）を開講した。

## ④臨地看護実習

基礎看護学実習は3段階とし、第1学年前期では対象者と対象者を取り巻く環境の理解を主な目的とし、看護学部独自で行う早期体験実習（基礎看護学実習Ⅰ）を、1学年後期では生活援助に焦点を当てた看護技術の習得（基礎看護学実習Ⅱ）を目的として実習を行った。

### 〈実習期間〉

- ・基礎看護学実習Ⅰ（1単位）：2007年9月18日～9月28日
- ・基礎看護学実習Ⅱ（1単位）：2008年2月12日～2月26日

### 〈実習施設〉

- ・基礎看護学実習Ⅰ：兵庫医科大学病院 11病棟・外来
- ・基礎看護学実習Ⅱ：兵庫医療大学病院 10病棟

### 〈実習の展開〉

実習の開始にあたっては、科目責任者が実習病院の師長会議に出向き、看護師長や看護主任に実習目的・目標、具体的な実習内容・方法について説明した。さらに具体的な実習内容・方法・指導方法については、各病棟担当教員がそれぞれの病院側実習指導担当者と調整を行ったり、教員が実習施設で研修を行い、学生が実習の目的・目標を達成できるように準備した。基礎看護学実習Ⅰ・基礎看護学実習Ⅱともに、1グループ5～6名の学生で編成し、実習オリエンテーションから実習成果のまとめまで、本年度赴任の全看護学教員が学生の指導に当たった。

### 〈実習中の事故報告〉

臨地看護学実習中に遭遇すると想定される事故（交通事故、物品の破損・損壊、医療事故、職業感染、個人情報の流出・漏洩、暴力・その他）対応については、各実習のオリエンテーション時に説明し、学生の自覚を喚起している。平成19年度実習中には、基礎看護学実習Ⅰにおいて、学生や実習指導者の氏名が明記されている実習要項を3名の学生が紛失したため、大学所定の事故報告書を作成し、事故状況や今後の対応について担当教員・実習責任教員とともに学生指導を行った。実習終了後、3名ともに実習要項を大学内・学生の実家で発見した。

### 〈実習方法〉

- ・基礎看護学実習Ⅰ：以下の何れかの方法で実習を行う。
  - 1) 一名の患者を担当して、看護師が行う援助を見学する。
  - 2) 一人の看護師について、その看護師の行う患者への援助を見学する。
- ・基礎看護学実習Ⅱ



日常生活援助が必要な患者 1 名を担当する。

＊平成20年度への改善方策

- ・選択科目の履修登録を現状の年 1 回から、前期科目・後期科目別に年 2 回の登録に変更することによる学生の選択科目履修機会の増加
- ・「人間と言葉」の選択科目の授業回数を現状の 1 回から 2 回に変更することによる学生の選択科目履修機会の増加

(2) 進級要件

進級要件に関しては、看護学部拡大教授会、教務委員会、大学協議会の審議を経て明文化し、看護学部教務委員より学生へ説明の上、同文書を配布した。

2) 実習室整備

看護学部には 4 つの看護学実習室があり、平成19年度は開講科目である「基礎看護方法論」、「基礎看護技術Ⅰ（生活援助）」で使用する基礎看護学実習室、成人看護学実習室を中心に整備した。他の 3 室についても平成20年度開講科目に関する備品および教材を選定、順次購入している。

3) 自学自習環境の整備

(1) 基礎看護技術習得のための視聴覚教材の整備

①視聴覚機材の購入

講義の際に実施されるデモンストレーションの映写及び学生の自学自習のため、以下の視聴覚機材を購入した。

- ・ポータブル DVD プレーヤー 2 台
- ・100インチ大型スクリーン、プロジェクター 各 1 台

②基礎看護技術 DVD 教材の作成および貸し出し

「基礎看護技術Ⅰ（生活援助）」の基礎看護技術について手順およびポイントを追加した DVD を作成し、自宅でも復習が可能なよう貸し出しを行った。

③学内ネットワーク利用による DVD 教材の配信

学内の情報処理室や図書館に配備されている端末より DVD が閲覧できるよう、整備した。

4) 基礎看護技術習得のための自学自習状況

基礎看護学領域では「主体性をもった学生」の育成を目指し、“納得できるまで看護技術を練習できる”自己学習サポート体制をとり、基礎看護学実習室の開放や講義時間外の学生指導を行っている。

(1) 基礎看護学実習室の開放

①利用可能時間

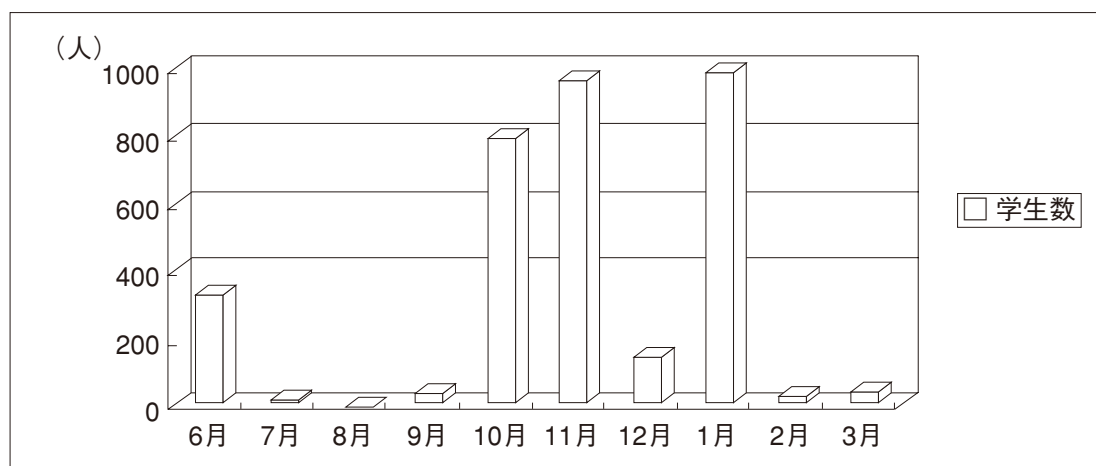
月曜から金曜の7:30～20:00の講義・演習、学内行事等のない時間帯。休業期間については別途定めた。

(2) 利用状況

- ①学生は、講義時間内で実施される教員による看護技術のデモンストレーションの見学に加え、実習室内に配置したポータブル DVD プレーヤーや大型スクリーンに基礎看護技術 DVD 教材を映写し、手順や留意点を確認しながら、学生相互の意見交換や教員の指導を受け、技術習得に取り組んでいる。

## ②平成19年度月別利用延べ学生数

学生は基礎看護方法論の演習項目である「シーツ交換」、「ベッドメイキング」が開講される6月より基礎看護学実習室を利用し始める。後期開講の「基礎看護技術Ⅰ（生活援助）」が開講されると、基礎看護学実習室の利用学生数は急増し、状況に応じて成人看護学実習室を開放し対応した。



平成19年度 月別実習室利用学生延べ人数

## 6. 研究活動

### 1) 研究費の取得状況

#### (1) 文部科学省科学研究費補助金

文部科学省科学研究費補助金は、下記に示すとおり4件が採択された。

平成19年度科学研究費補助金

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付決定額 上段：直接経費 下段：間接経費
基礎研究 (B)	佐藤 禮子	外来通院患者の主体性を育成・支援する看護実践能力 および外来看護実践方法の開発	2,600,000 780,000
基礎研究 (B)	鈴木 久美	乳がん体験者との協働による一般女性と看護職のため の乳がん予防啓発プログラム開発	3,100,000 930,000
基礎研究 (B)	富永 真己	新卒看護師の職業性ストレスと離職意向に関する縦断 研究：地域間における比較	1,300,000 390,000
萌芽研究	西村 明子	中高年男性のパタニティブルーズとうつ病発症との関 連に関する研究	1,400,000

#### (2) その他の研究助成金

その他の助成金は、下記に示すとおりである。

その他研究助成

寄 附 申 込 者	受入金額	教員氏名
中外製薬株式会社	3,500,000	佐藤 禮子
中外製薬株式会社戦略マーケティング	5,000,000	佐藤 禮子
合 計	8,500,000	

## 2) 研究セミナーの実施

看護学部では、下記のとおり研究セミナーを開催した。

日 時:12月18日(火) 18:00～19:00

発表者:土田 敏恵 講師 (基盤看護学)

テーマ:尿道カテーテル留置患者の感染防止効果を高める看護ケア

## 7. その他の活動

### 1) FD 研究会の開催

看護学部教員の教育・研究能力の向上を目的とし、下記の研究会を企画・運営した。

日 時:2008年3月8日(土) 9:00～11:30

場 所:兵庫医療大学 M487会議室

テーマ:保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正にかかる看護学の大学教育のあり方

講 師:平山 朝子 学長(岐阜県立看護大学)

### 2) オープンキャンパス等の看護学部の取り組み

#### (1) オープンキャンパス

4回のオープンキャンパスが開催された。各回の大学全体テーマに合わせて、看護学部希望者向けのプログラムを実施した。4回の看護学部希望者の参加者数は、受験生595名、同伴者約300名であった。

第1回:7月15日 テーマ「兵庫医療大学で何が学べるの?」

プログラム	内 容
大学ガイダンス	大学説明、入試説明
キャンパスツアー	在校生によるキャンパス案内
ミニ講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学部での学び</li> <li>・看護に必要なサイエンス・スキル・キャラクターを育てる—基盤看護学—</li> <li>・次世代を担う子どもの健康を支援する—家族支援看護学—</li> <li>・大人の心と身体の健康を支援する—成人看護学—</li> <li>・地域で生活する人々の心と身体の健康を支援する—生活支援看護学—</li> <li>・卒業後の資格と進路</li> </ul>
看護学部の先生と話そう!	看護学部教員との交流 実習室見学・説明、教材展示

第2、3回:8月11日、12日 テーマ「兵庫医療大学で学べることを体験してみよう!」

プログラム	内 容
大学ガイダンス	大学説明、入試説明
看護学部概要	看護学部の教育目標、特徴、教育課程について説明
体験実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん人形を抱いてみよう(助産・母性・小児看護学実習室)</li> <li>・聴診器を使ってみよう(精神・地域・在宅・老年看護学実習室)</li> <li>・着替えを援助してみよう(基礎看護学実習室)</li> <li>・救急蘇生を体験してみよう(成人看護学実習室)</li> </ul>
個別相談	大学生活、実習、卒業後の進路等についての個別相談

第4回：9月2日 テーマ「チーム医療を学ぼう！」

プログラム	内 容
チーム医療って何？	チームビルディングゲーム、チーム医療についての解説
キャンパスツアー	看護学部教員によるキャンパス案内
個別相談	大学生活、実習、卒業後の進路等についての個別相談

(2) 高等学校における出張講義

平成19年度に看護学部教員が行った出張講義数は、兵庫県内の高等学校10校、大阪府内の高等学校6校、計16校であった。講義内容は、高校の依頼や対象学年に合わせて、看護職について、看護とは何か、看護学部での学び、大学卒業後の進路、本学看護学部の紹介等であった。講義受講者数は述べ316名であった。

講 義 日	高 等 学 校 名	対 象	参 加 者 数
5月31日	兵庫県立尼崎稲園高等学校	3年生	3名
6月8日	大阪府立港高等学校	3年生	3名
7月13日	兵庫県立神戸高塚高等学校	2年生	20名
7月17日	兵庫県立猪名川高等学校	1年生	33名
9月3日	大阪府立東高等学校	1年生	15名
9月12日	兵庫県立西宮高等学校	1年生	35名
10月4日	兵庫県立姫路南高等学校	1年生	23名 保護者7名
10月10日	兵庫県立舞子高等学校	1年生	38名
10月17日	私立青凌高等学校	2年生	4名
10月19日	大阪府立旭高等学校	2年生	26名
10月29日	神戸市立須磨高等学校	1年生	10名
11月9日	三田松聖高等学校	1年生	18名 保護者10名
12月12日	神戸山手女子高等学校	1・2年生	24名
2月7日	福島女子高等学校	2年生	8名
2月14日	大阪府立市岡高等学校	2年生	5名
3月12日	兵庫県立舞子高等学校	1年生	34名

(3) 予備校、看護協会における説明会

予備校および看護協会で開催される、看護系進学希望者を対象とした集団説明会、および個別相談会に参加した。

開 催 日	高 校 名	対 象	聴講・相談者数
4月22日	東京アカデミー（集団説明）	受験生	24名
7月13日	関西看護医療予備校（個別相談）	受験生・保護者	20名
7月28日	兵庫県看護協会（個別相談）	受験生・保護者	27名
10月10日	東山学館看護受験ゼミ姫路校（個別相談）	受験生・保護者	13名
12月12日	神戸東山学館看護ゼミ（集団説明）	受験生	22名

(4) 来校見学会

高校生または保護者・進路指導教員が本学を見学し、看護学部教員が説明や体験実習を行った件数は7校、参加者は計約190名であった。

来 校 日	高 校 名	対 象 ・ 学 年	参 加 者 数
6 月 8 日	兵庫県立有馬高等学校	1 年 生	約40名
6 月11日	神戸市立神戸西高等学校	2 . 3 年 生	3 名
7 月25日	和歌山県立粉河高等学校	3 年 生	約40名
7 月31日	兵庫県立高砂南高等学校	PTA ・ 進路指導	約40名
8 月29日	富山県立石動高等学校	2 年 生	8 名
10月 6 日	育英高等学校	1 年 生	約50名
10月12日	兵庫県立香寺高等学校	1 年 生	約10名

### 3) デンマーク研修

#### (1) 研修目的

本学部においては、看護の実践能力及びチーム医療に必要な能力を備え、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえることのできる看護専門職の育成を目指している。その一環として、地方分権が進み、高齢者・障害者・こどもに関する諸制度が整備された福祉国家デンマークにて研修を行った。

#### 〈研修趣旨〉

本研修を通して、学生・教員ともに福祉先進国の医療・福祉・教育の現場や異文化に触れることにより、グローバルな視野を持ち、看護専門職ならびに協働する多職種に求められる役割・機能について考える機会とする。

#### 〈研修目的〉

- ①デンマークにおける福祉の現状と問題点、看護役割と看護活動を理解する。
- ②デンマークの民主主義に基づく医療・福祉・教育を学ぶことにより、日本の看護・福祉の現状や問題点について考える機会とする。
- ③異文化に触れることにより、グローバルな視野を持ち、今後の学習の糧とする。

#### (2) 研修概要

##### ①第1回研修

期 間：2007年 8 月27日（月曜日）～2007年 9 月 4 日（火曜日）

訪問都市：デンマーク コペンハーゲン・フュン島北部ボーゲンセ、フィンランド ヘルシンキ

研修受入：日欧文化交流学院（Danish Japanese Culture College）

企画責任：教授 竹田千佐子（基盤看護学）

参加教員：竹田千佐子（基盤看護学）、藤井真理子（家族支援看護学）、水野暢子（基盤看護学）、増田富美子（基盤看護学）、笠原知春（基盤看護学）、土屋智洋（基盤看護学）

##### ②第2回研修

期 間：2008年 3 月15日（土曜日）～2008年 3 月24日（月曜日）

訪問都市：デンマーク コペンハーゲン・フュン島北部ボーゲンセ、オーストリア ウィーン

研修受入：日欧文化交流学院（Danish Japanese Culture College）

企画責任：教授 竹田千佐子（基盤看護学）

参加教員：竹田千佐子（基盤看護学）、土田敏恵（基盤看護学）、笠原知春（基盤看護学）

参加学生：看護学部1年 17名



### (3) 研修内容

#### ①講義

- ・デンマーク王国の概要
- ・個性の尊重と育成を基礎にしたデンマークの教育制度
- ・民主主義に基づく医療・福祉
- ・デンマークのホームヘルパー教育と職務内容
- ・オーデンセ市の高齢者福祉制度概要

#### ②在宅重度身体障害者訪問

- ・身体障害者の在宅での生活を視察
- ・社会資源の利用状況
- ・身体障害者の QOL

#### ③高齢者センター視察研修

- ・高齢者センターの現状視察
- ・高齢者の生活状況と高齢者施設の役割
- ・センター内的高齢者住宅と介護施設の特徴

#### ④認知症グループホーム視察研修

- ・認知症グループホームの現状視察
- ・認知症グループホームの役割
- ・医療・介護スタッフの施設内や訪問看護・訪問介護における役割

#### ⑤オーデンセ大学病院見学

- ・大学病院（外来）視察
- ・医療制度と大学病院の役割
- ・インフォメーションセンターの役割とセンター内での看護職の役割

#### ⑥認知症関連病院見学（第2回のみ）

- ・精神科病院認知症病棟を視察
- ・認知症患者の治療・療養環境
- ・認知症対策と看護職者の役割

#### ⑦幼稚園視察研修（第2回のみ）

- ・幼稚園での幼児教育の現状視察
- ・幼児教育の概念

### (4) 研修報告会

日 時：2008年4月11日（金曜日） 16:30～

場 所：M114教室

内 容：学生はグループごとに、「個人尊重」の理念が具現化され、実際に行動されているデンマークの医療・福祉・教育の実情について報告した。

とくに、「民主主義150年」の歴史を背景に“人間が中心にいる福祉”を実践してきたデンマークの国民一人ひとりの民主主義への意識の高さが幼児期から培われ、その意識は社会福祉のみならず、労働環境の法律にまで及んでいる事実が印象的であったことが力説された。

各学生が大学での学びに新たな目標を抱くとともに、グローバルな視野で看護専門職としての将来像を模索する機会となったことを期待したい。

## 4 リハビリテーション学部

(理学療法学科・作業療法学科)

### 1. リハビリテーション学部の方針

人口の高齢化と少子化、及び慢性疾患の増加に伴う疾病構造の変化により、リハビリテーションが担う役割は、健康増進から障害の予防と治療にまで至り、より質の高い生活を推進するために大きな期待が寄せられている。これまでリハビリテーションは、傷病に伴う心身の障害、あるいは生まれながらにして障害を負う人々に対し、その軽減に努めるとともに、残された機能・能力を最大限に発揮させながら健康的側面を引き出すことにより、日常生活はもとより、家庭や職場などにおいて社会生活が営めるよう導くことを目的にしてきた。しかし、高齢化と医学・医療の進展に伴う対象者の拡大や障害の複雑化、また障害の予防や急性期段階における早期リハビリテーションの実施、さらには在宅を主とした地域密着型のケアが求められるようになるなど、対象者のニーズ拡大に対してきめ細やかで広範なサービスを提供していかななくてはならなくなっている。

このような多様なニーズのもとでは、多職種連携とチーム医療によるリハビリテーションの導入が、医療及び地域包括ケアの構築に欠かせない重要な課題となってきた。そのような課題に対応し効果的なリハビリテーションを実現するためには、保健・医療・福祉に係る幅広い知識と高度な専門性を備えた人材が要求されており、その傾向は近年ますます強くなっている。

これらの背景を踏まえ、本学は建学の精神のもと、求められるリハビリテーションを担い得る高度な専門性と豊かな人間性及び課題解決能力を備えた人材の育成を通じて、リハビリテーション分野の教育研究の発展及び地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することが主要な方針として開学した。本学部は理学療法学科と作業療法学科から構成されるが、各学科の特色と目指す活動範囲については次の方針に沿って教育し、教育と研究の発展を目指す。

### 2. 学科構成

#### 1) 理学療法学科

##### (1) 理学療法学科の特色

現在各国でスポーツ理学療法士の取り組みが盛んであり、スポーツ領域の専門理学療法士の専門教育及び認定が国際的に一般化されてきている。こういった背景を基にスポーツ理学療法分野の教育・研究を充実している。

そして、心身障害や加齢による心身機能低下の予防、機能の向上と維持のための理学療法のニーズは高まっており、それらの技術の基礎にある運動学の実践的知識は今や不可欠となっている。このような現状を踏まえ学生が運動学的解析能力を身に付けることのできるよう運動学教育を充実してきた。

##### (2) 卒業後の活動範囲

基礎医学の深い知識と高い運動解析能力を基に、理学療法の知識・技術を用いて適切に治療を行うことができ、先端医療から地域医療・地域ケアまで幅広い領域で活躍での活動を目指す。

#### 2) 作業療法学科

##### (1) 作業療法学科の特色

リハビリテーションの対象となる障害の領域が身体機能の障害から、高次脳機能障害や学習機能、精神機能の障害に拡大し、これらに対する認知的リハビリテーションへの期待が高まっていることから、全国的にニーズの高い高次脳機能障害教育や精神科系分野の教育を充実する。

個々の身体機能に合わせた医療的・職業的・教育的・社会的視点からの適切なリハビリテーションの供給が図られることが重要となっており、そういった観点から在宅復帰を想定したリハビリテーションを学ぶことができるよう地域医療と連携した教育を実践する。

#### (2) 卒業後の活動範囲

基礎医学の深い知識を基に、作業活動を通じ身体機能と心理面及び日常生活活動の向上などの治療計画を立案して実践できるだけでなく、先端医療から地域医療・地域ケアまで幅広い領域での活動を目指す。

### 3. 教育方針

#### 1) 教育理念、目的、目標

平成19年度のリハビリテーション学部は、理学療法学科5名、作業療法学科5名の計10名の教員組織によって教育・研究、及び社会貢献活動を開始し、関連行事を実施した。

##### (1) 教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることを目指す。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術、及び教育研究技術を育み、社会人として、また専門職として社会に貢献できる人材を育成する。

##### (2) 教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識を教授し、チーム医療実践の場において専門職として力を発揮することができる総合的实践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力、および生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成を目指す。

##### (3) 教育目標

①多様な文化や価値観を受け容れ、地域的・国際的感覚および豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕する精神をもって行動する。

②リハビリテーションを実践するにあたり必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解し基礎学力として身につける。

③効果的なリハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課題を柔軟に解決できる能力を身につける。

④様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の専門職者と有機的に連携協力できる総合的实践力を身につける。

⑤地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことが出来るよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身につける。

⑥医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身につける。

#### 2) 教員配置

リハビリテーション学部は、理学療法学科と作業療法学科の2学科で構成されており、下記の通り計10名の教員が配置された。

平成19年度リハビリテーション学部教員一覧

学 科	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
理学療法 学科 5 名	教授	P. D. Andrew	運動学	平成19年 4 月 1 日
	教授	川口浩太郎	運動器理学療法・スポーツ理学療法	平成19年 4 月 1 日
	教授	高橋 哲也	内部障害理学療法	平成19年 4 月 1 日
	教授	日高 正巳	地域理学療法	平成19年 4 月 1 日
	講師	坂口 顕	物理療法	平成19年 4 月 1 日
作業療法 学科 5 名	教授（学部長）	土肥 信之	リハビリテーション医学	平成19年 4 月 1 日
	教授	山田 大豪	精神障害作業療法	平成19年 4 月 1 日
	准教授	伊藤 斉子	発達障害作業療法	平成19年 4 月 1 日
	講師	有吉 正則	発達障害作業療法	平成19年 4 月 1 日
	講師	櫛辺 勇	身体障害作業療法	平成19年 4 月 1 日

3) 学生の受け入れ

平成19年度のリハビリテーション学部への入学者数として、理学療法学科44名、作業療法学科44名が入学した。

日 時	関 連 行 事 の 名 称
平成19年 4 月 2 日	辞令交付式
4 月 6 日	入学式、保護者会
4 月 6 日～10日	オリエンテーション
4 月11日	前期授業開始
5 月12日	開学式典
7 月15日	オープンキャンパス
7 月31日～ 8 月 4 日	早期臨床体験実習（Early Clinical Exposure ; ECE）
8 月11日、12日、 9 月 2 日	オープンキャンパス
9 月21日～28日	見学実習期間
10月 1 日	後期授業開始
10月 2 日	文部科学省調査
10月16日	解剖慰霊祭
11月10日	推薦入試
11月22日	法人設立記念日（休校）
平成20年 1 月 7 日	新年礼会 授業開始
1 月12日	実習指導者会議（作業療法学科）
2 月 2 日	前期入試
3 月 1 日	後期入試
3 月 8 日、 9 日	兵庫医療大学ワークショップ

#### 4. 教育活動

平成19年度における教育活動は、本学の教育要項に従い1学年次に対して実施した。幅広い教養と高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職者を育成するために、非常勤講師を迎えての講義や講演によって様々な教育内容を工夫した。

##### 1) 教育課程

###### (1) 実習の展開

臨床実習と講義関連実習の開始に先だって、科目責任者は臨床実習指導者または非常勤講師等と実習の目的と実施方法について協議した。本校の教員が前もって実習施設の下見を行い、実習内容を吟味し、学生に与えられた実習目的と目標を達成できるよう準備している。例として、9月21日～9月29日に実施された篠山病院への見学実習では、事前オリエンテーションに当該施設の臨床実習指導者を招聘して実習の心構えについて解説してもらい、当日の実習では1グループを10名とした4グループを編成して、当該施設の実習担当職員と本校の教員が指導にあたった。

###### (2) 進級要件

本学の教務規定に従い、当該学年次に配当されている科目のうち、全ての必修科目及び、進級に必要な選択科目の単位数について合格の判定を受けた学生が進級できていることになっている。平成19年度のリハビリテーション学部の学生の進級状況として、理学療法学科では休学1名・退学者2名、作業療法学科では休学・退学はなかった。従って、理学療法学科では休学・退学を除いた41名、作業療法学科では44名が進級した。

項 目	日 時	学 習 内 容
臨床実習	平成19年7月31日～8月3日	早期臨床体験実習 (Early Clinical Exposure ; ECE)
	9月21日～9月29日	見学実習
	平成20年1月12日	初期臨床実習指導者会議 (作業療法学科)
	2月14日～2月27日	初期臨床実習 A (作業療法学科)
講義関連 実習	平成19年10月3日～平成20年1月23日	作業療法学概論実習
	平成19年12月5日	障害当事者 (脳卒中後遺症) による体験談 (作業療法学科)
	平成19年10月5日～平成20年1月30日	作業科学実習 I (基礎) (織物・陶芸) (作業療法学科)
	平成19年11月30日・平成20年1月30日	高齢者の作業活動—いけばな・園芸—
	〃	いけばなの歴史・基本技術 (作業療法学科)
特別講演	平成19年12月13日	禁煙教育講演会 (全学部対象)
	平成20年1月17日	阪神・淡路大震災 (1・17) から学ぼう (全学部対象) (松田学長)



## 5. 研究活動（研究費、受託研究、その他）

### 1) 研究費、受託研究

平成19年度なし

### 2) その他、地域での研究研修活動〔学会以外〕

高橋 哲也	Safety management by the physical therapist	第1回カンボジア国際セミナー	プノンペン
有吉 正則	語りは人生に希望をもたらし得るか—MOHOの視点によるある高齢期女性のライフストーリーの理解	近畿作業行動事例検討会, 京都民医連中央病院2007.	京都
高橋 哲也	心疾患のリハビリテーション	淡路圏域地域リハビリテーション支援センター	洲本市
土肥 信之	長期臥床による廃用症候群の病態と治療	箕面市歯科医師会在宅歯科研修会	箕面市
川口浩太郎	腰痛・肩こりと姿勢の関係	兵庫医療大学 第1回公開講座	神戸市
伊藤 斉子	発達障害のある子どもの地域支援—子どもの特性を理解しよう—	大阪府作業療法士会 事業部 発達部門研修会	大阪市
	「心の理論」高次テスト（日本版）開発に関わるこれまでの研究成果	京都桂病院	京都市
高橋 哲也	心筋梗塞の理学療法	兵庫県理学療法士会研修部主催 新人向け講習会「心疾患の理学療法」	兵庫県
	Physical Therapy in Japan	JICA 医療技術スタッフ練成コース	神戸市
日高 正巳	統計学	日本理学療法士協会現職者講習会	兵庫県
	在宅リハビリテーション相談	兵庫医療大学地域連携実践センター	兵庫県
伊藤 斉子	発達の気がかりな子どもの心の世界	兵庫医療大学地域連携実践センター 第3回その1 公開講座	神戸市
	発達の気がかりな子ども相談 1	兵庫医療大学地域連携実践センター	神戸市
	発達の気がかりな子ども相談 1	ポートピア保育園	神戸市
	高機能自閉症と「心の理論」	大阪リハビリテーション専門学校	大阪市
	作業療法の実際、高機能自閉症と「心の理論」	大阪リハビリテーション専門学校	大阪市
櫛辺 勇	ハンドセラピーの実践と教育	京都ハンドセラピー研究会	京都市
	スプリント療法の基礎	第73回兵庫県作業療法士会研修会	兵庫県
	変形性肘関節症におけるセラピー	京都ハンドセラピー研究会	京都市
有吉 正則	健やかな子育て—就学準備のために—	兵庫医療大学 第3回公開講座	神戸市
	発達の気がかりな子供の相談 2	兵庫医療大学地域連携実践センター	神戸市
	発達の気がかりな子供の相談 2	ポートピア保育園	神戸市

## 6. 社会貢献

リハビリテーション学領域における理学療法と作業療法の啓蒙と各専門領域における委員会活動等、及び本学の社会的認知を深めることを目的として、リハビリテーション学部教員によって積極的な活動が展開された。

### 高等学校に対する啓発活動

高校訪問ガイダンスは5月26日～9月22日の間に以下の高校を訪問し、学部の概要を説明した。

県立西宮今津高校、県立夢野台高校、神戸学院大学附属高校、市立神戸西高校、県立津名高校、  
県立須磨東高校、大阪府立千里高校、私立大阪青凌高校、市立尼崎高校、県立明石清水高校、  
私立大阪国際大和田高校、県立宝塚西高校、県立須磨南高校、県立尼崎西高校、県立姫路西高校、  
県立伊川谷北高校、県立三田西陵高校、県立伊丹高校、県立日高高校、私立仁川学院高校、  
県立社高校、私立神戸野田高校、大阪府立三島高校、県立須磨友が丘高校、市立尼崎稲園高校

### 担当教員

櫛辺勇、伊藤斉子、山田大豪、有吉正則、日高正巳、P.D.Andrew

以上のほか、東山学館主催の大学説明会（10月10日；姫路市民会館）において学部ガイダンスを行った。

大学見学会は7月6日に大阪、兵庫の高校教員対象に見学会が開催されたほか、県立高砂南高校のPTA見学会、富山県立石動高校2年生対象の見学会、和歌山県立粉河高校、育英高校、県立香寺高校、県立御影高校、県立高砂高校、伊川谷高校、堺高校、淀之水高校を対象とした見学会が開催された。

## 5 事 務 部

### 1. 神戸キャンパスオフィス

本学の事務組織は、学生数・教員数が段階的に増加していく中で、完成年度と開学当初とでは大学自体の状況に大きな変化が予想される。そこで、開学にあたっての事務組織については、これら状況の変化に柔軟に対応するために、従来の縦割り組織（部課係制）ではなく、類似性のある業務を大きくグループ化した上で、業務を包括的に捉え、課題毎に問題解決できる横断的な担当制で、機動的に業務を遂行していく形態を取り入れた。

また、開学当初の職員は、日常業務への対応と翌年度以降への創造的業務等を重複・並行して実施するため、グループ内での協力体制、他業務への理解・協力を深める中で、その後の効率的な業務体制の確立をめざす必要があった。

当初の人員配置については、各業務グループでの担当者間の相互協力を前提に、専任職員の配置は役職者を含めて最小限に留め、業務の繋関に応じて非常勤者、派遣職員等による補助的スタッフを加える体制とした。

法人内の他の事務組織との関連においては、新大学の自律性を重視した業務区分、裁量権等については、学校法人内での医学部、附属病院及び総務部（人事を含む）、財務部等の法人機能との係りと責任を明確にする必要から、法人機能の集約化（法人本部構想）の中で調整されるものとなっている。

また、新大学における当面の経営・管理について、西宮キャンパスからの支援及び連携が非常に重要となるため、より法人機能と密着した型で新事業を推進できるよう、現行の法人事務局下の1部署として位置付けた組織でスタートした。

このようにして開学を迎えた神戸キャンパスオフィスは、嵐のように押し寄せる現実的課題の対応に追われ、現実的にはスタッフの意思疎通・業務の標準化・情報の共有化・スキルとマナーの涵養などが、残念ながら後追い状況にある。また、補完的に計画された派遣職員の業務は繁忙の中で、専任職員と同様に責任ある業務を分担する状況にある。

法人本部との業務連携は、業務の標準化及び迅速化が望まれるが、法人本部からの権限の移譲及び各業務システムの整理・統合が遅れていることから、現時点においては業務上、多くの課題を残している。

2年目を迎えるにあたっては、これらの課題を克服するとともに、学年次進行に伴って業務量はネズミ算的に増加することから、その解決も迫られている。神戸キャンパスオフィスは業務を無難に遂行するだけでは不足であり、新大学のエンジンルームとして、その目標達成の支援エネルギーと為らなければならない。

## 2. 神戸キャンパスオフィス組織・職務分掌・人員配置表

平成19年度 神戸キャンパスオフィス組織・職務分掌・人員配置表

H20/3/31現在

第1期（平成19年4月～平成20年3月） 1学年＝380人体制

神戸キャンパス  
オフィス

グループ

担当業務

職務分掌

人員

GM1

教育・学生支援G

薬学部  
看護学部  
リハビリテーション学部  
共通教育  
学生生活支援  
学生福利厚生  
保健室  
学生相談室

入学・就職G

就職支援  
(キャリア支援を含む)  
入試業務

図書館・情報G

図書館  
学術情報

管理・運営G-A

庶務  
地域連携

管理・運営G-B

研究推進  
会計  
施設

各学部に係る教務事務  
入学、履修管理、カリキュラム、試験等  
教養科目等に係る教務事務  
臨床実習の調整等  
学生の生活指導、課外活動等  
奨学金、アルバイト支援等  
学生の健康管理  
学生相談

就職活動の支援  
キャリア形成の支援  
入試に係る企画、管理運営  
学生募集活動、調査、分析

図書館の管理・運営  
学術情報、メディア等サービス、管理

庶務、文書、行事、広報、秘書等  
地域連携の窓口、市民講座等の企画

産官学連携、共同研究等推進・支援  
諸費出納、調達、学費管理、科研費等  
営繕、日常保守管理等

人員合計

GM 1  
M 5  
L 4  
専任 13  
派遣 12  
計 35

保健師 1  
学生相談室 非1

GM 1  
L 1  
専任 3  
派遣 0

GM 1  
L 0  
専任 2  
派遣 4

GM 1  
L 1  
専任 2  
派遣 4

GM 1  
L 0  
専任 2  
派遣 1

GM 1  
M 5  
L 4  
専任 13  
派遣 12  
計 35

保健師 1

(計 36)

ゼネラル マネージャー	グループ	マネージャー	リーダー	スタッフ（派遣職員含む）
佐々木 周一 ／ 菊地 良平	教育・ 学生支援 グループ	北江 正幸  (1名)	加藤 慎司 宿院 輝久  (2名)	糟谷 健太郎 森岡 朋子 野々村 祥子 英 真波 白神 知佳 辻本 真輔 中村 紗恵 柿本 ひろみ  (8名)
	入試・就職 グループ	山本 晴生 ／ 中村 高志  (1名)	岡島 洋仁  (1名)	小堀 玲子 井上 麻衣 山崎 邦弘 安居 花恵 奥 律子  (5名)
	図書館・ 情報 グループ	中村 高志 ／ 井出 唯敬  (1名)	(錦織 典子)  (1名)	永田 悟士 中西 智子 市村 登和 大黒 麻衣 竹本 桃子 岡垣 裕子  (6名)
	管理・運営 グループ	住 勝実 高田 泰彦  (2名)	小川 孝博  (1名)	金岡 明博 秋田 理恵 坂口 美恵子 若栗 知子 田中 啓介 安國 真理子 楠本 理絵 長田 祐子 深澤 朱理  (10名)

／は途中交代 ( ) は途中退職

各部門の活動

### 3. 施設の利用

日 付	種 類	行 事 名	場 所	主 催 者	窓口担当者
平成19年 9月21日～ 9月23日	講習会	日本理学療法士協会現職 者講習会	M113 講義室	日本理学療法士協 会	日高 正巳 (本学)
平成19年 9月22日	その他	兵庫医科大学旧第二内科 教室同窓会	オクタ ホール・ レストラン	垣下榮三共通教育 センター長	垣下 榮三 (本学)
平成19年 10月18日	研究会	神戸ユニバーサルデザイ ン商品開発研究会 例会	M115 講義室	神戸ユニバーサル デザイン商品開発 研究会	磯 博行 (本学)
平成19年 11月18日	学会	肝がん撲滅フォーラム 2007	オクタ ホール	社団法人 日本肝臓学会	兵庫医科大学 肝・胆・膵科 西口 修平
平成18年 11月23日	講習会	ジャパンハートクラブ第 20回運動処方講習会	オクタ ホール	NPO法人ジャパン ハートクラブ	高橋 哲也 (本学)
平成19年 12月 8 日	その他	第48回近畿医学検査学会 シンポジウム打ち合わせ 会議	M107 講義室	近畿臨床検査関連 三団体学会同時開 催委員会	(社)兵庫県 臨床検査技師会
平成19年 12月 8 日	研修会	第 4 回中小病診部研修会	M201 講義室	兵庫県 病院薬剤師会	八野 芳巳 (本学)
平成20年 1月20日	講習会	平成19年度認定実務実習 指導薬剤師養成講習会	オクタ ホール	(社)兵庫県薬剤師会	八野 芳巳 (本学)
平成20年 1月20日	講習会	第 4 回国際教育セミナー	M113 講義室	(社)日本理学療法士 協会国際部	高橋 哲也 (本学)
平成20年 2月10日	講習会	第15回海外技術協力セミ ナー	M113 講義室	(社)日本理学療法士 協会国際部	高橋 哲也 (本学)
平成20年 3月15日	学会	第18回兵庫体育・スポー ツ科学学会大会	オクタ ホール・ レストラン	兵庫体育・ スポーツ科学 学会大会	賀屋 光晴 (本学)



# 神戸ポートアイランド4大学連携事業

## 1 実務者会議

### 1. 4大学連携協定締結

神戸ポートアイランド内にキャンパスを設置する神戸学院大学、神戸夙川学院大学、神戸女子大学（同短期大学含む）と兵庫医療大学の4大学は、大学間の教育・学術に関する連携協力並びに地域交流に貢献するために、「神戸ポートアイランド・キャンパス4大学連携協定」を締結した。締結にあたり、4大学の学長による調印式が、平成20年1月29日に神戸学院大学キャンパス内にて執り行われた。

4大学間の連携については、平成19年4月の開学時から様々な観点で協議を重ねてきたが、これより正式に「神戸ポートアイランド4大学連携実務者会議」の下、入試広報、図書館、学生、教務、エクステンションの5部会を置き、具体的連携施策の実施に向け取り組んでいくことになる。

### 2. 4大学連携リレー講座「健康を考える」

開学イベントの第2弾として、6月の土曜日ごとに、神戸女子大学、神戸学院大学、神戸夙川学院大学、兵庫医療大学が、持ち回りで公開講座を実施し、本学は、平成19年6月9日（土）に「健康を考える」をテーマに、薬学部 青木 俊二教授、看護学部 藤井 真理子教授、リハビリテーション学部 川口 浩太郎教授が公開講座を開講した。

### 3. 4大学連携「防犯・護身術講習会」

平成19年11月28日・29日の2日間、神戸ポートアイランド4大学連携事業として4大学合同の「防犯講習会・護身術講習会」を兵庫医療大学のオクタホール・レストランで開催した。この講習会は、平成19年4月に兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸夙川学院大学がポートアイランドに開学し、多くの学生がポートアイランドに通学するようになり、学生の防犯対策として4大学合同で開催したものである。

## 2 部 会

### 1. 入試広報部会関係

#### 1) 「ボーアイ“学び”ライブ」の開催

平成19年5月26日に開催した。当日は、本学オクタホールにおいて、元日本代表ラグビー選手の大八木淳史氏をお迎えし、記念講演会を開催した。また同時に、神戸夙川学院大学アリーナ会場にて「仕事発見フェア」と題し、4大学から多種多様な職業紹介ブースを出展するとともに、4大学キャンパスの施設見学会&スタンプラリーを催し、多数来場いただいた。

これに引き続き、6月2日から4週にわたり4大学持ち回り形式によるシリーズ公開講座を実施し、本学においては6月9日に3学部教員によるリレー講座「健康を考える」を開催した。ご参加頂いた方には、「腰痛・肩こり」や「子育て支援」「サプリメント・健康食品」をテーマとした講演会を行った。

#### 2) 2008年度4大学合同オープンキャンパスの企画

4大学入試広報部会において、2007年度の活動の評価と今後の活動について協議を行い各大学で7—8月に開催するオープンキャンパスについて、2008年度は4大学の合同開催日程を設ける方向で協議、調整を図ることになった。

### 2. 教務部会

本教務部会の最大のテーマは4大学単位互換制度の確立である。

教務部会は、各大学持ち回りで、教員部会を2回、実務者会議を4回計6回開催した。前半は、各大学の学年暦、コンピューターシステム、時間割、出欠管理などの関連情報の交換を行い相互理解から

始めた。後半は、前半の相互理解を踏まえ、本学会の主目的である単位互換制度を行ううえでの問題点、課題について教員・事務レベルでの検討を進めた。

その結果、提供科目はポートアイランド・キャンパス内で開講されている科目で、提供大学の諸規則を変更せず、複数の科目を単位互換科目として提供することを前提に、平成21年4月開講を目標とすることが合意された。

### 3. 学生部会

学生部会は、開学直前の平成19年3月に第1回を開催し、意見を交換した。

学生部会のテーマは4大学の連携による学生の安全、防犯、学生指導のあり方など広範囲に及ぶが、情報を交換し各大学有意義な会議を持つことができたと考える。今後、大学間での共通行事や相互参加がさらに進むことが期待できる。

第1回の会議は、平成19年3月12日から平成20年2月20日までに7回行われ、学園祭、クラブ活動、の共催について、学生の安全・安心にかかる防犯ネットワーク、学生用ロッカーの利用、学生への連絡および配布物、喫煙、禁煙、夏季休業中の学校対応、学生指導、みなとこうべ海上花火大会、学園祭、学友会、防犯講習会・護身術講習会等、次づぎと起こる学生に係る事柄に対し、対策を協議し協力をした。

### 4. 図書館部会

ボーアイ4大学の連携事業の一環で始まった図書館部会は、平成19年1月12日(金)に第1回が開催され、平成18年度内に2回、平成19年度内に6回開催された

第1回4大学図書館連携連絡会から第5回(平成19年6月12日(火)神戸学院大学)では、各図書館の現状と概要が報告され、雑誌目録の交換、貸出サービス、コンソーシアム、共同HPを立ち上げ、図書館ガイド、MAPの作成等、多義にわたり検討された。また、平成20年9月18日から9日にかけて行われる全国図書館大会への協力要請があった。今後は定期的(季間開催とし6、9、12、3月)に開催することにした。

定期的開催になったの2回目(第7回)は本学で行われ、相互利用状況報告については報告書の様式を決め報告すること、相互利用促進として、各大学の学部関係、学科関係で特徴ある資料を紹介し、各大学図書館で行われる展示会等のポスターの交換を行い、また図書館スタッフの技術向上を目的として考え交流会(見学会)が実施された。

神戸夙川学院から地域住民へのサービスとして、図書の貸し出しを行うことが報告された。

本学は、館員教育を兼ねた図書館見学(カウンター業務と図書館統計)を3月24日(月)、26日(水)に実施した。

### 5. エクステンション講座実務者会議

4大学連携エクステンション講座実務者会議は、他の部会に比べ発足時期が遅くなり、初会合が平成19年9月に開催され、その後2か月に1回のペースで今年度は4回開催した。

当該部会は、まず各大学で開催されている独自資格講座を持ちよることから連携を進めるとし、資格取得のために後方支援する活動を開始した。

今後は、4大学連携による相互協力により、資格を取得させることばかりに着目せずに、職業人意識、社会人としての必要最低限のマナー・スキル、キャリアの作り方のヒント等を講演会開催や、生涯学習支援に向けた取り組みを展開していく予定である。

主な協議事項は、次のとおりである。

- ①各大学におけるエクステンション講座の実施状況について
- ②今後の連携講座実施に係る進め方について
- ③平成21年度開講予定連携講座に係る実施方法及び広報について

## 兵庫医療大学年報 平成19年度

発行日	平成21年2月1日
編集者	末廣 謙 (図書館長)
発行	兵庫医療大学 〒650-8530 神戸市中央区港島1丁目3番 6
電話	078-304-3000
FAX	078-304-2700
印刷	株式会社小西印刷所



# Hyogo University of Health Sciences



学校法人 **兵庫医科大学**

西宮市武庫川町1番1号 TEL.0798-45-6111